

**24001**  
**社会学概論**

S 大関雅弘 石井香江

〔授業題目〕 社会と個人との論理的関係

〔概要〕 この授業では、社会学的なものの方・考え方の基本にある、社会と個人との関係を論理的に把握する。その際に、社会学の基本概念について説明を行う。社会学が誕生する経緯についても述べる。

〔到達目標〕 学生自身が社会学とはどんな学問であるのか、その概略を理解できるようにする。

〔授業計画〕

- |                 |             |
|-----------------|-------------|
| 1 社会学的なものの方・考え方 | 9 社会関係と社会集団 |
| 2 「社会」とは何か      | 10 階級と階層    |
| 3 「個人」とは何か      | 11 国家と市民社会① |
| 4 自己と他者         | 12 国家と市民社会② |
| 5 自我の社会性        | 13 社会学の形成①  |
| 6 社会的行為         | 14 社会学の形成②  |
| 7 行為と構造         | 15 定期試験     |
| 8 文化と社会         |             |

〔テキスト〕 なし

〔参考文献〕 なし

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 70%、平常点 30%

**24002**

**社会学理論Ⅰ**

S 大関雅弘

㊦**社会学理論Ⅰ**

〔授業題目〕 現代社会学理論の出自

〔概要〕 19世紀末から20世紀前半にかけて、「第2世代」の社会学者によって現代社会学理論の基礎が築かれた。その背景にある西欧社会の変容と関連させながら、彼らの社会学理論の特徴を述べていく。

〔到達目標〕 現代社会学理論の基礎であるE・デュルケーム、M・ヴェーバー、G・H・ミードの理論を社会のあり方と関連づけて理解すること。

〔授業計画〕

- |                |                  |                 |
|----------------|------------------|-----------------|
| 1 社会学史の概略      | 7 『プロ倫』を読む①      | 12 ヨーロッパ型大衆社会論  |
| 2 デュルケームの社会学理論 | 8 『プロ倫』を読む②      | 13 フロム『自由からの逃走』 |
| 3 『自殺論』を読む①    | 9 アメリカ社会学の興隆     | 14 アメリカ型大衆社会論   |
| 4 『自殺論』を読む②    | 10 G・H・ミードの社会学理論 | 15 定期試験         |
| 5 ヴェーバーの現代社会認識 |                  |                 |
| 6 ヴェーバー社会学の方法  | 11 大衆社会としての現代    |                 |

〔テキスト〕 なし

〔参考文献〕 講義中に適宜指示する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 70%、レポート 30%

**24003**

**社会学理論Ⅱ**

W 大関雅弘

㊦**社会学理論Ⅱ**

〔授業題目〕 現代社会学理論の展開

〔概要〕 この講義では、20世紀後半から現在に至るまでの有力な社会学理論について述べる。パーソンズのシステム理論、「意味学派」の諸理論を述べた後に、現代の社会学理論の課題を明らかにしていく。

〔到達目標〕 かなり抽象的で高度な社会学理論の論理を把握し、その論理をふまえて現代社会を見る眼を養うこと。

〔授業計画〕

- |                 |                  |
|-----------------|------------------|
| 1 現代の社会学理論の諸潮流  | 9 フランクフルト学派の批判理論 |
| 2 パーソンズのシステム理論① | 10 ハーバーマスの社会理論   |
| 3 パーソンズのシステム理論② | 11 ルーマンの社会システム論  |
| 4 マーティンの機能主義理論  | 12 ブルデューの文化再生産論  |
| 5 「意味学派」の社会学の特徴 | 13 世界システム論とその後   |
| 6 現象学的社会学       | 14 最近の社会理論の動向    |
| 7 エスノメソドロジー     | 15 定期試験          |
| 8 シンボリック相互作用論   |                  |

〔テキスト〕 なし

〔参考文献〕 講義中に適宜指示する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 70%、レポート 30%

## 24004

### 家族社会学

S / W 千葉モト子

#### ㊤家族社会学

〔概要〕 いまアメリカの家族は揺れている。めざましい勢いで進歩する生殖技術、インターネットによる養子の斡旋。結婚する夫婦の半数以上が経験する離婚と再婚。同性愛者のカップルとその養子。日本の家族もこのゆらぎの中に入ったようだ。私たちは「家族」に何を求めているのか、現代家族の様々な問題について考えていきたい。

〔到達目標〕 現代社会における家族の実態と諸問題について分析し、これからの家族のあり方について考察する。

〔授業計画〕

- |                    |   |
|--------------------|---|
| 1 変貌する家族           | 9 共働き家族   |
| 2 家族の歴史と形態         | 10 シングル・ペアレント・ファミリー（ひとり親家族）<br>とステップ・ファミリー（継親子家族） |
| 3 愛の理論と類型          | 11 家族の危機—離婚                                       |
| 4 家族と性             | 12 親子の断裂  |
| 5 配偶者選択のメカニズム      | 13 家庭内暴力  |
| 6 新しい結婚の動きとシングルライフ | 14 少子高齢社会と家族                                      |
| 7 家族とジェンダー         | 15 定期試験   |
| 8 家族とセクシズム         |   |

〔テキスト〕 四方・千葉他著 『家族の崩壊』（ミネルヴァ書房）N.ベノクレイティス&J.フィーギン著（千葉モト子訳）『セクシャル・ハラスメントの社会学』（法律文化社）

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 講義・討論

〔成績評価の方法〕 中間レポート 40%、定期試験 40%、平常点 20%

## 24005

### 非行・犯罪社会学

S 齊藤素子

#### ㊤犯罪非行心理学

〔授業題目〕 犯罪研究

〔概要〕 犯罪は、その社会のありようを映す鏡であるといわれる。それはどういうことなのだろうか。この授業では、犯罪報道、犯罪統計、事例研究、犯罪理論研究を通して、非行や犯罪に関する視点を養う。

〔到達目標〕 犯罪研究の基礎になる知識を習得する。

〔授業計画〕

- |                       |            |
|-----------------------|------------|
| 1 オリエンテーション           | 9 犯罪理論（2）  |
| 2 犯罪・非行とは何か           | 10 犯罪理論（3） |
| 3 メディアは犯罪・非行をどう伝えているか | 11 犯罪理論（4） |
| 4 犯罪白書を読む             | 12 犯罪理論（5） |
| 5 犯罪白書を読む             | 13 犯罪理論（6） |
| 6 刑事事件手続きの流れ          | 14 犯罪研究の動向 |
| 7 少年事件手続きの流れ          | 15 まとめ     |
| 8 犯罪理論（1）             |            |

〔テキスト〕 矢島正見、丸秀康、山本功 編、『犯罪社会学入門』、学陽書房

〔参考文献〕 『犯罪白書』 高橋良彰著 『新犯罪社会心理学』 学文社

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 90%、平常点 10%

## 24006

### 異文化コミュニケーション論

W 山本 誠

#### ㊤異文化コミュニケーション論

〔授業題目〕 異文化と自己内省

〔概要〕 異文化理解の学である文化人類学の知見を初學者向けに紹介する。特定の地域に偏ることなく、世界各地の民族誌的事実を具体的に提示しつつ、人類学的思考のエッセンスをパラフレーズする。

〔到達目標〕 異文化を知ることで自らを確認し、その上で両者を相対化しうる感受性を多少でも身につけること——これが授業のめざすところである。

〔授業計画〕

- |                 |                    |
|-----------------|--------------------|
| 1 オリエンテーション     | 9 “ ” (2)          |
| 2 「文化」をめぐって     | 10 インセスト・タブーと文化（1） |
| 3 文化相対論と普遍主義の葛藤 | 11 インセスト・タブーと文化（2） |
| 4 人種概念をめぐって     | 12 贈与と交換（1）        |
| 5 構築される「民族」     | 13 “ ” (2)         |
| 6 分類とタブー（1）     | 14 文化決定論の限界と可能性    |
| 7 “ ” (2)       | 15 まとめ             |
| 8 通過儀礼と祝祭（1）    |                    |

〔テキスト〕 適宜プリントを配布する。

〔参考文献〕 浜本満・まり子編 『人類学のコモンセンス』（学術図書出版）

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 レポート 90%、平常点 10%（予定）



24007

国際関係論

W 梁 先姫

㊦国際関係論

〔授業題目〕 国際経営論

〔概要〕 国際経営論は、経済学・経営学・社会学といった伝統的な学問領域に隣接する新しい研究分野であり、企業の多国籍化、グローバル化の結果として誕生した学問である。多くの企業は成長を求めて国境を超えた活動を繰り返す。国際化の先進事例、国際化の人材育成、国際経営の行動基準、国際化のための戦略を考察する。

〔到達目標〕 グローバル企業が社会にもたらす、正と負の影響を企業と一般社会の視点から理解する。

〔授業計画〕

- |                        |                      |
|------------------------|----------------------|
| 1 国際経営の基礎理論 (1)        | 9 国際人的資源管理 (1)       |
| 2 国際経営の基礎理論 (2)        | 10 国際人的資源管理 (2)      |
| 3 国際経営の課題 (1)          | 11 グローバルな組織のデザイン (1) |
| 4 国際経営の課題 (2)          | 12 グローバルな組織のデザイン (2) |
| 5 グローバル戦略構想 (1)        | 13 国際経営とリスク管理        |
| 6 グローバル戦略構想 (2)        | 14 国際経営の行動基準         |
| 7 物流と情報のグローバル・システム (1) | 15 定期試験              |
| 8 物流と情報のグローバル・システム (2) |                      |

〔テキスト〕 安室憲一、国際経営 (経営学入門シリーズ)、日経文庫

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 40 %、レポート 40 %、平常点 20 %

24008

マス・コミュニケーション論

S / W 里見 脩

〔授業題目〕 マス・コミの現状と問題点

〔概要〕 情報に関する基礎および「送り手」であるマスコミの現状と問題点を把握する。それを通して「受け手」である我々が、マスコミの送信する情報 (ニュース) と接する際の心構えを学ぶ。

〔到達目標〕 メディア・リテラシー (Media literacy) = メディアを読み解く能力を養成する。

〔授業計画〕

- |                      |                |
|----------------------|----------------|
| 1 オリエンテーション          | 9 歴史③イエロー・ペーパー |
| 2 定義①「情報」とは何か        | 10 歴史④テレビの誕生   |
| 3 定義②「ニュース」「ジャーナリズム」 | 11 歴史⑤テレビの発展   |
| 4 基礎理論①情報の方程式        | 12 現状①戦争報道     |
| 5 基礎理論②マスコミの理論 (1)   | 13 現状②倫理       |
| 6 基礎理論③マスコミの理論 (2)   | 14 現状③情報社会の問題点 |
| 7 歴史①新聞の誕生           | 15 定期試験        |
| 8 歴史②言論の自由           |                |

〔テキスト〕 随時レジュメを配布する。

〔参考文献〕 春原昭彦 武市英雄編『日本のマス・メディア』日本評論社

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 60 %、平常点 40 %

24009

産業社会学

S / W 中原隆幸

㊦産業社会学

〔授業題目〕 大量生産・大量消費社会の構造

〔概要〕 私たちが日々過ごしている社会はどのようにしてできたのでしょうか? 本講義ではこのような疑問から出発して私たちの社会の「経済的構造」を探究してゆきます。

〔到達目標〕 過去から現代に至る社会の「経済構造」の仕組みを理論的に理解できる様にする。

〔授業計画〕

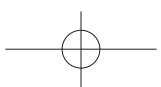
- |                     |                       |
|---------------------|-----------------------|
| 1 「社会」とは何か          | 8 大量生産社会の到来           |
| 2 「経済」とは何か          | 9 テーラー主義とフォード主義 (1)   |
| 3 「モノを造る」ということ      | 10 " (2)              |
| 4 分業と市場の発展 (1)      | 11 大量消費はいかにして可能になったのか |
| 5 " (2)             | 12 「消費社会」の発展と様々な問題の発生 |
| 6 生産性の向上と規模の経済性 (1) | 13 「モノ化」する社会 (1)      |
| 7 " (2)             | 14 " (2)              |

〔テキスト〕 特に指定しない。

〔参考文献〕 適宜講義中に指示する。

〔授業形態〕 講義・対話

〔成績評価の方法〕 中間試験 30 %、定期試験 70 %



## 24010 現代ビジネス論

W 仁平征次

〔概要〕 職業人に必要な知識を学ぶ。産業・会社制度・会社組織など企業社会の制度、就業制度・納税制度など個人と社会の関係、生甲斐、労働の意義、資格など個人の立場からの問題を考える。

〔到達目標〕 将来の職業生活を考える様々な側面、職業観・労働観、職業選択を考える能力やヒントの習得を目指す。

〔授業計画〕

- |                  |              |
|------------------|--------------|
| 1 オリエンテーション      | 9 納税、社会保険の制度 |
| 2 産業の分類とリーディング産業 | 10 生甲斐：動機付理論 |
| 3 企業の形態          | 11 働くことの意義   |
| 4 株式会社の制度        | 12 職業選択      |
| 5 ライン部門          | 13 インターンシップ  |
| 6 スタッフ部門         | 14 資格制度      |
| 7 就業制度           | 15 定期試験      |
| 8 雇用問題           |              |

〔テキスト〕 仁平征次著『ビジネス実務講義ノート』（仁平ビジネス実務教育研究所）

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 %、レポート 20 %、平常点 20 %

## 24021 社会心理学 ⑩社会心理学

W 田中晶子

〔概要〕 社会心理学の概論である。まず、社会心理学とはどのような学問であるかについて概説した後、社会的認知、社会的影響、人間関係、集団の4つのテーマから基礎的なトピックスを紹介する。

〔到達目標〕 社会心理学の基本的知識と考え方を理解することを目標とする。

〔授業計画〕

- |                     |                    |
|---------------------|--------------------|
| 1 オリエンテーション         | 9 社会的影響② 説得        |
| 2 社会心理学とは           | 10 社会的影響③ 世論形成     |
| 3 社会の中の「こころ」        | 11 人間関係① 援助行動とサポート |
| 4 社会的認知① 印象形成       | 12 人間関係② 社会的交換     |
| 5 社会的認知② 帰属         | 13 集団① 集団の意思決定     |
| 6 社会的認知③ ステレオタイプと偏見 | 14 集団② リーダーシップ     |
| 7 社会的認知④ 社会的推論      | 15 定期試験            |
| 8 社会的影響① 同調と服従      |                    |

〔テキスト〕 なし（講義時に資料を配布します）

〔参考文献〕 無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治『New Liberal Arts Selection 心理学』（有斐閣）

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 100 %

24022

社会調査法Ⅰ

W 指田隆一

㊦社会調査法Ⅰ

〔概要〕【前提科目：なし】社会調査史と社会調査の意義、社会調査の目的、調査方法論、調査倫理、調査の種類と実例、量的調査と質的調査、統計的調査と事例研究法、国勢調査と官庁統計、学術調査、世論調査、マーケティング・リサーチなどのほか、調査票調査やフィールドワークなど、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的な事項について解説する。平均、分散の計算を含む。

〔到達目標〕社会調査の意義・目的と歴史を理解する。また、基本的な社会調査の種類、量的と質的調査の実施の過程に関する専門用語、考え方と、社会調査の倫理を理解する。

〔授業計画〕

- |                                     |                               |
|-------------------------------------|-------------------------------|
| 1 社会調査史（19世紀まで）【Web ページ】            | 資料検索)                         |
| 2 社会調査史（20世紀以降）【Web ページ】            | 9 調査票調査の手順（標本抽出）              |
| 3 社会調査方法のバリエーション（観察、面接、調査、実験、質的、量的） | 10 調査票調査の手順（調査票作成、データ収集と整理）   |
| 4 社会調査の目的・用途と意義                     | 11 調査票調査の手順（集計・分析から報告まで）      |
| 5 調査倫理【Web】 ページ                     | 12 質的調査の手順（参与観察）              |
| 6 調査の種類と実例（国勢調査と官庁統計、世論調査）          | 13 質的調査の手順（面接）                |
| 7 調査の種類と実例（マーケティング・リサーチ、学術調査）       | 14 質的調査の手順（ドキュメント分析）【Web ページ】 |
| 8 調査票調査の手順（問題・理論から設計まで、             | 15 定期試験                       |

〔テキスト〕 酒井隆 2002、『調査・リサーチ活動の進め方』（日経文庫 855）、日本経済新聞社、Web ページ

〔参考文献〕 適宜紹介する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 100 %

24023

社会調査法Ⅱ

S 指田隆一

㊦社会調査法Ⅱ

〔概要〕【前提科目：社会調査法Ⅰ】調査票を使った調査の具体的な方法を解説する。調査票調査は、社会学分野のデータ収集方法としてだけでなく、心理学研究の調査方法および世論や市場動向の調査方法としても重要である。また、調査票調査の知識は既存の調査結果を正しく理解するために必須であると考えられる。この科目では調査目的の明確化、仮説の構築、調査の企画設計、標本抽出法、調査票の作成、調査の実施方法、調査データの整理といった調査の実践にかかわる内容をとりあげ説明する。なお、理解を深めるために、作業を講義時間外に行います。

〔到達目標〕調査の設計と実施の具体的な作業を理解し、実施できるようになる。特に、目的と対象者に適した質問紙の作成と、層化確率比例抽出法の論理を理解して応用すること。

〔授業計画〕

- |   |   |
|---|---|
| 1 (Ⅰ) 社会調査とは 社会調査の概略  | 8 (Ⅳ) 標本抽出 標本誤差と非標本誤差（標本の大きさの決定）              |
| 2 (Ⅱ) 定量的手法の種類  | 9 (Ⅴ) 調査票の作成 調査票の作成手順の概略                      |
| 3 (Ⅲ) 定量的手法の一般的手順と調査の設計（仮説構成、仮説から調査項目、調査対象者・調査地域の設計、調査スケジュール） | 10 (Ⅴ) 調査票の作成 質問文・回答 選択肢の設計（ワーディング、質問・選択肢の配列） |
| 4 (Ⅳ) 標本抽出 確率抽出法（単純無作為抽出法、系統抽出法）                              | 11 (Ⅴ) 調査票の作成 尺度構成                            |
| 5 (Ⅳ) 標本抽出 多段抽出法（確率比例抽出法と等確率抽出法）、層化抽出法                        | 12 (Ⅴ) 調査票の作成 回答形式                            |
| 6 (Ⅳ) 標本抽出 確率比例 2 段抽出法の実際                                     | 13 (Ⅵ) 調査の実施方法 調査票の配布と回収方法 手順と実際              |
| 7 (Ⅳ) 標本抽出 その他の抽出法（割当抽出法、住宅地図を用いた割当抽出法、RDD 法など）               | 14 (Ⅶ) 調査データの整理（エディティングからデータ・チェック、欠損値指定まで）    |
|   | 15 定期試験                                       |

〔テキスト〕 島崎哲彦、2007『社会調査の実際 統計調査の方法とデータの分析』学文社

〔参考文献〕 原純輔・海野道郎、2004、『社会調査演習』（第2版）、東大出版会、Web ページのほか適宜紹介する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 %、レポート 30 %

24024

社会意識論

W 大関雅弘

㊦社会意識論

〔授業題目〕「価値」と人間行動

〔概要〕人間行動の基本となる「価値」がどのような性質を持つのか論理的に検討し、そうした「価値」が、個々人の抱く「価値意識」や「社会意識」の形成とどのように関連しているのかを明らかにする。

〔到達目標〕個人と社会とをつなぐ「価値」の性質を知ることにより、社会学的なものの見方・考え方の基本を理解しつつ身につける。

〔授業計画〕

- |                  |               |               |
|------------------|---------------|---------------|
| 1 社会意識論の課題       | 6 主観主義の立場     | 12 人間行動と「価値」② |
| 2 「価値」の社会学的考察    | 7 客観主義の立場     | 13 社会学的人間観    |
| 3 欲求的価値と規範的価値    | 8 現象学の立場      | 14 社会意識と社会構造  |
| 4 事実（認識）と価値（判断）  | 9 「価値」と「価値意識」 | 15 定期試験       |
| 5 「価値」を構成する基本的要素 | 10 「社会意識」の形成  |               |
|                  | 11 人間行動と「価値」① |               |

〔テキスト〕なし

〔参考文献〕講義中に適宜指示する。

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 60 %、レポート等 40 %

24025

家族関係論

S 千葉モト子

㊦家族関係論

〔概要〕出産あり、死別あり、涙あり、笑いがある「家族」は、つねにダイナミックに流動し、静止することはない。しかし、病める家族が病める人間をつくり出し、病める人間がその家族を病めるものにするだけでは事実のようである。「家族」が人々の行動と思考をこれほどまでになぜ呪縛するのか考察していきたい。

〔到達目標〕現代日本社会における家族のリスクマネジメントについて考察する。

〔授業計画〕

- |                        |                       |
|------------------------|-----------------------|
| 1 家族という絆・家族というリスク      | 8 豊かな親が若者の失業問題を隠蔽している |
| 2 家族の不確実性の再来           | 9 専業主婦の黄昏             |
| 3 家族の変化と生活設計の危機        | 10 経済環境の変化と女性の運命      |
| 4 パラサイト・シングル時代         | 11 恋愛自由化の代償           |
| 5 パラサイト・シングル vs フェミニスト | 12 夫婦リストラのシナリオ        |
| 6 若者の自立をサポートする社会環境を    | 13 豊かさの中で目標を見失う子どもたち  |
| 7 夢見る使い捨て労働力としてのフリーター  | 14 親子リストラのシナリオ        |

〔テキスト〕山田昌弘著『家族というリスク』（勁草書房）

〔参考文献〕講義中適宜指示する。

〔授業形態〕講義・討論

〔成績評価の方法〕中間レポート 30 %、期末レポート 30 %、平常点 40 %

24026

家族関係法

W 村田利喜彌

㊦家族関係法

〔授業題目〕親族法と相続法の基礎理念

〔概要〕親族法と相続法の総称として家族法といわれている。家族を構成しているのは夫と妻とそこにできた子である。民法は、夫と妻との関係については婚姻と離婚、その間にできた子との関係については親権として規定されており、これをまず学習する。そして家族における相続にまつわる相続人や遺言を中心に学習をすすめる。

〔到達目標〕家族法（親族法と相続法）についての基礎的知識を修得することを目標とする。

〔授業計画〕

- |             |             |                 |
|-------------|-------------|-----------------|
| 1 オリエンテーション | 6 養子・特別養子   | 11 遺産分割         |
| 2 婚姻        | 7 扶養・氏と戸籍   | 12 財産分離・相続人の不存在 |
| 3 離婚        | 8 相続人       | 13 遺言           |
| 4 内縁関係      | 9 相続の効力     | 14 遺留分          |
| 5 嫡出子・非嫡出子  | 10 相続の承認・放棄 | 15 定期試験         |

〔テキスト〕レジュメを配布する

〔参考文献〕講義中適宜指示する

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 70 %、小テスト 20 %、平常点 10 %



24027

ジェンダー論

W 千葉モト子

⑩ジェンダー論

〔概要〕 ジェンダーの問題を日常生活、家族、政治、企業、メディア、経済、福祉、文化、世界システムなどの各分野にわたって分析、考察していく。

〔到達目標〕 現代社会を語るときジェンダーという課題はもはや避けて通れない問題である。ジェンダーの社会学の視点から、文化的、社会的に組み込まれた私たち女性と男性の生き方を、他者との深い絆によって結びつけた新しい人間関係構築の学問として、科学的に分析、学習することを目標としている。

〔授業計画〕

- |                     |                      |
|---------------------|----------------------|
| 1 ジェンダーの視点から現代社会を読む | 8 演技する一役柄としての「男」と「女」 |
| 2 生まれる一つくられる「男」と「女」 | 9 悩む一人の悩みと社会問題       |
| 3 学ぶ—学校にひそむセクシズム    | 10 伝える—オリタナティブなメディアへ |
| 4 愛する—恋愛というトリック     | 11 遊ぶ—スポーツがつくる「らしさ」  |
| 5 行為する—行為とジェンダー     | 12 闘う—フェミニズムの思想と運動   |
| 6 働く—ジェンダーと労働       | 14 越境する—国際社会とジェンダー   |
| 7 家族する—マニュアル家族をこえて  | 15 定期試験              |

〔テキスト〕 伊藤公雄・牟田和恵編著 『ジェンダーで学ぶ社会学』 (世界思想社 1998年)

〔参考文献〕 江原由実子・長谷川公一他著 『ジェンダーの社会学』 (新潮社 1990年)

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 40%、レポート 40%、平常点 20%

24028

社会病理学

W 齊藤素子

⑩社会病理学

〔授業題目〕 現代社会の病理

〔概要〕 社会の急激な変化を背景にして様々な社会病理現象が生じている。個人や集団で起こる病理現象をとりあげ、その実態や特徴を分析し、問題の所在やその背景について考察する。

〔到達目標〕 社会病理学の基礎的な理論を理解し、個人や集団の病理について考察するための知識を習得する。

〔授業計画〕

- |               |                   |          |
|---------------|-------------------|----------|
| 1 社会病理学とは     | 7 薬物乱用 (2)        | 13       |
| 2 社会病理学の成立と展開 | 8 アルコール問題         | 13 思春期暴力 |
| 3 社会病理学の主要理論  | 9 犯罪 少年非行 (1)     | 14 高齢者虐待 |
| 4 自殺 (1)      | 10 犯罪 少年非行 (2)    | 15 まとめ   |
| 5 自殺 (2)      | 11 家族と暴力 児童虐待     |          |
| 6 薬物乱用 (1)    | 12 ドメスティック・バイオレンス |          |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 松下武志ほか編著『社会病理学の基礎理論』学文社 高原正興ほか編著『病める関係性』学文社 望月嵩編著『新社会病理学』学文社 内海洋一ほか編著『教養のための社会病理学』学文社

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 90%、平常点 10%

24029

医療社会学

W 田原範子

〔授業題目〕 医療社会学

〔概要〕 病気に対するアプローチの文化的多様性および多元的医療システムについて学ぶ。病気は、単に近代医学的に定義されるものとしてだけではなく、私たちの生活のなかで経験される現象の一つとして位置づけることができる。病気をめぐる実践を講義・演習・討論を通して考察する。

〔到達目標〕 日常の生活世界における病気や医療にかかわる諸事情を分析し、社会学的考察を行うことが可能となる。

〔授業計画〕

- |                     |                      |
|---------------------|----------------------|
| 1 病む存在としての人間        | 9 西欧社会の病気観 (1)       |
| 2 病気への視座            | 10 西欧社会の病気観 (2)      |
| 3 近代医療と人間 (1)       | 11 第三世界の病気観 (1)      |
| 4 近代医療と人間 (2)       | 12 第三世界の病気観 (2)      |
| 5 オルタナティブ・メディスン (1) | 13 日常生活のなかの病気と医療 (1) |
| 6 オルタナティブ・メディスン (2) | 14 日常生活のなかの病気と医療 (2) |
| 7 植民地支配と近代医療 (1)    | 15 人間の営みとしての病と癒し     |
| 8 植民地支配と近代医療 (2)    |                      |

〔テキスト〕 森田洋司・進藤雄三編 『医療化のポリティクス』学文社 2006年

〔参考文献〕 進藤雄三・黒田浩一郎編 『医療社会学を学ぶ人のために』世界思想社 1999年

〔授業形態〕 講義・発表・対話

〔成績評価の方法〕 定期試験 50%、平常点 50%



## 24043

### 現代社会論

S 大関雅弘

#### ⑩現代社会論

〔授業題目〕「日本型市民社会」の展開

〔概要〕戦後日本の社会的成熟を「日本型市民社会」の形成という観点から把握する。それを通して、日本社会における市民社会の未成熟性と現代社会のシステム化の増大が相互補完的に進展する状況を検討する。

〔到達目標〕「日本型市民社会」という概念を理解し、それを現実の日本社会の状況に適用することにより、現代社会についての認識を深める。

〔授業計画〕

- |                           |                           |
|---------------------------|---------------------------|
| 1 オリエンテーション：「日本型市民社会」とは何か | 8 “私”の時代の到来               |
| 2 高度経済成長と日本社会①            | 9 日本における自我の未成熟性①：「甘え」と日本人 |
| 3 高度経済成長と日本社会②            | 10 日本における自我の未成熟性②：「日本的自我」 |
| 4 日本的経営の成立と崩壊①            | 11 「自己決定」と社会システム          |
| 5 日本的経営の成立と崩壊②            | 12 「格差社会」のリスク問題           |
| 6 「豊かな社会」の消費行動            | 13 グローバル化における日本社会の課題      |
| 7 消費主体と自己意識的“私”           | 14 まとめ：「日本型市民社会」の可能性を考える  |
|                           | 15 定期試験                   |

〔テキスト〕なし

〔参考文献〕講義中に適宜指示する。

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 50 %、授業内レポート 50 %

## 24045

### ジャーナリズム論

S 里見 脩

〔授業題目〕現代ジャーナリズムの問題点

〔概要〕情報社会を生きる我々にとって、マスコミが送信するニュースは不可欠な存在である。だが営利主義に侵され、ニュースは真実を伝えているとは限らない。「ジャーナリズム（言論）」を多方面から考察し、時代を正しく認識する知力を身に付ける。

〔到達目標〕マス・コミュニケーション論で学んだ情報に関する基礎を、発展させ、「Media literacy」（メディアを読み解く能力）のアップを図る。

〔授業計画〕

- |                     |               |
|---------------------|---------------|
| 1 オリエンテーション         | 9 現状② 同 (2)   |
| 2 定義①「ジャーナリズム」とは何か  | 10 倫理①人権侵害、誤報 |
| 3 理論①現代情報社会の特徴 (1)  | 11 倫理②違反の構造   |
| 4 理論② 同 (2)         | 12 国家①イラク戦報道  |
| 5 歴史①ジャーナリズムの誕生     | 13 国家②大本営発表   |
| 6 歴史②ジャーナリズムの発展 (1) | 14 国際報道       |
| 7 歴史③ 同 (2)         | 15 定期試験まとめ    |
| 8 現状①組織ジャーナリズム (1)  |               |

〔テキスト〕ピエール・ブルデュー、『メディア批判』、藤原書店

〔参考文献〕N・チョムスキー『マニフアクチャリング・コンセント』（上）（下）トランスビュー

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 60 %、平常点 40 %

## 24046

### メディア論

W 里見 脩

#### ⑩メディア論

〔授業題目〕メディアとは何か

〔概要〕「情報社会」を生きる我々にとって、情報を媒介するメディアは不可欠な存在である。情報やメディアの本質や特性の基礎概念を把握する。

〔到達目標〕「Media Literacy（メディアを読み解く能力）」を養い、自分という「主体」を確立する。

〔授業計画〕

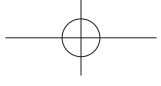
- |                    |                   |
|--------------------|-------------------|
| 1 オリエンテーション        | 9 歴史⑤アメリカ (2)     |
| 2 定義「メディア」の定義      | 10 歴史⑥日本 (1)      |
| 3 基礎理論①マス・メディア (1) | 11 歴史⑦日本 (2)      |
| 4 基礎理論② 同 (2)      | 12 現状①情報社会の問題 (1) |
| 5 歴史①「メディア史」概観     | 13 現状② 同 (2)      |
| 6 歴史②イギリス (1)      | 14 送り手と受け手の留意点    |
| 7 歴史③イギリス (2)      | 15 定期試験           |
| 8 歴史④アメリカ (1)      |                   |

〔テキスト〕随時レジュメを配布する。

〔参考文献〕P・ブリュデュー『メディア批判』 藤原書店

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 60 %、平常点 40 %



24047

文化地理学

S 川内眷三

㊦文化地理学 I

〔授業題目〕 大和川流域にみる文化景観

〔概要〕 大和盆地で飛鳥や平城京を流れたすべての川は集まって大和川となる。大和川流域を地域空間としてとらえ、この地に展開する文化景観を抽出し、それぞれの風土と立地を考察する。下記の展開内容は一例であり、これらを基本として、適宜、興味ある景観の抽出を試みる。

〔到達目標〕 大和川流域は、私達の身近な地域であり、古代から現代に至るまでさまざまな文化景観をみることができる。各自の取り組み姿勢を涵養するため、大和川流域の地域調査を通して発表し、その認識を深める。

〔授業計画〕

- |                   |                             |
|-------------------|-----------------------------|
| 1 文化地理学と文化景観      | 9 大和川流域の溜池                  |
| 2 大和川流域の地形特質と地域区分 | 10 大和川と環濠集落                 |
| 3 大和川と弥生遺跡        | 11 大和川と寺内町                  |
| 4 大和川流域の古墳文化①     | 12 大和川の付け替え                 |
| 5 大和川流域の古墳文化②     | 13 大和川流域の伝統産業               |
| 6 大和川と古京の立地       | 14 大和川と吉野川分水、総括（適宜、他事例・発表等） |
| 7 大和川と河内国府        | 15 定期試験                     |
| 8 大和川流域の条里        |                             |

〔テキスト〕 適宜プリントを配布

〔参考文献〕 川内眷三『大阪平野の溜池環境—変貌の歴史と復原—』（和泉書院）

〔授業形態〕 講義・発表

〔成績評価の方法〕 定期試験 70%、レポート・平常点 30%

24048

観光社会学

W 梅原隆治

〔授業題目〕 景観と観光

〔概要〕 観光が意識され始めた経緯を探り、その対象を景観を通して学ぶ。また多様化したツーリズムの諸相を、日本や世界の事例から把握し、問題の所在を探る。

〔到達目標〕 多様化したツーリズムを整理して把握し、「観光」が学問研究の対象となったことを理解する。

〔授業計画〕

- |             |                 |              |
|-------------|-----------------|--------------|
| 1 はじめに      | 7 スポーツと観光       | 12 ルーラルツーリズム |
| 2 観光とは何か    | 8 ハードツーリズム      | 13 グリーンツーリズム |
| 3 巡礼と観光     | 9 海外旅行という観光スタイル | 14 エコツーリズム   |
| 4 湯治という観光   | 10 アーバンツーリズム    | 15 定期試験      |
| 5 避暑から始まる観光 | 11 ソフトツーリズム     |              |
| 6 娯楽の舞台と観光  |                 |              |

〔テキスト〕 適宜プリント配布、地図帳持参が望ましい。

〔参考文献〕 菊地俊夫編著『観光を学ぶ—楽しむことからはじまる観光学』二宮書店、2008。須藤廣『観光化する社会—観光社会学の理論と応用』ナカニシヤ出版、2008。ジョバンナ・メランドリ『文化・景観・ツーリズム』シーライトパブリッシング、2007。横山秀司『観光のための環境景観学』古今書院、2006。

〔授業形態〕 講義・討論

〔成績評価の方法〕 定期試験 80%、レポート等の平常点 20%

24049

情報社会論

W 鍋谷史郎

㊦情報社会論

〔授業題目〕 メディアの普及と社会的影響

〔概要〕 メディアの技術革新が加速する今日、インターネット、携帯電話、デジタルテレビ等、新しいデジタル・メディアが私たちの生活、社会を大きく変化させている。生活者および産業的視点からその変容を概観する。

〔到達目標〕 情報社会の進展に対する基本認識と問題意識を持ち、さらに3年次の社会学演習で深く研究するための素養を身につける。

〔授業計画〕

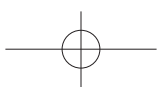
- |                    |                      |
|--------------------|----------------------|
| 1 オリエンテーション        | 9 職場の情報化             |
| 2 情報社会             | 10 情報通信産業（1）放送産業     |
| 3 Web2.0           | 11 情報通信産業（2）通信サービス産業 |
| 4 ユビキタスネットワーク社会（1） | 12 インターネットビジネス（1）    |
| 5 ユビキタスネットワーク社会（2） | 13 インターネットビジネス（2）    |
| 6 産業の情報化（1）        | 14 情報社会のアキレス腱        |
| 7 産業の情報化（2）        | 15 定期試験              |
| 8 産業の情報化（3）        |                      |

〔テキスト〕 吉井博明著、『情報のエコロジー—情報社会のダイナミズム—』、北樹出版

〔参考文献〕 講義中に適宜指示する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 70%、小テスト等平常点 30%



## 24050

### 国際問題論

S / W 安藤友香

〔授業科目〕 国際社会の国際問題への取り組み

〔概要〕 現代の国際社会における主に安全保障に関わる諸問題について概観し、それらの問題への国際社会の取り組み、支援の枠組みがいかなるものかを理解する。同時に、日本の国際貢献の歴史や役割についても学ぶ。

〔到達目標〕 現代の国際問題とそれに対する国際社会の対応について基礎的な知識を習得し、自分なりの見解をまとめて説明できるようになる。

〔授業計画〕

第1回 イントロダクション

第2回 国際関係の主体

第3回 冷戦終結とグローバル化の生む新しい諸問題

第4回 冷戦終結と内線

第5回 テロ（9.11と非対称脅威の台頭）

第6回 軍縮、軍備管理①（恐怖の均衡から恐怖の核拡散へ）

第7回 軍縮、軍備管理②（小型武器と内戦）

第8回 その他の問題（感染症／国際犯罪／環境／人権／難民など）

第9回 人間の安全保障

第10回 国際問題への対応1（紛争と国連の取り組み）

第11回 国際問題への対応2（持続可能な開発と開発機関）

第12回 国際問題への対応3（各国の取り組み、NGOの取り組み）

第13回 国際社会と日本1（戦後日本の経済外交）

第14回 国際社会と日本2（平和維持活動と日本の貢献）

第15回 定期試験

〔テキスト〕 講義中に適宜指示する。配布資料なども使用。

〔参考文献〕 講義中に適宜指示する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 60%、小テスト・平常点等 40%

## 24061

### 国際社会学

W 石井香江

#### ㊦国際社会論

〔授業科目〕 国際社会学

〔概要〕 国際社会学は地域・民族・地球に着目し、人・モノ・情報の移動といった脱国家・超国境的現象や、環境問題など地球規模の現象について研究する新しい学問分野です。この講義では、国際社会学の理論と具体的事例を概観します。

〔到達目標〕 国際社会学の理論と具体的事例を学びながら、グローバル社会の現状と課題を理解する。

〔授業計画〕

1 オリエンテーション

2 国際社会学の理論（1）国際移民

3 国際社会学の理論（1）国際移民

4 国際社会学の理論（2）エスニシティ

5 国際社会学の理論（2）エスニシティ

6 国際社会学の理論（3）ネーションとナショナルリズム

7 国際社会学の理論（3）ネーションとナショナルリズム

8 国際社会学のテーマ（1）人の国際移動

9 国際社会学のテーマ（2）シテイズンシップ

10 国際社会学のテーマ（3）トラフィックキング

11 国際社会学のテーマ（4）宗教と国家

12 国際社会学のテーマ（5）多文化主義政策

13 国際社会学のテーマ（6）NGOとグローバル市民社会

14 まとめ：国際社会学の最前線

15 定期試験

〔テキスト〕 なし

〔参考文献〕 梶田孝道 編『新・国際社会学』名古屋大学出版会 2005年

〔授業形態〕 講義・発表

〔成績評価の方法〕 定期試験 50%、発表・討論 50%

## 24062 企業広報論

S 鍋谷史郎

〔授業題目〕コーポレート・コミュニケーション

〔概要〕グローバル化、IT化の中で変革を進める企業が、企業を取り巻く多くのステークホルダーとの信頼関係を築き維持するために行う、広報、宣伝、社会文化活動の統合的なコミュニケーション活動の実際を学ぶ。

〔到達目標〕今日、企業組織は社会の一員として、いかに社会との摩擦をなくしその社会的責任を果たしていくことが求められているかを理解する。

〔授業計画〕

- |                |                |          |
|----------------|----------------|----------|
| 1 オリエンテーション    | ント             | 12 ネット広報 |
| 2 広報とは何か       | 7 コミュニケーション    | 13 国際広報  |
| 3 広報の歴史        | 8 メディア・リレーションズ | 14 危機管理  |
| 4 企業経営とPR活動    | 9 マーケティング      | 15 定期試験  |
| 5 広報・PR活動の推進体制 | 10 IR          |          |
| 6 広報・PR活動のマネジメ | 11 社内広報        |          |

〔テキスト〕猪狩誠也著、『広報・パブリックリレーションズ入門』、宣伝会議

〔参考文献〕講義中適宜指示する。

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験70%、小テスト等平常点30%

## 24063 文化人類学

W 山本 誠

### ⑩文化人類学Ⅱ

〔授業題目〕科学・宗教・呪術

コロンビアやペルー、エクアドルなどアマゾン上流域の熱帯低地民社会では、現在でもアヤワスカをはじめとする各種の熱帯植物を軸にしたシャーマニズムが息づいている。授業担当者の現地調査にもとづくデータの提示、分析が中心となるが、科学・宗教・呪術に関する一般的な議論もあわせて紹介し、受講生の「現実」とリンクできるよう配慮する。

〔授業計画〕

- |                 |                |                |
|-----------------|----------------|----------------|
| 1 オリエンテーション     | 6 呪術にみえない現代の呪術 | 11 治療儀礼を考える（1） |
| 2 科学的な世界の捉え方（1） | 7 シャーマニズムとは？   | 12 治療儀礼を考える（2） |
| 3 科学的な世界の捉え方（2） | 8 シャーマニズムの実践   | 13 シャーマニズムと現実  |
| 4 宗教をどう捉えるか（1）  | 9 シャーマンの意識状態   | 14 まとめ         |
| 5 宗教をどう捉えるか（2）  | 10 治療儀礼の実践     |                |

〔テキスト〕

〔参考文献〕佐々木宏幹著『シャーマニズム』（中央公論社）

マイケル・ハーナー著『シャーマンへの道』（平河出版社）

田嶋誠一著『イメージ体験の心理学』（講談社）

適宜プリントを配布

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕レポート90%、平常点10%

## 24070

### 産業システム労働論

W 中原隆幸

〔授業題目〕 生産システムを学ぶ

〔概要〕 生産システムは経済構造の発展と共に大きく変化してきました。本講義では生産システムのメカニズムとそれが経済に及ぼしてきた影響を歴史具体的に学びます。

〔到達目標〕 生産システムの基本構造を理解し、現代の生産現場における諸問題について深く考察できる様にする。

〔授業計画〕

1 分業と市場 (1)	8	〃	(2)
2 〃 (2)	9	トヨタ生産システムの諸特徴 (1)	
3 生産システムの歴史的発展形態を学ぶ (1)	10	〃 (2)	
4 〃 (2)	11	すり合わせ型生産の諸特徴	
5 科学的管理法 (1)	12	モジュール型生産システムの諸特徴	
6 〃 (2)	13	アジア諸国の生産システム (1)	
7 フォードによる工場生産システムの改革 (1)	14	〃 (2)	

〔テキスト〕 藤本隆宏編、『ものづくり経営学』、光文社新書

〔参考文献〕 講義中に適宜指示する。

〔授業形態〕 講義・対話

〔成績評価の方法〕 中間試験 30 %、定期試験 70 %

## 24081

### 社会システム論

S 土谷幸久

〔授業題目〕 システム的思考法の学習

〔概要〕 社会システム論は現在も形成途上の領域である。学際的な各種接近に共通することは、相互関連性や創発性などシステムという視座に立つことである。本授業科目では、社会システムの基礎を学習する。

〔到達目標〕 システムとしての把握を媒介として、社会・現象を捉える思考法を身につけることを目的とする。受講者は社会問題を自身の問題として捉えなければならない。

〔授業計画〕

1 社会とは何か組織とは何か	9 社会システム
2 システムに関する定義	10 コンドルセのパラドックスとアロウの定理
3 システム研究運動	11 財政・経済問題
4 類型	12 医療・保険制度問題
5 行為と相互作用	13 環境問題
6 役割	14 国際化と雇用問題
7 自己組織性とオートポイエーシス	15 世界システムの可能性
8 企業システム	

〔テキスト〕 講義板書、プリントも一部使用

〔参考文献〕 『オートポイエーシスの生存可能システムモデルの基礎的研究』 その他講義中に適宜指示する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 60 %、レポート 20 %、討論 20 %

## 24082

### 経営社会学 I

S 高嶋雅明

#### ㊦経営社会学 A

〔授業題目〕 企業システム論 I

〔概要〕 経営社会学の成り立ちや方法を始め、その主要な領域を取りあげて、総論として講義するが、とくに歴史的視点や比較の側面にも着目する。

〔到達目標〕 現在の経済社会の中心的存在である企業の構造や仕組みを知り、企業社会のなかにある現代を的確に理解すること。

〔授業計画〕

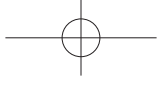
1 経営社会学で何を学ぶか	7 企業と管理者	12 労使関係—労働組合論
2 経営社会学の発展	8 経営組織	13 企業間関係
3 企業とはどのような組織か	9 人事労務管理	14 企業と社会
4 企業環境と企業文化	10 経営と技術	15 定期試験
5 株式会社論① 歴史と概念	11 労働者・従業員の意識・疎外	
6 株式会社論② 経済的機能		

〔テキスト〕 特に使用しません。適宜、資料を配布します。

〔参考文献〕 講義中に折に触れ紹介します。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 %、平常点 30 %



24082

経営社会学Ⅰ

S 梁 先姫

⑩経営社会学A

〔授業題目〕組織論的の視点から見た経営社会学

〔概要〕経営社会学の研究領域は「社会全体の巨視的視点から企業と社会の望ましい相互関係を模索すること」に重点をおいている。経営理論は社会環境の変化や発展と共に著しく変化する。これからの変化を予測し・対応するためにも、経営理論の発展過程の理解は不可欠である。企業と社会の相互関連性を理解するため、その基礎としてアメリカのテイラーの科学的管理論を起点とする合理主義的技法をはじめ、人間関係論、行動科学論、近代的管理論、現代的組織論などの経営理論を分かり易く講義する。

〔到達目標〕企業構造の本質である経営理論を理解すること。

〔授業計画〕

- |               |                 |                 |
|---------------|-----------------|-----------------|
| 1 経営社会学の学び方   | 6 行動科学論 (2)     | 11 経営組織の基本形態    |
| 2 テイラーの科学的管理論 | 7 フォレットの経営管理論   | 12 経営の国際化と多国籍企業 |
| 3 ファョールの管理論   | 8 バーナードの組織論     | 13 現代企業のIT戦略    |
| 4 人間関係論       | 9 サイモンの組織論 (1)  | 14 日本型企业システム    |
| 5 行動科学論 (1)   | 10 サイモンの組織論 (2) | 15 定期試験         |

〔テキスト〕佐久間信夫編著、「現代経営学」、学文社

〔参考文献〕講義中適宜指示する。

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 40 %、レポート 40 %、平常点 20 %

24083

経営社会学Ⅱ

W 高嶋雅明

⑩経営社会学B

〔授業題目〕企業システム論Ⅱ

〔概要〕「日本的経営」論の議論の紹介と、その実態に関する詳しい検討を経て、現代日本の企業システムについて考察する。

〔到達目標〕現在の経済社会の中心的存在である企業の構造や仕組みを知り、企業社会のなかにある現代を的確に理解すること。

〔授業計画〕

- |                             |                       |
|-----------------------------|-----------------------|
| 1 講義の概要、進め方についての説明と若干の導入的講義 | 8 日本の生産システム           |
| 2 アベグレの「日本的経営」論             | 9 日本の雇用関係             |
| 3 日本の経営論の展開と批判①             | 10 キャリアとインセンティブ       |
| 4 日本の経営論の展開と批判②             | 11 日本の取引慣行            |
| 5 経営家族主義の形成と展開              | 12 メインバンクとコーポレートガバナンス |
| 6 経営家族主義の論理と構造              | 13 現代日本の企業システム①       |
| 7 日本の生産組織の歴史                | 14 現代日本の企業システム②       |
|                             | 15 定期試験               |

〔テキスト〕特に使用しません。適宜、資料を配布します。

〔参考文献〕伊丹敬之ほか『日本の企業システム』第Ⅰ期4巻、第Ⅱ期5巻、1993、2006年、有斐閣

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 70 %、平常点 30 %

24083

経営社会学Ⅱ

W 梁 先姫

⑩経営社会学B

〔授業題目〕大企業の形態や所有・支配構造を分析し、社会との関係を考察

〔概要〕産業社会における核心的存在である企業は利益の確保という目的とともに、社会に製品やサービスの持続的な生産・供給という役目を担っている。企業はその目的・役目を達成するために様々な様式をとって活動している。異なる企業形態や株式会社の所有・支配構造の分析を主軸とし、利潤重視の資本主義的経営から、社会的責任を企業観念に含むポスト・資本主義への転換を考察する。

〔到達目標〕現代の大企業の構造とガバナンスを理解することを目指す。

〔授業計画〕

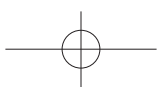
- |                              |                     |
|------------------------------|---------------------|
| 1 現代企業の諸形態                   | 9 現代企業とステークホルダー (2) |
| 2 コーポレート・ガバナンスの意義            | 10 現代企業の社会的責任 (1)   |
| 3 日本の会社機関とコーポレート・ガバナンス (1)   | 11 現代企業の社会的責任 (2)   |
| 4 日本の会社機関とコーポレート・ガバナンス (2)   | 12 現代の企業倫理 (1)      |
| 5 アメリカの会社機関とコーポレート・ガバナンス (1) | 13 現代の企業倫理 (2)      |
| 6 アメリカの会社機関とコーポレート・ガバナンス (2) | 14 現代の企業倫理 (3)      |
| 7 ドイツの会社機関とコーポレート・ガバナンス      | 15 定期試験             |
| 8 現代企業とステークホルダー (1)          |                     |

〔テキスト〕佐久間信夫編著、「現代経営学」、学文社

〔参考文献〕講義中適宜指示する。

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 40 %、レポート 40 %、平常点 20 %



24085

現代経済論

S 高嶋雅明

㊦日本経済論

〔授業題目〕 現代日本経済論

〔概要〕 前半では第二次世界大戦後の日本経済の展開を国際関係と関連させて説明し、現在がどのような位置にあるか確認する。後半では日本経済の現状を分野別に検討し、問題点の析出と今後を展望する。

〔到達目標〕 現在の経済社会システムの成り立ちと抱える問題点について、できるだけ確に知ること。

〔授業計画〕

- |                             |                     |
|-----------------------------|---------------------|
| 1 講義の概要、進め方についての説明と若干の導入的講義 | 8 日本の産業             |
| 2 戦後復興期の日本経済と国際関係           | 9 農村と農業問題           |
| 3 高度経済成長                    | 10 日本型企业システム        |
| 4 2つのショックと日本経済              | 11 金融構造の転換          |
| 5 国際化時代の日本経済                | 12 「格差」を考える         |
| 6 「失われた10年」とその後             | 13 グローバリズムとリージョナリズム |
| 7 国際経済関係について                | 14 環境問題と日本          |
|                             | 15 定期試験             |

〔テキスト〕 特に使用しません。適宜、資料を配布します。

〔参考文献〕 橋本寿朗ほか『現代日本経済』（新版）、2007年、有斐閣アルマ。伊藤脩『日本の経済 歴史・現状・論点』、2007年、中公新書。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験70%、平常点30%

24086

国際経済論

S 奥西達也

㊦国際経済論

〔授業題目〕 国際経済の現実を知る

〔概要〕 わたしたちが毎日購入している商品のかなりのものが、実は「外国で生産されたもの」です。知らず知らずのうちに、わたしたちの生活に入り込んでいる外国製品は、どのような手続きを経て入ってきたのでしょうか。本講義ではこうした疑問からはじめて、国際貿易の現実、貿易の構造、国際金融の実態、国際金融の仕組みなどについて、主として経済学理論の立場から平易に解説します。同時に現在進行中の経済問題をも up to date にとりあげます。

〔到達目標〕 国際経済の現状を経済理論に即して理解できる。

〔授業計画〕

- |                  |                              |
|------------------|------------------------------|
| 1 世界の中での日本経済     | 9 国際金融市場の仕組み その3             |
| 2 貿易とはなにか        | 10 国際通貨システムの仕組み その1          |
| 3 輸入と輸出、どちらが重要か？ | 11 国際通貨システムの仕組み その2          |
| 4 貿易黒字と貿易赤字とは何か  | 12 為替レートとは何か                 |
| 5 財の国際的流通がもたらすもの | 13 為替レートの変動はなぜ生じるのか          |
| 6 世界経済の中でのオカネの動き | 14 為替レートの変動は経済にどのような影響を与えるのか |
| 7 国際金融市場の仕組み その1 | 15 定期試験                      |
| 8 国際金融市場の仕組み その2 |                              |

〔テキスト〕 プリント・資料配布

〔参考文献〕 講義中に適宜指示します

〔授業形態〕 講義・対話

〔成績評価の方法〕 定期試験70%、中間試験30%

24089

ビジネス実務概論

S / W 仁平征次

〔授業題目〕 ビジネスマナー

〔概要〕 ビジネス活動に必要な不可欠なビジネスマナーを様々な角度から学ぶ。マナーを体得するため、毎時間実習を行う。

〔到達目標〕 ビジネスに必要なマナーの理解と知識・態度を修得する。特に、礼と敬語表現は全員完全な形で体得し、職業人としての基礎能力を育成する。

〔授業計画〕

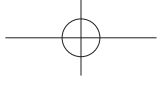
- |                   |                        |
|-------------------|------------------------|
| 1 オリエンテーション       | 9 名刺の取り扱い              |
| 2 学生と職業人の違い       | 10 来客応対                |
| 3 立居振る舞い・基本姿勢     | 11 他社訪問                |
| 4 職業人の基本マナー・見出しなみ | 12 慶弔・贈答・交際            |
| 5 話し方と言葉づかい (1)   | 13 会合・パーティ             |
| 6 話し方と言葉づかい (2)   | 14 命令・指示の受け方、報告のし方     |
| 7 話し方と言葉づかい (3)   | 15 定期試験                |
| 8 電話応対            | 備考 毎時間礼の練習と接遇会話のテストを行う |

〔テキスト〕 木村三千世他著『オフィス実務〔改訂版〕』（学文社）

〔参考文献〕 仁平征次著『ビジネス実務講義ノート』（仁平ビジネス実務教育研究所）

〔授業形態〕 講義・演習・実習

〔成績評価の方法〕 定期試験60%、小テスト20%、平常点20%



### 24103

#### 心理学実験実習

S 田中晶子

##### ⑩心理学基礎実験

〔授業科目〕心理学実験実習（心理学基礎実験）

〔概要〕心理学研究法の1つである実験法の基礎的知識について学び、実験手続き（実験刺激の作成→実験の実施→データの整理→分析）を実習する。また、実験結果を科学的事実として報告する方法についても学ぶ。

〔到達目標〕実証的な研究方法の基礎を身につけることを目標とする。

〔授業計画〕

- |                    |              |
|--------------------|--------------|
| 1 オリエンテーション        | 8 実習：実験実施②   |
| 2 講義：実験法概説         | 9 実習：結果の整理   |
| 3 講義：仮説の検証         | 10 実習：結果の分析① |
| 4 講義：ストループ効果・仮説の設定 | 11 実習：結果の分析② |
| 5 実習：刺激の作成①        | 12 実習：結果の考察① |
| 6 実習：刺激の作成②        | 13 実習：結果の考察② |
| 7 実習：実験実施①         | 14 実習：報告書の作成 |

〔テキスト〕なし

〔参考文献〕高野陽太郎・岡隆（編）「心理学研究法 心を見つめる科学のまなざし」有斐閣アルマ 田中敏「実践 心理データ解析」新曜社

〔授業形態〕講義・実習

〔成績評価の方法〕定期試験に替わるレポート 50% 平常点 50%

### 24104

#### 臨床心理学

W 広瀬香織

##### ⑩臨床心理学

〔概要〕本講では、人間の心や傷の痛み、ひいてはその人自身の心のあり方や生き方に直接関与していく学問である臨床心理学について、理解を深める事を目的とする。

〔到達目標〕臨床心理学に関する基礎知識の習得

〔授業計画〕

- |                |                    |
|----------------|--------------------|
| 1 オリエンテーション    | 8 発達障害             |
| 2 心理アセスメント（Ⅰ）  | 9 介入（Ⅰ）理論モデル       |
| 3 心理アセスメント（Ⅱ）  | 10 介入（Ⅱ）技法モデル      |
| 4 心理アセスメントのまとめ | 11 介入（Ⅲ）コミュニティモデル  |
| 5 異常心理学        | 12 介入についてのまとめ      |
| 6 不安障害 人格障害    | 13 臨床心理学の社会的専門性（Ⅰ） |
| 7 統合失調症 気分障害   | 14 臨床心理学の社会的専門性（Ⅱ） |

〔テキスト〕下山晴彦編『よくわかる臨床心理学』（ミネルヴァ書房）

〔参考文献〕

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕中間レポート 40%、期末レポート 40%、平常点 20%

### 24105

#### 認知心理学

S 田中晶子

##### ⑩認知心理学

〔概要〕言語・記憶・対人認知・ヒューマンエラーの4つのテーマについての研究成果を紹介することにより、「認知」というところの働きについて概説する。

〔到達目標〕4つのテーマを通して、こころの情報処理メカニズムの特徴を理解することを目標とする。

〔授業計画〕

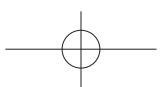
- |           |          |              |
|-----------|----------|--------------|
| 1 認知心理学とは | 6 言語①    | 11 対人認知③     |
| 2 認知研究の技法 | 7 言語②    | 12 ヒューマンエラー① |
| 3 記憶①     | 8 言語③    | 13 ヒューマンエラー② |
| 4 記憶②     | 9 対人認知①  | 14 ヒューマンエラー③ |
| 5 記憶③     | 10 対人認知② | 15 定期試験      |

〔テキスト〕なし（講義時に資料を配布します）

〔参考文献〕講義中適宜指示する。

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 100%



## 24106

### 学習心理学

W 田中晶子

#### ㊦学習心理学

〔概要〕前半は、学習に関する基礎的な法則について様々な実験を紹介する。後半は、基礎的な法則を日常的な問題の解決に応用する行動分析学について概説する。

〔到達目標〕学習についての基礎的な法則について理解し、それらを日常生活における問題解決に応用する視点を見につける。

#### 〔授業計画〕

- |                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| 1 オリエンテーション        | 9 行動分析学：やる気のメカニズム② |
| 2 学習・行動分析学とは       | 10 問題解決のための行動分析①   |
| 3 古典的条件づけ①         | 11 問題解決のための行動分析②   |
| 4 古典的条件づけ②         | 12 問題解決のための行動分析③   |
| 5 オペラント条件づけ①       | 13 問題解決のための行動分析④   |
| 6 オペラント条件づけ②       | 14 問題解決のための行動分析⑤   |
| 7 オペラント条件づけ③       | 15 定期試験            |
| 8 行動分析学：やる気のメカニズム① |                    |

〔テキスト〕なし（講義時に資料を配布します）

〔参考文献〕講義時に適宜指示します。

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 100 %

## 24108

### 人格発達論

S 茂木 洋

#### ㊦人格理論

〔授業題目〕人格の発達

〔概要〕人格の理論を発達の観点から概観する。まず人格理論のモデルを示し、力動論的立場からの代表的な人格理論を解説する。最後に教育と臨床の分野において見られる人格の病理と変容について、具体例をあげながら取り上げる。

〔到達目標〕人格という概念の多様性を学ぶことによって、多面的な人格把握の意義を理解する。

#### 〔授業計画〕

- |                    |                 |
|--------------------|-----------------|
| 1 オリエンテーション、人格とは何か | 9 マーラーの分離—一体化理論 |
| 2 人格理論のモデル：類型論     | 10 クラインの対象関係論   |
| 3 人格理論のモデル：特性論と力動論 | 11 ウィニコットの移行対象  |
| 4 フロイトの精神力動論①      | 12 プロスの青春発達論    |
| 5 フロイトの精神力動論②      | 13 人格の病理        |
| 6 エリクソンの人格発達漸成論①   | 14 人格の変容        |
| 7 エリクソンの人格発達漸成論②   | 15 定期試験         |
| 8 ボウルビィのアタッチメント理論  |                 |

〔テキスト〕適宜プリントを配布する。

〔参考文献〕授業中適宜指示する。

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 70 %、小テスト等平常点 30 %

## 24109

### 日本史 I

S 須原祥二

#### ㊦日本史 I

〔授業題目〕日本通史

〔概要〕テキストの I 古代～IV 近代を補足・発展させる形で講義をすすめる。テキストを所持し、事前に該当範囲を読んでいることを前提に講義を行うので、疑問等を明確にした上で出席してもらいたい。

〔到達目標〕各時代相を掘り下げつつ、日本史の基本的な流れを再確認する。

#### 〔授業計画〕

- |              |              |                 |
|--------------|--------------|-----------------|
| 1 古代国家の成立    | 6 中世文化の展開    | 11 政党政治の発展と社会運動 |
| 2 律令国家の形成と展開 | 7 幕藩体制の確立    | 12 アジア太平洋戦争     |
| 3 摂関政治と地方社会  | 8 幕藩体制の動揺と解体 | 13 まとめ 1        |
| 4 中世社会の成立と展開 | 9 都市と民衆の文化   | 14 まとめ 2        |
| 5 内乱と一揆の時代   | 10 近代国家の成立   | 15 定期試験         |

〔テキスト〕佐々木潤之介ほか『概論日本歴史』（吉川弘文館、2000年）

〔参考文献〕講義中に別途指示する。

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 100 %



24110

日本史Ⅱ

S 戸田文明

㊦日本史Ⅱ

〔授業題目〕日本近世史概説

〔概要〕幕藩体制の成立から崩壊までを、基礎的な史料をつかいながら概観する。その際に中心となる論点は、幕藩体制のもっとも基本的な要素である「兵農分離・石高制・鎖国」である。三者の成立・動揺・崩壊の過程を論ずることを通して、幕藩体制成立の論理と崩壊の論理を検討する。

〔到達目標〕日本近世史についての概説的知識を習得する。近世の基礎的な史料の読解力をつける。歴史的なものの見方を身につける。

〔授業計画〕

- |                  |                 |
|------------------|-----------------|
| 1 はじめに（近世史の時代区分） | 9 田沼期の政治と経済     |
| 2 戦国大名と一揆勢力      | 10 百姓一揆と打ちこわし   |
| 3 自治勢力と織豊政権      | 11 幕藩体制の動揺と寛政改革 |
| 4 幕藩体制の確立        | 12 化成期の政治       |
| 5 三都と全国市場（1）     | 13 近代への序曲       |
| 6 三都と全国市場（2）     | 14 列強のアジア進出     |
| 7 「文治政治」の意義      | 15 定期試験         |
| 8 財政窮乏と幕政の転換     |                 |

〔テキスト〕佐々木潤之介他編、『概論 日本歴史』、出版社 吉川弘文館。史料については、プリントを配布する。

〔参考文献〕各種の日本通史。授業中に適宜紹介する。

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 80 %、授業中の小テスト 20 %

24121

日本史Ⅲ

S 須原祥二

㊦日本史Ⅲ

〔授業題目〕古文書からみた古代・中世史

〔概要〕古文書の様式およびその変化を通して、古代・中世の政治と社会の特質を考察する。講義は配布プリントを中心にすすめる。

〔到達目標〕政治システムの特徴が、文書の様式を規定していることを理解する。

〔授業計画〕

- |                 |                |               |
|-----------------|----------------|---------------|
| 1 古文書からみた歴史     | 6 公式様文書から公家様文書 | 11 鎌倉期の武家様文書② |
| 2 律令体制と公式様文書の成立 | 7 公家様文書①       | 12 鎌倉期の武家様文書③ |
| 3 公式様文書①        | 8 公家様文書②       | 13 直状の発達      |
| 4 公式様文書②        | 9 武家様文書の成立     | 14 印判状        |
| 5 公式様文書③        | 10 鎌倉期の武家様文書①  | 15 定期試験       |

〔テキスト〕プリントを配布する。

〔参考文献〕佐藤進一『新版 古文書学入門』（法政大学出版局、1997年）

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 100 %

24122

日本史Ⅳ

W 戸田文明

㊦日本史Ⅳ

〔授業題目〕日本近代史概説

〔概要〕明治期を中心に、基礎的な史料をつかいながら、日本近代史を概観する。近代史の主要テーマである資本主義と民主主義について、日本におけるそれぞれの発展のあり方を、その限界とともに明らかにし、日本近代史の特徴をさぐる。

〔到達目標〕日本近代史の基礎的な知識を習得する。近代の基礎的な史料の読解力をつける。歴史的なものの見方を身につける。

〔授業計画〕

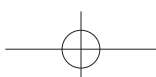
- |                     |                    |
|---------------------|--------------------|
| 1 はじめに（日本近代史の時代区分）  | 9 寄生地主制と資本主義       |
| 2 開国の意義             | 10 日清・日露戦争と資本主義の発展 |
| 3 幕藩体制の終焉と明治維新      | 11 政党と官僚           |
| 4 富国強兵政策と文明開化       | 12 第一次世界大戦と独占資本主義  |
| 5 岩倉使節団と初期の外交       | 13 植民地帝国           |
| 6 「開化」政策への抵抗（農民と士族） | 14 まとめ             |
| 7 自由民権運動            | 15 定期試験            |
| 8 明治憲法体制と近代天皇制国家    |                    |

〔テキスト〕佐々木潤之介他編、『概論 日本歴史』、出版社 吉川弘文館。史料については、プリントを配布する。

〔参考文献〕各種の日本史の通史。授業中に適宜紹介する。

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 80 %、授業中の小テスト 20 %



24123

西洋史 I

S 城江良和

㊦西洋史 I

〔授業科目〕 ヨーロッパの歴史

〔概要〕 序論として、まず古代から中世にかけてのヨーロッパ世界の成立、本論として、近代以降のヨーロッパ諸国の世界進出と列強の帝国主義的膨張、二度の世界大戦の原因と影響などを講義する。

〔到達目標〕 世界史におけるヨーロッパ史の意義、ヨーロッパ史がヨーロッパ内にとどまらず、世界的な広がり  
と影響をもつことを理解させる。

〔授業計画〕

- |                        |                 |
|------------------------|-----------------|
| 1 ヨーロッパ史と世界史           | リカにもたらしたもの      |
| 2 ギリシア・ローマ世界           | 9 植民地とヨーロッパ人の生活 |
| 3 中世とキリスト教             | 10 帝国主義の展開      |
| 4 ルネサンスと宗教改革           | 11 第1次世界大戦の原因   |
| 5 革命の時代                | 12 戦間期。世界恐慌。    |
| 6 近代ヨーロッパを支える理念        | 13 第2次世界大戦の原因   |
| 7 植民地支配と産業革命           | 14 ファシズムの問題     |
| 8 植民地支配がアジア・アフリカ・ラテンアメ | 15 定期試験         |

〔テキスト〕 なし

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 100 %

24124

西洋史 II

W 城江良和

㊦西洋史 II

〔授業科目〕 古代のヨーロッパ

〔概要〕 古代ギリシア・ローマの歴史作品、中世の哲学書、ルネサンス期の文人や宗教改革指導者の著作など、それぞれの抜粋を講読し、それらが書かれた当時の社会について講義する。

〔到達目標〕 現代ヨーロッパ文明の背景にある古代と中世の文化と思想を、古典古代から近代初頭に至るまでの時代に書かれた著作の検討を通じて理解させる。

〔授業計画〕

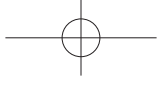
- |                      |                  |
|----------------------|------------------|
| 1 ヘロドトスの歴史意識         | 9 キケロにとっての祖国と自由  |
| 2 ヘロドトスの民族観          | 10 アウグスティヌスの歴史意識 |
| 3 トゥキディデスが描くポリスの内戦   | 11 アウグスティヌスとローマ  |
| 4 トゥキディデスが見た社会と人間の実像 | 12 キリスト教の歴史観     |
| 5 トゥキディデスが見た民主主義     | 13 マキャベリの政治的現実主義 |
| 6 ポリュビオスとギリシア        | 14 ルターの思想        |
| 7 ポリュビオスとローマ         | 15 定期試験          |
| 8 タキトゥスが描くローマ支配の現実   |                  |

〔テキスト〕 なし

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕



24125

基礎統計学

S 指田隆一

㊦基礎統計学

【概要】 【前提科目：社会調査法Ⅰ】 統計的データをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学的知識を教授する。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用（平均や比率の差の検定、独立性の検定）、抽出法の理論、属性相関関係（クロス表の統計量）、相関係数、偏相関係数、変数のコントロール、回帰分析の基礎など。統計学は、実際にデータを分析しながら、体を動かして、学ぶことも大切であるから、計算、練習用データの分析を宿題とする。各クラスの初めに、前回の内容についての quiz をおこないます。電卓、差し必携。本科目を履修するためには、四則演算、比率、分数、2乗と平方根についての理解が必要です。

【到達目標】 基礎的な確率論を理解し、平均や標準偏差、相関係数の計算、単回帰分析ができ、平均値と比率の統計的推定と2標本の検定、 $\chi^2$  検定の理論を理解し、実行できる。

【授業計画】

- |                                |  |
|--------------------------------|--|
| 1 統計データとは [Ⅰ] 尺度水準             | 理  |
| 2 比率と指数 [Ⅱ] 静的比率と動的比率          | 9 統計的推定 [Ⅷ] 考え方                              |
| 3 分布とその特性 [Ⅲ] グラフ、代表値、散布度      | 10 統計的推定 [Ⅷ] 平均、分散、比率の推定                     |
| 4 相関と回帰 [Ⅳ] 散布図、共分散、相関係数、回帰方程式 | 11 統計的検定 [Ⅸ] 考え方                             |
| 5 確率の基礎 [Ⅴ] 順列と組み合わせ、確率        | 12 統計的検定 [Ⅸ] 母平均、分散比、母平均の差に関する検定             |
| 6 確率変数と分布 [Ⅵ] 期待値と分散、2項分布と正規分布 | 13 統計的検定（補足）母比率、母比率の差に関する検定 [Ⅸ] $\chi^2$ 検定  |
| 7 母集団と標本 [Ⅶ] 標本平均の平均と分散        | 14 [Ⅹ] 標準誤差と標本の大きさの決定、属性相関係数、偏相関係数、変数のコントロール |
| 8 母集団と標本 [Ⅶ] 大数の法則と中心極限定       | 15 定期試験                                      |

【テキスト】 金子治平・上藤一郎 2007『よくわかる統計学Ⅰ基礎編』ミネルヴァ書房 練習問題を Web ページに提示する

【参考文献】 授業時に適宜紹介する。

【授業形態】 講義

【成績評価の方法】 定期試験 50%、quiz 50%、電卓と定規使用可

24126

統計分析入門

W 指田隆一

㊦統計分析入門

【概要】 【前提科目：社会調査法Ⅰ】 本科目は、官庁統計や調査報告、統計資料を含む論文を読むために必要な基本的知識を講義します。度数分布表、クロス集計などの表や各種のグラフの読み方、ノンパラメトリック統計及び平均、相関係数などの記述統計量の解釈、さらにこれらの図表の作成や計算の方法を説明します。因果関係と相関関係の区別、疑似相関の概念なども紹介します。本科目を履修するためには、四則演算、比率、分数、2乗と平方根についての理解、Excel の基本的な技能が必要です。調査・統計の方法は実際にデータを扱いながら学ぶことが大切ですので、練習用データの分析を多く行います。

【到達目標】 各種の統計表、グラフを解釈し、これらを作成することができ、ノンパラ検定の方法を理解し、実行することができ、相関関係と因果関係の相違について理解する。

【授業計画】

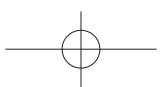
- |                                 |                          |
|---------------------------------|--------------------------|
| 1 官庁統計や調査報告、統計資料図表、質的データを讀むために  | 7 比率                     |
| 2 度数分布表、棒・帯・円グラフ、ヒストグラムの読み方     | 8 探索的データ解析（幹葉表示、箱ひげ図）    |
| 3 度数分布表、棒・帯・円グラフ、ヒストグラムの作成の仕方   | 9 クロス集計表の読み方（ $X^2$ の計算） |
| 4 代表値（平均・中央値・最頻値など）             | 10 属性相関係数、クロス集計表の作成の仕方   |
| 5 散布度（標準偏差・四分偏差・質的変動係数（IQV など）） | 11 3重クロス集計表の読み方          |
| 6 分布に関する統計量（歪度、尖度）              | 12 相関係数のバリエーション          |
|                                 | 13 疑似相関と疑似無相関            |
|                                 | 14 相関関係と因果関係の相違          |
|                                 | 15 定期試験                  |

【テキスト】 Web ページ

【参考文献】 島崎哲彦、『社会調査の実際（最新版）統計調査の方法とデータの分析』学文社、総務省統計局、『統計実務基礎知識』（最新版）、全国統計協会連合会、ハフ、ダレル、1968（1954）、『統計でウソをつく方法』（ブルーバックス B120）、講談社

【授業形態】 講義・演習

【成績評価の方法】 定期試験 70%、レポート 30%



24127

社会統計学

W 指田隆一

㊦社会統計学

〔概要〕【前提科目：基礎統計学】基礎統計学を基礎にして、回帰分析法と分散分析法、多重比較の基礎を説明します。目標はダミー変数を含む重回帰分析と交互作用を含む二元配置分散分析法について、数理的な理解とともに実際のデータ分析能力を高めることです。計算のために表計算ソフト（Excel）、SPSS を利用します。また練習問題を宿題にします。

〔到達目標〕ダミー変数を含む重回帰分析と交互作用を含む二元配置分散分析の方法を理解し、実施できるようになる。因子分析と共分散構造分析の概要を知る。

〔授業計画〕

- |                                       |                                |
|---------------------------------------|--------------------------------|
| 1 【第3章】 相関関係の把握と回帰分析（回帰直線）            | 9 【第9章】 実験デザインと分散分析（1要因デザイン）   |
| 2 【第3章】 相関関係の把握と回帰分析（残差の性質など）         | 10 【第9章】 実験デザインと分散分析（多重比較）     |
| 3 【第4章4.5】 確率モデルと標本分析、【第5章】 推定と検定の考え方 | 11 【第9章】 実験デザインと分散分析（2要因デザイン）  |
| 4 【第7章】 線形モデルの基礎（ベクトルによる表現）           | 12 【第10章】 因子分析と共分散構造分析（考え方モデル） |
| 5 【第7章】 線形モデルの基礎                      | 13 【第10章】 因子分析と共分散構造分析（分析と解釈）  |
| 6 【第8章】 偏相関と重回帰分析（部分相関と偏相関）           | 14 【第10章】 因子分析と共分散構造分析（共分散構造）  |
| 7 【第8章】 偏相関と重回帰分析（重回帰モデル）             | 15 定期試験                        |
| 8 【第8章】 偏相関と重回帰分析、追加ダミー変数を含む重回帰分析     |                                |

〔テキスト〕南風原朝和 2002 『心理統計学の基礎』有斐閣アルマ、有斐閣

〔参考文献〕島崎哲彦、『社会調査の実際（最新版）統計調査の方法とデータの分析』学文社、佐和隆光、1979 『重回帰分析』、朝倉書店、涌井良幸・涌井貞美、2002 『図解でわかる回帰分析』、日本実業出版社

〔授業形態〕講義・コンピュータ操作の実技指導

〔成績評価の方法〕定期試験 100 %

24130

質的調査法

W 田原範子

㊦社会調査演習Ⅲ

〔授業題目〕フィールドワークと民族誌

〔概要〕人びとの暮らしを学ぶ手法としてフィールドワークがある。それは、文献や各種資料を収集し分析すること、当該の社会に参加して観察すること（参与観察）、人びとと特定の話題を定めずに対話すること（聞き取り調査）、調査者と被調査者の相互作用のなかで文章（民族誌）を書くこと、こうした一連の作業を総称する言葉である。民族誌の読解をとおして、質的調査法について学ぶ。

〔到達目標〕ライフヒストリーによる民族誌を作成し、ミクロな人びとの暮らしとマクロな社会的経済的背景を関連させる。

〔授業計画〕

- |                |             |              |
|----------------|-------------|--------------|
| 1 社会調査における質的調査 | 6 インタビュー    | 11 言説分析      |
| 2 参与観察者であること   | 7 語りの正当性    | 12 会話における再帰性 |
| 3 質的調査の伝統      | 8 差異と対話     | 13 ドキュメント分析  |
| 4 フィールドワークの発達  | 9 文化とイデオロギー | 14 調査資料の解釈   |
| 5 ライフヒストリー     | 10 会話分析     | 15 現代的課題     |

〔テキスト〕京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・京都大学東南アジア研究所 『京大式フィールドワーク入門』NTT出版 2006年

〔参考文献〕宮本常一・安溪遊地 『調査されるという迷惑』みずのわ出版 2008年 Darin Weinberg 編 「Qualitative Research Methods」Blackwell Publisher 2001年

〔授業形態〕演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕定期試験にかわるレポート 70 %、平常点 30 %

24142

社会学特殊講義 国際ビジネス

S 中井 誠

〔授業題目〕 グローバル化と国際ビジネス

〔概要〕 近年における経済のグローバル化は様々な問題を引き起こしている。また、これらのグローバル経済の影響は誰もが避けることが出来なくなっている。グローバル経済の下での経営について解説する。

〔到達目標〕 受講者が国際的な感覚を身につけ、グローバル経済についての正しい見識をもつことを目標とする。

〔授業計画〕

- |                      |                |
|----------------------|----------------|
| 1 イントロダクション          | 9 日本の総合商社 (1)  |
| 2 グローバル化とグローバルスタンダード | 10 日本の総合商社 (2) |
| 3 真のグローバル化とは         | 11 アメリカ経済と企業   |
| 4 経済のグローバリゼーション      | 12 ヨーロッパ経済と企業  |
| 5 グローバル経済下の企業経営      | 13 EU統合の歴史     |
| 6 リージョナリズムとナショナリズム   | 14 日本が歩むべき道とは  |
| 7 日本企業の海外進出 (1)      | 15 定期試験        |
| 8 日本企業の海外進出 (2)      |                |

〔テキスト〕 中井誠、『グローバルファイナンス』、同友館

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 100 %

24145

社会学基礎演習

W 指田隆一

㊦社会学基礎演習 I

〔授業題目〕 社会学的視点を学ぼう

〔概要〕 この科目は個人・集団・全体社会という段階ごとに社会学のキーワードを理解することから始め、日常的に経験する事例からさまざまな領域の現象、世界情勢まで、社会学的に見る見方を演習します。

〔到達目標〕 社会学の分野、主要概念を理解し、いくつかの社会現象について、社会学的に説明できる。社会学用語を使って記述、説明できる。

〔授業計画〕

- |                  |                        |
|------------------|------------------------|
| 1 演習の進め方について     | 8 マクロから見た社会 (2)        |
| 2 ミクロから見た社会 (1)  | 9 マクロから見た社会 (3)        |
| 3 ミクロから見た社会 (2)  | 10 生活場面における社会学への質問     |
| 4 ミクロから見た社会 (3)  | 11 競争と対立の場面における社会学への質問 |
| 5 プロセスから見た社会 (1) | 12 ストリートの場面における社会学への質問 |
| 6 プロセスから見た社会 (2) | 13 社会学の研究方法            |
| 7 マクロから見た社会 (1)  | 14 社会学をきわめて、社会学を活かそう   |

〔テキスト〕 栗田宣義、『図解雑学社会学』、ナツメ社。

〔参考文献〕 授業中適宜指示する。

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 授業レポートおよび課題提出 50 %、定期試験に替わるレポート 50 %。

24145

社会学基礎演習

W 大関雅弘

㊦社会学基礎演習 I

〔授業題目〕 社会現象を読みとる

〔概要〕 演習形式で、さまざまな社会現象に関するデータを読み取り、その背景にある論理を把握していく。その際に、受講生は、社会学的な概念のもつ役割の重要性を認識し、鍵となる社会学用語を身につける。

〔到達目標〕 いくつかの社会現象について、社会学的に説明できる (社会学用語を使って記述、説明できる)。

〔授業計画〕

- |                      |                   |
|----------------------|-------------------|
| 1 オリエンテーション：人間関係を捉える | 8 ナショナリズム・国際化・宗教② |
| 2 男女と家庭のあり方①         | 9 仕事と余暇①          |
| 3 男女と家庭のあり方②         | 10 仕事と余暇②         |
| 4 男女と家庭のあり方③         | 11 日常生活の社会学①      |
| 5 政治の社会学①            | 12 日常生活の社会学②      |
| 6 政治の社会学②            | 13 日常生活の社会学③      |
| 7 ナショナリズム・国際化・宗教①    | 14 まとめ：世代による意識変化  |

〔テキスト〕 NHK 放送文化研究所 (編)、『現代日本人の意識構造』、NHK ブックス

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 授業レポートおよび課題提出 50 %、定期試験 50 %

24145

社会学基礎演習

W 齊藤素子

㊦社会学基礎演習 I

〔概要〕 テキストを読み、社会学用語や社会的なものの方の基礎を身につけるとともに、資料を集め、レポートにまとめ、発表するなどの演習形式の授業の基礎を実践的に学習する。

〔到達目標〕 いくつかの社会現象について、社会的に説明できる。

〔授業計画〕

- |              |            |           |
|--------------|------------|-----------|
| 1 オリエンテーション  | 6 地位と役割    | 11 全体社会   |
| 2 社会学とは何か    | 7 集団と相互作用  | 12 社会変動   |
| 3 社会学の基本を知ろう | 8 集団のメカニズム | 13 遊びの社会学 |
| 4 行為と行動      | 9 社会の構造    | 14 結婚の社会学 |
| 5 社会規範       | 10 権力と支配   | 15 犯罪の社会学 |

〔テキスト〕 森下伸也著『社会学がわかる事典』（日本実業出版社）

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義・演習・発表

〔成績評価の方法〕 授業レポートおよび課題提出 50%、定期試験に替わるレポート 50%

24145

社会学基礎演習

W 田原範子

㊦社会学基礎演習 I

〔授業題目〕 現代文化の社会学

〔概要〕 現代社会を特徴づける現象をとらえて社会学の基礎的な用語・概念を学ぶ。そして、私たちの生活環境や人間関係のなかから自分の問いを発見し、深め、学問的に展開する。

〔到達目標〕 いくつかの社会現象について、社会的用語を使って記述・説明できる。

〔授業計画〕

- |                    |                  |
|--------------------|------------------|
| 1 コンフレント・ラブの可能性    | 9 盆踊りの「にぎわい」     |
| 2 お笑い女性をめぐる言説      | 10 ケータイの「圏外」とは何か |
| 3 心理ブームと個人信仰       | 11 子どもと遊び        |
| 4 「田舎暮らし」を取り巻くもの   | 12 「お客様」社会論      |
| 5 贈り物の意味           | 13 ラジオ深夜放送と高齢者   |
| 6 旅の習俗と旅の文化の構造     | 14 文化遺産と現代社会     |
| 7 バレエ教室の「ルール」と「道具」 | 15 定期試験          |
| 8 民話の再発見           |                  |

〔テキスト〕 小川伸彦・山泰幸編『現代文化の社会学入門』ミネルヴァ書房 2007年

〔参考文献〕 新睦人編『新しい社会学のあゆみ』有斐閣アルマ 2006年

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 授業レポートおよび課題提出 50%、定期試験 50%

24145

社会学基礎演習

W 千葉モト子

㊦社会学基礎演習 I

〔概要〕 今、世の中で起きていることを素材に、何が問題で、社会学はそれをどう解釈するのかを示す。この基礎演習では、社会をとらえる「社会学の眼」を養い、社会と人間について考察する。

〔到達目標〕 現代の社会が抱える問題を発見し、その変化の趨勢を分析、予測する社会的思考力を身に付けさせる。

〔授業計画〕

- |                 |                   |
|-----------------|-------------------|
| 1 社会学の方法        | 8 「ジェンダー・フリー」のゆくえ |
| 2 孤人化する社会と親密性の罅 | 9 ネオリベリズムと福祉国家    |
| 3 学校から職業へ       | 10 リスク社会の克服       |
| 4 非行文化を喪失した少年犯罪 | 11 21世紀社会と人類の幸福   |
| 5 地域社会の崩壊と再生の模索 | 12 グローバル化と文明の共生   |
| 6 豊かな社会の格差と不平等  | 13 グローバル化の功罪      |
| 7 社会変動と文化現象     | 14 まとめ            |

〔テキスト〕 友枝敏雄・山田真茂留 編『Do! ソシオロジー 現代日本を社会学で診る』（有斐閣）

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕 レポート 50%、発表等平常点 50%（2/3以下の出席は不可）

24145

社会学基礎演習

W 石井香江

㊦社会学基礎演習 I

〔授業題目〕 現代社会を理解する。

〔概要〕 担当者によるテキストの解説にとどまらず、受講者自身がテキストを実際に読み、まとめ、その結果を報告するという作業を通じて、社会学の基礎的な知識を身につける。

〔到達目標〕 現代社会が抱えている問題を意識し、社会的に分析する能力の基礎を養ってもらう。

〔授業計画〕

- |                      |                      |
|----------------------|----------------------|
| 1 オリエンテーション：社会学の方法   | 8 家族のあり方と現代日本社会 (2)  |
| 2 孤人化する社会の関係性        | 9 グローバル化時代の生活保障 (1)  |
| 3 「優しい関係」を生きる現代の若者たち | 10 グローバル化時代の生活保障 (2) |
| 4 <生きにくさ>の正体を探る      | 11 21世紀社会と人間の幸福 (1)  |
| 5 豊かな社会のかなた (1)      | 12 21世紀社会と人間の幸福 (2)  |
| 6 豊かな社会のかなた (2)      | 13 グローバル化と文明の共生 (1)  |
| 7 家族のあり方と現代日本社会 (1)  | 14 グローバル化と文明の共生 (2)  |

〔テキスト〕 友枝敏雄・山田真茂留 編、『Do！ソシオロジー：現代日本を社会学で診る』、有斐閣

〔参考文献〕 授業中適宜指示する。

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 授業レポートおよび課題提出 50%、最終レポート 50%

24146

社会学文献講読

S 里見 脩

㊦社会学文献講読 I

〔授業題目〕 社会学の基礎の習得

〔概要〕 情報に関する文献講読を通じて、社会、人権、倫理、ジェンダーなど社会学の視点および基礎用語を把握する。

〔到達目標〕 物事を学問的に把握する方法と作法を習得する。

〔授業計画〕

- |             |                    |
|-------------|--------------------|
| 1 オリエンテーション | 9 同 (2)            |
| 2 読書の薦め     | 10 絵本「ちびくろさんぼ」再販論争 |
| 3 読書の方法     | 11 ジェンダーを考える       |
| 4 言論の自由     | 12 視聴率             |
| 5 倫理        | 13 情報社会            |
| 6 戦争 (1)    | 14 卒論・ゼミ論の心構え      |
| 7 同 (2)     | 15 定期試験            |
| 8 人権侵害 (1)  |                    |

〔テキスト〕 柏倉康夫、『マスコミの倫理』、丸善

〔参考文献〕 小林康夫『教養のためのブックガイド』東京大学出版会

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 60%、平常点 40%

24146

社会学文献講読

S 高嶋雅明

㊦社会学文献講読 I

〔授業題目〕 現代日本経済に関する文献を読む

〔概要〕 R. Dore “New Forms and meanings of work in an increasingly globalized world” (2004) を輪読して、「働くということ」の意味を探究していく。

〔到達目標〕 本の読み方についての知識を持つ。文献資料を適切な方法で読み、内容を理解し、表・図 (チャート) に表わすことができる。

〔授業計画〕

- |                      |                             |
|----------------------|-----------------------------|
| 1 オリエンテーション          | 9 「働くことの意味」を探る              |
| 2 R. ドーアの日本研究        | 10 テキスト「社会的変化の方向性」①         |
| 3 テキスト「労働の苦しみと喜び」①   | 11 テキスト「社会的変化の方向性」②         |
| 4 テキスト「労働の苦しみと喜び」②   | 12 テキスト「市場のグローバル化と資本主義の多様性」 |
| 5 テキスト「職場における競争の激化」① | 13 「日本人の仕事観」を考える            |
| 6 テキスト「職場における競争の激化」② | 14 討論：R. ドーアの考え方            |
| 7 テキスト「柔軟性」①         |                             |
| 8 テキスト「柔軟性」②         |                             |

〔テキスト〕 プリント及び、ロナルド・ドーア 『働くということ』、中央公論新社、中公新書 1793

〔参考文献〕 武田晴人『仕事と日本人』(2008年、ちくま新書 698)

〔授業形態〕 演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕 レポート 50%、発表・討論参加などを含む平常点 50%

24146

社会学文献講読

S 千葉モト子

㊤社会学文献講読 I

〔授業題目〕 家族社会学

〔概要〕 パラサイト・シングルの現代的様相を含め、家族、労働、教育をめぐる変化しつつある社会の姿を的確に捉え、読み解こうとするものである。

〔到達目標〕 自殺者数の増加、離婚率の高まり、青少年犯罪の増加など、日本社会の変化をさまざまなデータ、現象を手がかりに、日本の家族のゆくえを多面的に分析する。

〔授業計画〕

- |   |                          |    |                           |
|---|--------------------------|----|---------------------------|
| 1 | 1. パラサイト・シングルの変質—1998年問題 | 8  | (1) 3人に1人は夢がない            |
| 2 | 2. 永久就職は今や昔—平成結婚事情       | 9  | (2) パラサイト親子の背後に祖父母あり      |
| 3 | 3 (1) 「離婚1分49秒に一組」       | 10 | (3) 子どもの学力低下、4人に3人が不安     |
| 4 | 4 (2) 2050年にお年寄り35%超す    | 11 | (4) 「なんちゃって制服」増殖          |
| 5 | 5 (3) 4人に1人「できちゃった婚」     | 12 | 4. パラサイト社会の裏側             |
| 6 | 6 (4) 卵子バンク開設へ           | 13 | (1) 中年男性の自殺急増             |
| 7 | 7 3. 欲しいモノがない—子ども社会の変容   | 14 | (2) 中高年独身者の57.4%が将来に対して不安 |

〔テキスト〕 山田昌弘、『パラサイト社会のゆくえ—データで読み解く日本の家族』 筑摩書房

〔参考文献〕 学生はクラスの人数分のレジюмеを準備する。

〔授業形態〕 演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕 レポート50%、発表等平常点50%（2/3以下の出席は不可）

24146

社会学文献講読

S 中原隆幸

㊤社会学文献講読 I

〔授業題目〕 経済問題を理論に基いて考える

〔概要〕 本講読では「経済問題」を理論的に検討した著作を受講生全員で通読する。与えられた箇所の要約、レジюмеの作成、報告という作業を行うことで次年度以降の社会学演習に備える。

〔到達目標〕 一つのテーマを持って読書を行い、その作業から自らの意見を導き出せる様にする。

〔授業計画〕

- |   |                            |    |                       |
|---|----------------------------|----|-----------------------|
| 1 | 文献講読の意義とその方法               | 8  | 財政支出の問題点：個別報告（7）      |
| 2 | 日本の財政はどのようになっているのか：個別報告（1） | 9  | “ ”：個別報告（8）           |
| 3 | “ ”：個別報告（2）                | 10 | 財政構造の改革を目指して：個別報告（9）  |
| 4 | 現行租税制度の問題点：個別報告（3）         | 11 | 真の地方自治達成のために：個別報告（10） |
| 5 | “ ”：個別報告（4）                | 12 | 財政問題の整理と検討（1）         |
| 6 | 国債の増発は何をもたらすか：個別報告（5）      | 13 | “ ”（2）                |
| 7 | “ ”：個別報告（6）                | 14 | “ ”（3）                |

〔テキスト〕 湯元雅士、『日本の財政—何が問題か—』、岩波書店

〔参考文献〕 講義中に適宜指示する。

〔授業形態〕 講義・発表・対話・討論

〔成績評価の方法〕 発表30%、討論への参加30%、レポート40%

24146

社会学文献講読

S 梁 先姫

㊤社会学文献講読 I

〔授業題目〕 企業と社会との関係

〔概要〕 株式会社を株主のものとするアメリカ型の株主主権論がグローバル標準としてあるようにみえるなかで、従来の日本型会社システム（従業員主権、会社共同体）がなくなりつつある。しかし、「株式会社という制度のなかに、たんに株主主権的な会社だけでなく、会社共同体的な会社も、もっと別の形の会社も可能にする仕組みが仕込まれている」ことを読み解いていきます。

〔到達目標〕 会社は何であるかを理解し、未来の会社のあり方を考える。

〔授業計画〕

- |   |                        |    |                |
|---|------------------------|----|----------------|
| 1 | なぜいま、日本の会社はリストラをするのか   | 8  | 日本型資本主義とサラリーマン |
| 2 | 戦後日本の金融の仕組み            | 9  | 「家」制度と法人       |
| 3 | 会社の仕組み                 | 10 | 21世紀における会社組織   |
| 4 | コーポレート・ガバナンスの実際（1）     | 11 | デ・ファクト・スタンダード  |
| 5 | コーポレート・ガバナンスの実際（2）     | 12 | コア・コンピタンス      |
| 6 | 日本型資本主義の起源             | 13 | 日本の経営のパラドクス    |
| 7 | 組織特異的な人的投資をする日本のサラリーマン | 14 | 会社で働くということ     |

〔テキスト〕 岩井克人、『会社はこれからどうなるのか』、平凡社

〔参考文献〕 講義中に適宜指示する。

〔授業形態〕 講義・発表・討論

〔成績評価の方法〕 レポート40%、小テスト40%、平常点20%

24146

社会学文献講読

S 石井香江

㊦社会学文献講読 I

〔授業題目〕 国際比較の基礎を学ぶ

〔概要〕 グローバル化の進む現在・日本人の「常識」を問い直す機会が増えている。日本と外国を比較する基本的な文献を読み、まとめ、報告し、討論することに慣れてもらう。

〔到達目標〕 本の読み方についての知識を持つ。文献を適切な方法で読み、内容を整理し、表や図に表すことができる。

〔授業計画〕

- |                                |                         |
|--------------------------------|-------------------------|
| 1 オリエンテーション：講義の概要、今後の予定、報告者の決定 | 8 教育：日本とフィンランドの教育（2）    |
| 2 企業：日中の企業組織文化                 | 9 価値観：日本と欧米の公正観         |
| 3 宗教：日米の宗教と組織（1）               | 10 ジェンダー：日本・韓国・台湾の主婦（1） |
| 4 宗教：日本における宗教の意義（2）            | 11 ジェンダー：ワークライフバランス（2）  |
| 5 芸術：日米における芸術の商業化              | 12 エスニシティ：日本人は勤勉な民族なのか？ |
| 6 比較社会を実践してみよう！（1）             | 13 比較社会を実践してみよう！（2）     |
| 7 教育：日米の教育問題（1）                | 14 講義のまとめとレポート作成の準備     |

〔テキスト〕 刈谷剛彦 編、『比較社会・入門：グローバル時代の＜教養＞』、有斐閣

〔参考文献〕

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 授業レポートおよび課題提出 50 %、最終レポート 50 %

24147

社会学研究法

W 石井香江

〔授業題目〕 社会学研究法

〔概要〕 小論文を書く準備からはじめ、基本スキルやマナー、効果的な文章の書き方を实际的に学びながら、最終的には、時事問題に関する小論文を実際に作成してもらう。

〔到達目標〕 小論文を書く上での基本スキルとマナーを身につけた上で、自分の関心に沿った小論文を、分かりやすく、かつ、説得的に書けるようになることを目指す。

〔授業計画〕

- |   |                                   |
|---|-----------------------------------|
| 1 オリエンテーション                             | りやすさ                              |
| 2 小論文を書く準備（1）自分を惹きつける事柄を見つける（新聞を使う）     | 9 分かりやすい小論文を書く（2）視覚的な分かりやすさ       |
| 3 小論文を書く準備（2）情報を収集する（図書館とインターネットを使う）    | 10 パソコンを使って小論文を書く（1）ワープロの基本スキル    |
| 4 小論文を書く準備（3）資料を読解する（資料の読み方と要約）         | 11 パソコンを使って小論文を書く（2）表計算ソフトを使う     |
| 5 小論文の基本スキル（1）小論文作成の手順                  | 12 小論文の実践（1）時事問題を解説後に課題を与えて小論文を作成 |
| 6 小論文の基本スキル（2）小論文のマナー（引用・注・参考文献リスト）とまとめ | 13 小論文の実践（2）時事問題を解説後に課題を与えて小論文を作成 |
| 7 小論文の基本スキル（3）小論文作成の実際（集めた資料を用いて作成）     | 14 小論文の構想を練る                      |
| 8 分かりやすい小論文を書く（1）文章の分か                  |                                   |

〔テキスト〕 なし

〔参考文献〕 必要な資料は配布する。

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 課題および小論文 100 %

## 24147 社会学研究法

W 岡崎桂二

〔概要〕 現代では、情報の選別、解釈、評価能力と、それらを基にした発信力が求められている。これらは訓練を通して伸ばすことが可能であり、講義では特に多角的な思考法と表現力の向上を目指す。

〔到達目標〕 多角的な思考法を身に付けるとともに、説得力のある文章が書ける能力を養成する。

〔授業計画〕

1	思考訓練・PISA と KJ (1)	6	文章理解 (教育)	11	〃 (宗教)
2	〃 (2)	7	〃 (社会)	12	表現演習 (論文作法)
3	〃 (3)	8	〃 (国際問題)	13	〃 (客観性)
4	〃 (4)	9	〃 (政治)	14	〃 (論旨と論述①)
5	〃 (5)	10	〃 (経済)	15	〃 (論旨と論述②)

〔テキスト〕 有地智枝子著『論文・小論文の文章作法がわかる本』(秀和システム)

〔参考文献〕 授業において指示

〔授業形態〕 講義・演習・発表・対話・討論

〔成績評価の方法〕 レポート 40 %、授業時の課題の提出 60 %

## 24147 社会学研究法

W 齊藤素子

〔授業題目〕 研究の基礎を学ぶ

〔概要〕 大学での研究のしかたの基礎について学習する。テキストの読み方、情報の集め方、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方、ディベートの仕方などについて演習方式で実践的に身につける。

〔到達目標〕 資料を収集し、整理して、説得力がある文章を作成する。論文作成の基本的な書式、表記や引用のルールを身につける。

〔授業計画〕

1	オリエンテーション	6	情報を整理する	11	プレゼンをする 聞く
2	テキストを読む	7	レポートを書く	12	プレゼンをする 聞く
3	テキストを読む	8	レポートを書く	13	ディベートをする
4	情報を集める	9	レポートを書く	14	ディベートをする
5	情報を整理する	10	プレゼンをする 聞く	15	まとめ

〔テキスト〕 松本 茂 河野哲也 (著)『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』玉川大学出版部

〔参考文献〕 佐藤 望著、『アカデミック・スキルズ—大学生のための知的技法入門—』、慶応義塾大学出版会

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 課題および小論文 100 %

## 24147 社会学研究法

W 里見 脩

〔授業題目〕 論文作成の基礎

〔概要〕 卒研、ゼミ論を作成するための基本的な方法を学ぶ。文章、ルールは無論だが、その前提として社会的な視点、問題の設定の方法、論理の展開という能力を磨くことを重点に置く。

〔到達目標〕 1 資料を収集し、整理して、説得力がある文章を作成する 2 論文作成の基本的な書式、表記や引用のルールを身につける

〔授業計画〕

1	オリエンテーション	9	同 (2)
2	論文の基礎知識 (1)	10	同 (3)
3	同 (2)	11	論文の仕上げ (1)
4	同 (3)	12	同 (2)
5	論文を作成する段取り (1)	13	同 (3)
6	同 (2)	14	同 (4)
7	同 (3)	15	定期試験
8	論文の作法 (1)		

〔テキスト〕 樋口裕一著『やさしい文章術』(中央公論新社 中公新書ラクレ)

〔参考文献〕 清水幾太郎『論文の書き方』岩波新書 岩崎美紀子『知の方法論』岩波書店

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 課題および小論文 50 % (授業時間内外で課題文 200 ~ 800 字程度の文書、小論文 : A4 版 1.2 ページ (1600、3200 字) 程度を作成する) 定期試験 50 %



24147

社会学研究法

W 高嶋雅明

〔概要〕 テキスト（簡単なエッセーから長文の論考、1冊の書物まで）を読解し、その批評文を書き、発表する作業を繰り返す。あわせて、小論文・レポートの書き方について講義する。

〔到達目標〕 1、資料を収集し整理して、説得力がある文章を作成する。2、論文作成の基本的な書式・表記や引用のルールを身につける。

〔授業計画〕

- |                           |                               |
|---------------------------|-------------------------------|
| 1 オリエンテーション               | 8 同グループ別の議論・発表                |
| 2 小論文・レポートの書き方            | 9 レポート・卒業論文作成の手順              |
| 3 テキストの批評的読解（Ⅰ）テキストの読破・要約 | 10 文献の集め方と整理の方法               |
| 4 同テキストの批評文を書く            | 11 小論文のテーマ設定と関連する文献・資料収集      |
| 5 同グループ別の議論・発表            | 12 小論文作成の準備として、ブック・レビューを書く（Ⅰ） |
| 6 テキストの批評的読解（Ⅱ）テキストの読破・要約 | 13 同、ブック・レビューを書く（Ⅱ）           |
| 7 同テキストの批評文を書く            | 14 同、ブック・レビューの発表              |

〔テキスト〕 特に使用しませんが、適宜、資料を配布します。

〔参考文献〕 講義中に適宜指示します。

〔授業形態〕 講義・演習

〔成績評価の方法〕 課題および小論文 100%（小論文は A4 判 2 ページ程度）。

24147

社会学研究法

W 田中晶子

〔授業題目〕 小論文作成法

〔概要〕 アカデミック・ライティングの基本スキルを学ぶ。テーマの決定から話題の絞込み、最終的な主張を決め、レポートの構成を考え、執筆するという一連の作業を演習形式で行う。また、情報収集法や情報の整理法、適切な引用方法についても概説する。

〔到達目標〕 わかりやすく説得力のある文章を作成する能力を身につけることと、表記や引用ルールを理解することを目標とする。

〔授業計画〕

- |                   |                     |
|-------------------|---------------------|
| 1 オリエンテーション       | 9 わかりやすい文章を書くために①   |
| 2 レポート（論文）と感想文の違い | 10 説得力のある文章を書くために②  |
| 3 テーマの決定と話題の絞込み   | 11 効果的な図表の利用法①      |
| 4 材料収集と整理法①       | 12 効果的な図表の利用法②      |
| 5 材料収集と整理法②       | 13 パソコンを使ったライティング法① |
| 6 表記・引用のルール       | 14 パソコンを使ったライティング法② |
| 7 構成を考える①         | 15 推敲の重要性           |
| 8 構成を考える②         |                     |

〔テキスト〕 なし

〔参考文献〕 学習技術研究会 編著『大学生からのスタディ・スキルズ 知へのステップ』改訂版 くろしお出版

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 課題及び小論文 100%

24147

⑩社会学文献講読Ⅱ

W 長野禎子

〔授業題目〕 社会学文献講読Ⅱ

〔概要〕 東洋人と・西洋人の認識や思考の仕方がいかに違うか、それはなぜ生じるのかを、科学的実験や調査によって明らかにしようとしたニスベットの著と、これと関連する文化心理学の3つの論文とを講読してゆく。

〔到達目標〕 東洋人と西洋人の認識や思考がいかに違うかを科学的な実験や研究成果から、読み取り、要約・発表の能力の向上を目指す。

〔授業計画〕

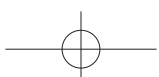
- |                             |  |
|-----------------------------|--|
| 1 イントロダクション                 | 10 第8章 思考の本質が世界共通でないとしたら                                 |
| 2 序章 世界に対する見方はひとつではない       | 11 エピローグ われわれはどこへ向かうのか                                   |
| 3 第1章 古代ギリシャ人と中国人は世界をどう捉えたか | 12 論文：「自己—他者関係の形成—認識と文化」                                 |
| 4 第2章 思考の違いが生まれた社会的背景       | 13 論文：「行動と感情の制御機能の発達—育児文化との関連で」                          |
| 5 第3章 西洋的な自己と東洋的な自己         | 14 論文：「社会的認識の文化的媒介モデル」（柏木、北山、東 編著『文化心理学—理論と実証』所収の第5章の論文） |
| 6 第4章 目に映る世界のかたち            | 15 定期試験  |
| 7 第5章 原因推測の研究から得られた証拠       |  |
| 8 第6章 世界は名詞の集まりか、動詞の集まりか    |  |
| 9 第7章 東洋人が論理を重視してこなかった理由    |  |

〔テキスト〕 リチャードE. ニスベット『木を見る西洋人 森を見る東洋人』（原題 The Geography of Thought）ダイヤモンド社； 柏木恵子 他『文化心理学』（東京大学出版会）中の論文

〔参考文献〕

〔授業形態〕 講義・発表・討論

〔成績評価の方法〕 要約・発表 30%、平常点（毎回授業のまとめ） 30%、定期試験 40%



## 24527

### ㊤社会調査実習A

S 指田隆一

【概要】 【前提科目：社会調査法Ⅱ、統計分析演習、基礎統計学】 この科目と引き続いて社会調査実習Bを学習することにより、社会調査のプロとして必要な調査企画・実施・管理など実際の体験を積むことを主目的とする。今年の調査テーマは、「社会学のイメージ」であり、大学生を対象として、SD法を利用することである。社会調査実習Aでは、社会調査の企画から実査直前までを実習する。学生は、2008年度の成果を踏まえて、2008年度データの再分析と再検討を通して、調査問題の明確化・仮説の構成、問題・仮説に適した調査の企画、調査項目の設定、質問紙の作成、標本抽出、プリテストを実習する。なお、連続して社会調査実習Bを履修すること。社会調査実習Aのみの履修希望は認めない。

【到達目標】 調査問題の設定から質問紙の作成・プリテストまでの調査過程を実施する。調査の条件を考慮した上で、目的・問題と回答者に適した質問紙を作成する。

#### 【授業計画】

- |                                     |                          |
|-------------------------------------|--------------------------|
| 1 科目の目的、学生の心構え、グループ、テーマ、調査設計についての相談 | 8 調査企画書作成                |
| 2 問題の明確化、尺度構成法                      | 9 ワーディング (1)             |
| 3 既存資料の収集と分析 (200年データの再分析を含む)       | 10 ワーディング (2)            |
| 4 問題の定式化・仮説の構成                      | 11 ワーディング (3)            |
| 5 項目選択、整理                           | 12 レイアウト                 |
| 6 モデル化                              | 13 プリテストの結果を検討し、質問紙を改良する |
| 7 分析案                               | 14 質問紙を改良する、質問紙を完成させる    |

【テキスト】 なし

【参考文献】 大山正・岩脇三良・宮埜壽夫、2005、『心理学研究法』(コンパクト心理学ライブラリ12)、サイエンス社、岩下豊彦、1983、『SD法によるイメージの測定』川島書店、林知己夫編、2002、『社会調査ハンドブック』朝倉書店

【授業形態】 実習

【成績評価の方法】 定期試験に替わるレポート30%、平常点70%

## 24528

### ㊤社会調査実習B

W 指田隆一

【概要】 【前提科目：社会調査実習A】 社会調査実習Aの単位取得者のみ登録できます。社会調査実習Aに引き続いてこの科目を学習することにより、社会調査のプロとして必要な調査企画・実施・管理など実際の体験を積むことを主目的とする。社会調査実習Bでは実査から報告書作成までを実習する。学生は、社会調査実習Aで作成した企画書に基づき、データを収集し、収集したデータについて、統計ソフトを利用して、統計的分析を行い、報告書の作成を実習する。

【到達目標】 データの収集から報告書の作成までの調査過程を実習する。質問紙を利用したデータの収集を実習し、データの整理、分析、さらに、報告書を作成する。

#### 【授業計画】

- |                              |                         |
|------------------------------|-------------------------|
| 1 実査準備                       | 8 モデルに基づく分析結果の検討 (1)    |
| 2 実査                         | 9 モデルに基づく分析結果の検討 (2)    |
| 3 エディティング、データエントリー、データクリーニング | 10 分析結果の総合的な検討          |
| 4 集計・分析                      | 11 他の調査・研究との比較          |
| 5 代表性の検討、単純集計結果の検討           | 12 一般化可能性の検討            |
| 6 クロス集計結果および散布図の検討           | 13 成果の整理                |
| 7 因子分析、信頼性分析結果、妥当性の検討        | 14 報告書作成、報告 (プレゼンテーション) |

【テキスト】 なし

【参考文献】 林知己夫編、2002、『社会調査ハンドブック』朝倉書店

【授業形態】 実習

【成績評価の方法】 定期試験に替わるレポート70%、平常点30%

24530

⑩産業心理学

W 木村三千世

〔授業題目〕 組織内の人間の行動と心理

〔概要〕 組織に所属する人々の行動特性やその背後にある心理等に関する「組織行動」、組織経営の鍵ともいえる人事評価・処遇・人材育成等に関する「人的資源管理」、働く人々の安全と心身両面の健康の保全・促進等に関する「安全衛生」、マーケティングおよび消費者心理等に関する「消費者行動」を体系的に学ぶ。

〔到達目標〕 多様な要素が渦巻くワークライフを客観的に受け止める基盤となる産業心理学に関する理論を体系的、実践的に理解することを目標とする。

〔授業計画〕

- |                     |                     |
|---------------------|---------------------|
| 1 労働者と組織            | 9 組織の変革と管理者のリーダーシップ |
| 2 採用と面接             | 10 消費者行動            |
| 3 ワーク・モチベーション       | 11 消費者の価格判断と心的会計    |
| 4 キャリアの展開と育成        | 12 感性マーケティング        |
| 5 人事評価              | 13 消費者の意思決定過程       |
| 6 組織の情報処理とコミュニケーション | 14 人間工学             |
| 7 仕事の効率と安全          | 15 定期試験             |
| 8 職場の快適性・労働・ストレス    |                     |

〔テキスト〕 山口裕幸他著『産業・組織心理学』（有斐閣）

〔参考文献〕 講義内適宜指示する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 %、平常点 30 %

24543

⑩マーケティング A

S 羽路駒次

〔授業題目〕 企業における競争優位のあり方

〔概要〕 激変する顧客のニーズ、ウォンツを的確に理解し、明確且独自のポジショニングを確立しつつ、企業はあらゆる経営資源を投入して競争優位を計っている。マーケティングはその中核を担っている。

〔到達目標〕 現代企業及び組織の中核をなすマーケティングについての全体的理解を促し、より広い視野と本質を的確にとらえる能力を磨くことを目指す。

〔授業計画〕

- |                     |                          |
|---------------------|--------------------------|
| 1 マーケティングと流通        | 9 消費者行動の基本的理解            |
| 2 マーケティング・コンセプトの変遷  | 10 マーケティングにおける消費者行動一般モデル |
| 3 ポジショニングに関する理解     | 11 競合企業の行動に対する理解         |
| 4 事業の定義＝戦略グループの確定＝  | 12 競争戦略の基本構造             |
| 5 標的市場＝市場（顧客）の絞り込み＝ | 13 法規制・緩和及び技術革新          |
| 6 差別化戦略の意味          | 14 マーケティングとCSR           |
| 7 企業をとりまく市場環境       | 15 定期試験                  |
| 8 現代消費環境の特性         |                          |

〔テキスト〕 羽路駒次（他）編著『新経営学』（晃洋書房 2003年）

〔参考文献〕 羽路駒次（他）編著『商学概論』（晃洋書房 2000年）

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 講義の理解度をチェックする為、毎回 1600 字程度のレポート提出（50 %）、定期試験（50 %）

24544

⑩マーケティング B

W 原田保秀

〔概要〕 市場成熟化時代において顧客満足をどのように実現するかが企業の明暗を分ける。顧客満足を創造するマーケティング活動の重要性は増すばかりである。

〔到達目標〕 時事的な問題も踏まえて、マーケティングの基本的な枠組みを理解することを目標とする。また、販売士検定 3 級が取得できる程度の力が身につくように講義をすすめる。

〔授業計画〕

- |                   |               |
|-------------------|---------------|
| 1 現代市場とマーケティングの発展 | 9 プロモーション戦略   |
| 2 市場調査            | 10 小売業の類型     |
| 3 販売政策            | 11 マーチャンダイジング |
| 4 仕入政策            | 12 ストアオペレーション |
| 5 商品管理            | 13 顧客管理と販売促進  |
| 6 製品戦略            | 14 販売事務と計数管理  |
| 7 価格戦略            | 15 期末テスト      |
| 8 チャネル戦略          |               |

〔テキスト〕 藤原徹三他著『テキストマネジメント』（学文社）

〔参考文献〕

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 期末テスト 80 %、出席点 20 %

24547

⑩ファイナンス（リスク管理） S 原田保秀

〔授業題目〕 ライフ&リスクマネジメント

〔概要〕 個々人のライフプランを実現し、豊かな人生を送るためには、人生における資金計画（ファイナンシャルプランニング）を立案することは重要であり、そのためには広範な領域の知識が必要である。本講義では、このうちライフプランニング、社会保険、生命保険、損害保険についての基本的な知識を学ぶ。

〔到達目標〕 国家試験FP技能士3級試験に対応した講義であり、講義終了時には、ライフプランニング、社会保険、生命保険、損害保険に関してはFP技能士3級試験に十分挑戦できる程度の知識の習得を目指す。

〔授業計画〕

- |              |             |          |
|--------------|-------------|----------|
| 1 FPと倫理      | 6 公的年金②     | 11 生命保険① |
| 2 ライフプランニング① | 7 企業年金と個人年金 | 12 生命保険② |
| 3 ライフプランニング② | 8 年金と税金     | 13 損害保険① |
| 4 社会保険       | 9 リスクマネジメント | 14 損害保険② |
| 5 公的年金①      | 10 保険の基礎知識  | 15 定期試験  |

〔テキスト〕 『パーフェクトFP技能士入門3級用』（きんざいファイナンシャル・プランナーズ・センター）

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義・演習

〔成績評価の方法〕 定期試験80%、平常点20%

24548

⑩ファイナンス（資産管理） S 中井 誠

〔授業題目〕 資産運用と資産の管理を学ぶ

〔概要〕 ファイナンシャル・プランナーの資格取得に必要な金融資産運用設計に焦点を当てて講義する。金融・経済の仕組みと見方、金融商品の内容、金融商品の選び方について学習する。

〔到達目標〕 金融及び金融商品について必要最小限の知識を修得することを目標とする。

〔授業計画〕

- |                         |                   |
|-------------------------|-------------------|
| 1 イントロダクション             | 9 財形貯蓄制度          |
| 2 景気見通しの重要性             | 10 預金保険制度         |
| 3 経済指標とその見方             | 11 消費者契約法と金融商品販売法 |
| 4 金融市場とは（短期金融市場と長期金融市場） | 12 代表的な貯蓄型金融商品    |
| 5 金融政策と財政政策             | 13 積立型金融商品        |
| 6 金利に関する基礎知識            | 14 金融商品の運び方       |
| 7 外国為替市場                | 15 定期試験           |
| 8 貯蓄型金融商品               |                   |

〔テキスト〕 LEC出版編著『3級FP技能士楽習マスターテキスト』、LEC出版（東京リーガルマインド）ノースアイランド編、『速攻テキスト』、日本経済新聞社のいずれかを使用する。

〔参考文献〕 FP3級テキスト、問題集（ノースアイランド編速攻問題集）

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 クイズ（20%）及び定期試験（80%）

24549

⑩ファイナンス（税法） S 徳 芳郎

〔授業題目〕 タックスプランニングの基礎

〔概要〕 所得税、法人税、消費税、不動産に係る税、相続税、贈与税および事業承継に関する事項など、タックスプランニングに必要な税の仕組みや特徴、計算方法を学習する。

〔到達目標〕 タックスプランニングに必要とされる基本的な税金知識と理論を理解し、実務における考え方を修得する。

〔授業計画〕

- |                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| 1 租税の種類・分類         | 9 不動産② 不動産の売却に係る税金 |
| 2 所得税① 計算体系—所得の種類1 | 10 贈与と贈与税          |
| 3 所得税② 所得の種類2・課税標準 | 11 相続と法律           |
| 4 所得税③ 所得控除・税額計算   | 12 相続税の基礎          |
| 5 法人税              | 13 財産評価            |
| 6 消費税              | 14 事業承継円滑化法        |
| 7 会社役員間の税務・決算書分析   | 15 定期試験            |
| 8 不動産① 取得・所有に係る税金  |                    |

〔テキスト〕 きんざいファイナンシャル・プランナーズ・センター著『2級FP技能士 下巻』（株式会社きんざい）

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験80%、平常点20%

## 24550

### ㊤ファイナンス演習

W 原田保秀

〔概要〕 ライフプラン上の夢を実現し目標を達成するために、様々なデータを基に総合的な生活設計のプランニングが行えるように、ファイナンス（リスク管理）（資産管理）（税法）において学んだ知識をさらに深め、問題・課題解決能力の向上を図る。

〔到達目標〕 本講義では、ファイナンス（リスク管理）（資産管理）（税法）で学んだことを基礎にして、総合的なプランニング技術を習得することを目標とする。さらに、国家資格であるFP技能検定3級にも対応させたい。

〔授業計画〕

1 FPの仕事	6 所得税2	11 事業継承
2 ライフイベントと資金計画	7 所得税3	12 金融資産運用1
3 リスク管理1	8 相続税1	13 金融資産運用2
4 リスク管理2	9 相続税2	14 不動産
5 所得税1	10 贈与税	15 定期試験

〔テキスト〕 きんざいファイナンシャル・プランナーズ・センター著『パーフェクトFP技能士3級対策問題集 学科編』（きんざい）

〔参考文献〕 ファイナンス（リスク管理）（資産管理）（税法）で使用したテキスト

〔授業形態〕 講義・演習

〔成績評価の方法〕 定期試験70%、平常点30%

## 24564

### ㊤企業関係法Ⅰ

S 村田利喜彌

〔授業題目〕 独禁法、消費者契約法、PL法

〔概要〕 経済活動を規律する経済法の基本法である「独占禁止法」や、企業と消費者との関係の基本ルールを定めた「消費者契約法」、悪徳商法から消費者を保護する「特定商取引法」、そして製造業者等が負う責任を定めた「製造物責任法（PL法）」の意義等について概説する。

〔到達目標〕 独占禁止法、消費者契約法、特定商取引法、製造物責任法についての基礎的知識の修得を目標とする。

〔授業計画〕

1 オリエンテーション	6 私的独占の禁止	11 消費者契約法4
2 企業とは	7 消費者問題とは何か	12 特定商取引法1
3 カルテルの規制1	8 消費者契約法1	13 特定商取引法2
4 不公正な取引方法の規制1	9 消費者契約法2	14 製造物責任法
5 不公正な取引方法の規制2	10 消費者契約法3	15 定期試験

〔テキスト〕 レジュメを配布する

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験70%、小テスト20%、平常点10%

## 24565

### ㊤企業関係法Ⅱ

W 村田利喜彌

〔授業題目〕 倒産法についての基礎理論

〔概要〕 経済的破綻は企業だけではなく、個人レベルでも起こりえる身近な問題でもある。清算型倒産処分制度である破産手続きを中心に引き上げ、再建型である民事再生手続、特定調停手続、会社更生手続について概説する。

〔到達目標〕 経済的破綻をめぐる倒産法についての理解を深めることを目標とする

〔授業計画〕

1 オリエンテーション	9 双務契約2（雇用・請負）・財団債権
2 破産手続開始の原因	10 取戻権・別除権
3 破産手続開始の申立てと決定	11 相殺権
4 破産手続開始の効果	12 否認権・免責
5 破産財団	13 個人債務者再生手続等
6 破産債権	14 特定調停手続・会社更正手続
7 配当・破産手続廃止	15 定期試験
8 双務契約1（売買・賃貸借）	

〔テキスト〕 レジュメを配布する

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験70%、小テスト20%、平常点10%

24569

㊦**家族病理学**

S 齊藤素子

〔授業題目〕 現代家族の危機

〔概要〕 家族のライフサイクルと発達課題を軸として、現代家族が直面する危機の実際について、夫婦、親子の相互関係に焦点を当てながら考察する。

〔到達目標〕 家族関係の発達過程に起る様々な危機について、発達課題との関係で理解する。

〔授業計画〕

- |                   |                |
|-------------------|----------------|
| 1 オリエンテーション       | 9 排出期の家族       |
| 2 家族病理学の基礎概念      | 10 老年期の家族      |
| 3 現代家族の動向         | 11 孤老期の家族      |
| 4 家族のライフサイクルと発達課題 | 12 家族危機の諸相 (1) |
| 5 ヤングアダルト期の問題     | 13 家族危機の諸相 (2) |
| 6 新婚期の家族          | 14 家族危機の諸相 (3) |
| 7 養育期の家族          | 15 まとめ         |
| 8 教育期の家族          |                |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 望月嵩、木村汎編『現代家族の危機』有斐閣

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 90 %、平常点 10 %

24605

㊦**精神病態論**

W 武中美佳子

〔授業題目〕 心の病と関わり方

〔概要〕 ヒューマンサービスに携わる人々にとって心の病気の理解は必須の学習領域である。心の病気の理解、対応法について、代表的な事例を通して学ぶ。

〔到達目標〕 精神障害に関する知識の習得。自己や他者理解にも役立つ。

〔授業計画〕

- |                  |                  |
|------------------|------------------|
| 1 精神障害のオリエンテーション | 9 幻覚・妄想とはなにか     |
| 2 精神障害の分類        | 10 統合失調症         |
| 3 ストレスチェック・心身症   | 11 身体疾患から起こる精神障害 |
| 4 不安を巡る様々な事例     | 12 脳とこころ         |
| 5 ヒステリーとは        | 13 認知症・老年期心理     |
| 6 気分障害           | 14 ライフサイクルと精神障害  |
| 7 適応障害・人格障害を考える  | 15 定期試験          |
| 8 摂食障害・PTSDとは    |                  |

〔テキスト〕 堀川直史、野村総一郎編集『精神科必修ハンドブック』（羊土社）

〔参考文献〕 適宜紹介

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 %、授業態度 30 %

24607

㊦**カウンセリング理論**

W 上野淳子

〔授業題目〕 カウンセリングの諸理論

〔概要〕 カウンセリングの様々な理論を幅広く紹介する。様々な技法を比較検討し、長所、短所を示す。適宜実習やグループワークを行うので、自らの心理を振り返り、分析、表現する意欲が求められる。

〔到達目標〕 ①カウンセリングの諸理論の概要と特長の理解。②日常における自らの行動・心理傾向の把握。③カウンセリング的対応のある程度の習得。

〔授業計画〕

- |             |                    |
|-------------|--------------------|
| 1 カウンセリングとは | 9 家族療法・集団療法        |
| 2 精神分析      | 10 森田療法            |
| 3 分析心理学     | 11 内観療法            |
| 4 行動療法      | 12 カウンセラーの基本的態度    |
| 5 認知行動療法    | 13 カウンセリングの基本的技術   |
| 6 論理療法      | 14 カウンセリングの対応のポイント |
| 7 来談者中心療法   | 15 定期試験            |
| 8 ゲシュタルト療法  |                    |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 適宜資料を配布する。

〔授業形態〕 講義・実習・討論

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 %、平常点（小テスト） 30 %

24609

㊦コミュニケーション論

W 田川恭識

〔授業題目〕 コミュニケーション

〔概要〕 人間に備わっている独自のコミュニケーションの特質について基礎的に理解するとともに、現代におけるコミュニケーションの問題を考察し、そのあるべきすがたを探っていく。

〔到達目標〕 コミュニケーションのあり方・システムについて理解するとともに、授業で得た知識を実際のコミュニケーションにおいて有効に活用できるようになる。

〔授業計画〕

- |                   |                  |
|-------------------|------------------|
| 1 オリエンテーション       | 9 コミュニケーションと文化1  |
| 2 コミュニケーションとは     | 10 コミュニケーションと文化2 |
| 3 コミュニケーションの基礎概念1 | 11 コミュニケーションと文化3 |
| 4 コミュニケーションの基礎概念2 | 12 コミュニケーションの諸相1 |
| 5 コミュニケーションの基本原則1 | 13 コミュニケーションの諸相2 |
| 6 コミュニケーションの基本原則2 | 14 事例観察          |
| 7 事例観察            | 15 コミュニケーションと社会  |
| 8 中間試験            |                  |

〔テキスト〕 橋本満弘他著『教養としてのコミュニケーション』（北樹出版）

〔参考文献〕

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 試験70%、平常点30%

24624

㊦社会階層論

S 平川 茂

〔授業題目〕 現代日本の階層構成

〔概要〕 現在、日本社会は大きな転換期にある。階層構成の面では、従来の「総中流社会」から「格差社会」に移行しつつある。授業では、この変化の内実を詳しく見る。

〔到達目標〕 ①主要概念の理解②戦後の階層構成の変化の理解③階層の再生産に果たす教育の役割の理解④日本社会の今後を構想する能力の獲得

〔授業計画〕

- |                      |                    |
|----------------------|--------------------|
| 1 階級・階層と格差           | 9 階層の再生産と教育②       |
| 2 階級・階層の現在           | 10 階層の再生産と教育③      |
| 3 「中流」の崩壊？           | 11 「ホワイトカラー・雇用・上層」 |
| 4 アメリカ型か日本型か「第3の道」か？ | 12 フリーターとニート①      |
| 5 階級と階層              | 13 フリーターとニート②      |
| 6 戦後の階層構成の変化         | 14 「格差社会」のゆくえ      |
| 7 SSM調査              | 15 定期試験            |
| 8 階層の再生産と教育①         |                    |

〔テキスト〕

〔参考文献〕『日本の階層システム』全6巻（東京大学出版会）

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験50%、平常点50%

24625

㊦地域社会学

W 平川 茂

〔授業題目〕 地域の課題とその克服の取り組み

〔概要〕 大都市、地方中小都市、郊外そして地方の条件不利地域は現在どんな課題をかかえ、それぞれその課題を克服するためにどんな取り組みをしているかを詳しく見る。

〔到達目標〕 ①主要概念の理解②地方中小都市の「まちづくり」および郊外の「コミュニティづくり」の手法の理解③地方の条件不利地域の困難さの理解

〔授業計画〕

- |                   |                 |
|-------------------|-----------------|
| 1 都市・郊外・地方と地域     | 9 まちづくり三法       |
| 2 大都市の中心市街地商店街    | 10 地方の条件不利地域    |
| 3 都市的生活様式         | 11 郊外の歴史        |
| 4 地方中小都市の中心市街地商店街 | 12 郊外的生活様式      |
| 5 商店街問題からまちづくり問題へ | 13 郊外ニュータウンの高齢化 |
| 6 長浜市のまちづくり       | 14 コミュニティづくり    |
| 7 高山市のまちづくり       | 15 定期試験         |
| 8 青森市のまちづくり       |                 |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 森岡清志編『地域の社会学』（有斐閣）

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験50%、平常点50%

## 24626

### ㊤環境社会学

W 山本 誠

〔概要〕 要〕 世紀末に生きる私たちにとって、環境の問題は目をそむけることのできない大きな課題である。ここでは環境問題の現状を提示し、その背景を考え、さらには解決に至るロジックを検討していきたい。

〔到達目標〕 倫理的、思想的な側面を含めて、環境問題に関するトータルな、そして複眼的な視点を養うことを目標とした。

〔授業計画〕

- |                    |                     |
|--------------------|---------------------|
| 1 オリエンテーション        | 8 異文化の環境認識 (1)      |
| 2 地球環境問題の現状        | 9 異文化の環境認識 (2)      |
| 3 地球環境問題の見通し       | 10 ビデオ (ヨーロッパの取り組み) |
| 4 地球環境問題の困難        | 11 新たな社会への展望 (1)    |
| 5 ビデオ (身近な取り組み)    | 12 新たな社会への展望 (2)    |
| 6 自然保護という思想の系譜 (1) | 13 ビデオ (世界の取り組み)    |
| 7 自然保護という思想の系譜 (2) | 14 まとめ              |

〔テキスト〕 適宜プリントを配布する。

〔参考文献〕 石弘之『環境学の技法』(東大出版会)、見田宗介他編『環境と生態系の社会学』(岩波書店)、鬼頭秀一『自然保護を問いなおす』(筑摩書房)、マーク・ハーツガード『世界の環境危機地帯を往く』(草思社)

〔授業形態〕 講義・AV機器使用

〔成績評価の方法〕 レポート 90%、平常点 10% (予定)

## 24642

### ㊤文化地理学Ⅱ

W 川内眷三

〔授業題目〕 文化地理学と文化景観・文化遺産

〔概要〕 要〕 文化地理学を広義的にとらえれば、生活のスタイルや生活空間、文化要素や文化の動きを考えながら、地域の特質を解明する人文地理学の一分野といえる。文化地理学の方法論の考察とともに、文化景観・文化伝播の側面に立脚して、読図をとりいれながら大阪の古代地域文化の抽出を試みる。

〔到達目標〕 文化遺産への認識を深めるとともに、大阪の古代の社会と生活の足跡をみつめ、現代社会につながる地域文化の理解に努める。

〔授業計画〕

- |                             |                       |
|-----------------------------|-----------------------|
| 1 地理学における文化地理学の位置づけ         | 8 溜池の築造と稲作文化          |
| 2 文化地理学における文化概念             | 9 前方後円墳の立地と文化遺産       |
| 3 文化地理学の枠組み                 | 10 難波宮の立地・復原と文化遺産     |
| 4 文化景観と文化遺産 (世界遺産との関わりのなかで) | 11 古道の立地と流通文化         |
| 5 日本の稲作文化にみる生産と伝播           | 12 社寺の立地と古代港津の流通文化    |
| 6 大阪平野の地形と稲作文化              | 13 世界文化遺産登録の期待と課題 (1) |
| 7 生駒山地西麓の地形と稲作文化            | 14 世界文化遺産登録の期待と課題 (2) |
|                             | 15 定期試験               |

〔テキスト〕 適宜プリント配布

〔参考文献〕 高橋伸夫他著『文化地理学入門』(東洋書林)

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 70%、レポート・平常点 30%

## 24647

### ㊤社会政策

S 奥西達也

〔授業題目〕 社会保障制度の考察

〔概要〕 要〕 私たちは、様々な面で政府による保護を受けながら生活を営んでいます。この最大の制度的援助が、社会保障制度です。年金制度、医療保険制度、雇用保険制度といった社会的弱者を保護する目的で設立された諸制度は、社会経済システムにおいてどのような役割を果たしているのでしょうか。

〔到達目標〕 本講ではこうした制度の相互関連に着目して社会保障体制の現状を考察します。

〔授業計画〕

- |                          |                          |
|--------------------------|--------------------------|
| 1 社会経済システムのしくみ           | 9 世界の社会保障体制—②スウェーデン・モデル— |
| 2 制度と経済主体の相互作用           | 10 世界の社会保障体制—③アメリカ・モデル—  |
| 3 インセンティブ・メカニズムを理解する     | 11 経済発展に社会保障制度は不可欠なのか    |
| 4 社会保障制度の現状—①年金制度—       | 12 日本の制度改革の現状—①年金—       |
| 5 社会保障制度の現状—②医療保険制度—     | 13 日本の制度改革の現状—②医療—       |
| 6 社会保障制度の現状—③雇用関係—       | 14 日本の制度改革の現状—③雇用関係—     |
| 7 社会保障体制の類型化—モデル・ビルディング— | 15 定期試験                  |
| 8 世界の社会保障体制—①日本モデル—      |                          |

〔テキスト〕 授業中に指示

〔参考文献〕 追って指示する

〔授業形態〕 対話・双方向授業

〔成績評価の方法〕 定期試験 70%、平常点 30%

24664

㊤国際政治論

W 安藤友香

〔授業題目〕 国際政治学の基礎知識

〔概要〕 国際政治学の基礎的な知識や理論を習得し、その上で、国際政治の歴史と現代の国際社会の問題をめぐる政治学について理解を深める。適宜、配布資料や視聴覚資料などを使用する。

〔到達目標〕 国際政治学の基本的な理論、知識を習得する。

〔授業計画〕

- |  |                                       |
|--|---------------------------------------|
| 第1回 イントロダクション（国際政治学とは何か？）                | 第10回 国際社会におけるガバナンス（国連／平和構築）           |
| 第2回 国際政治を見る視点（リアリズム／リベラリズム／コンストラクティヴィズム） | 第11回 米国同時多発テロとその衝撃①（9.11／アフガニスタン戦争）   |
| 第3回 ウェストファリア体制とその意義                      | 第12回 米国同時多発テロとその衝撃②（イラク戦争と帝国システム）     |
| 第4回 第一次世界大戦と集団安全保障構想                     | 第13回 21世紀の国際政治①（人間の安全保障／反テロ主義／有志連合）   |
| 第5回 第二次世界大戦の終結と冷戦のはじまり                   | 第14回 21世紀の国際政治②（日本の国際貢献／東アジアの国際秩序の構築） |
| 第6回 冷戦①（初期：冷戦の深刻化の道程）                    | 第15回 定期試験                             |
| 第7回 冷戦②（中期：緊張緩和）                         |                                       |
| 第8回 冷戦③（後期：新冷戦）                          |                                       |
| 第9回 二極システムの崩壊と国際社会の課題（共産圏の解体／地域紛争）       |                                       |

〔テキスト〕 講義中に適宜指示する。配布資料なども使用。

〔参考文献〕 講義中に適宜指示する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 60%、平常点および授業時の小テスト等 40%

24666

㊤国際法

S 稲葉実香

〔授業題目〕 国際法

〔概要〕 国家どうしの関係を規律する国際法を学ぶ。外交や国際紛争について、また今後ますます重要性が高まるであろう国際連合その他の国際組織について、またそうした国際的枠組において追求される人権保障について、解説する。

〔到達目標〕 国際的に活動するために必要な国家どうしの関係や外国人の扱いを理解し、また社会人として国際問題を理解し、解決のために活動するための知識を身につける。

〔授業計画〕

- |                       |                        |
|-----------------------|------------------------|
| 1 国際法とは               | 9 戦争と国際法① 紛争の平和的解決     |
| 2 条約                  | 10 戦争と国際法② 戦争の違法化      |
| 3 国際法における国家           | 11 戦争と国際法③ 国際人道法       |
| 4 外交                  | 12 人権の国際的保障① 人権条約      |
| 5 国家責任                | 13 人権の国際的保障② 国連規約人権委員会 |
| 6 国際組織① 国際組織の歴史       | 14 まとめ                 |
| 7 国際組織② 国際連合          | 15 定期試験                |
| 8 国際組織③ 地域的国際組織（EUなど） |                        |

〔テキスト〕 植木俊哉編『ブリッジブック国際法』（信山社、2003年）

〔参考文献〕 広部和也・杉原高嶺編『解説条約集 2009』（三省堂）

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 平常点 30%、定期試験 70%

24683

㊤東洋史 I

S 古泉圓順

〔概要〕 アジアの歴史は漢民族の構成する中国と、これと関わってきた幾多の周辺諸民族との問題に尽きる。甲骨文に見られる「南」や「羌」に始まって、以下「北狄」「西戎」などが常に中原を窺がうという図式が繰り返される。秦・漢王朝も「匈奴」との対応に悩まされ、その匈奴が西遷すると、「鮮卑」が登場する。鮮卑は中原に彼等の王朝「北魏」を樹立し、その系列は後の隋、唐帝国にまで継承される。この構図を、且って「征服王朝」と表現をした人がいるが、「契丹」の遼、「女真」の金、「蒙古」の元、「満州」の清も然りである。しかしこの世界が舞台となってアジア全域の政治・経済・文化等々成長・展開の幕が開くと言うことでもある。

〔到達目標〕 古代から中世に至る中国民族の働きを、アジア全域との関連から考えさせるために、民族学・人類学・言語学等の資料を用意して、理解をはかる。

〔授業計画〕

- |             |              |           |
|-------------|--------------|-----------|
| 1 アジアの自然と住民 | 6 春秋・戦国と騎馬   | 11 晋室の南遷  |
| 2 民族と言語     | 7 秦漢帝国・万里の長城 | 12 北魏の鮮卑族 |
| 3 諸民族の文字    | 8 匈奴の動向      | 13 鮮卑族と隋  |
| 4 漢字文化圏     | 9 三国、両晋時代    | 14 唐帝国    |
| 5 夏・殷・周時代   | 10 五胡十六国     | 15 定期試験   |

〔テキスト〕 貝塚茂樹著『中国の歴史』中（岩波書店）

〔参考文献〕 貝塚茂樹著『中国の歴史』上（岩波書店）

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 80%、平常点 20%

24684

㊤東洋史Ⅱ

W 古泉圓順

〔授業題目〕 中国中世の田制

〔概要〕 中国では古来から理想として王土思想がある。国土は全ての天子の所有であり、これを蒼生つまり人民に等しく班給することによって、民の生活を潤させ、かつ国土も繁栄するというものである。この考え方に立って、上古、すでに井田法が行われたと説く。しかし平等を理想として掲げると言うことは、反面、豪族による不平等な大土地兼併に苦しめられていたかを、物語ることに他ならない。本講では中国の中世における土地所有の状態を、敦煌出土の戸籍文書・田制史料を講読しながら考察する。

〔到達目標〕 我が日本にも伝えられて、班田収授法となった、均田制を理解させて、租税と国家権力の関係、支配・被支配の在り方を学ばせる。

〔授業計画〕

- |                 |                        |
|-----------------|------------------------|
| 1 王土思想          | 8 東晋の多制                |
| 2 井田法           | 9 傖鬼と僑郷                |
| 3 三国時代、曹魏の屯田制   | 11 北魏孝文帝と均田制           |
| 4 西晋における占田制     | 12 西魏の均田制戸籍、S.613V. 文書 |
| 5 課田制の実状        | 13 隋の均田制               |
| 6 八王の乱と大量流民の発生  | 14 唐代田制文書              |
| 7 五胡十六国時代と晋室の東遷 | 15 定期試験                |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 堀敏一著『均田制の研究』（岩波書店）

〔授業形態〕 講義及び講読

〔成績評価の方法〕 定期試験 80 %、平常点 20 %

24686

㊤人文地理学Ⅰ

S 梅原隆治

〔授業題目〕 食の生産と流通

〔概要〕 食の生産を受け持つ第1次産業は自然環境とのつながりが深い。農・牧・林・水産業の立地条件を考えながら、それらの経営形態や景観の違いを、食材の流通や食の文化とも絡めて見て行く。

〔到達目標〕 大半の学生が高校で地理を未履修であるが、「食糧の生産と需給」を視座に据え、地域性を考察し、地理的知識を深めてもらいたい。

〔授業計画〕

- |                    |                   |
|--------------------|-------------------|
| 1 はじめに（食の地理学）      | 9 ヨーロッパの酪農        |
| 2 農業の立地条件（自然）      | 10 アメリカ合衆国の企業的牧畜業 |
| 3 農業の社会条件と地域区分     | 11 森林帯と林業         |
| 4 様々な自給的農業         | 12 森林破壊、森林保全      |
| 5 伝統的なアジアの農業       | 13 水産業の立地条件       |
| 6 ヨーロッパの商業的農業      | 14 主要漁場と 200 海里問題 |
| 7 新大陸の企業的農業（世界の穀倉） | 15 定期試験           |
| 8 遊牧と牧畜            |                   |

〔テキスト〕 適宜プリント配布、地図帳持参が望ましい。

〔参考文献〕 有蘭正一郎『農耕技術の歴史地理』（2007. 古今書院）、梅田克樹『酪農の地域システム』（2007. 古今書院）、實清隆『大学テキスト 人文地理学』（2006. 古今書院）

〔授業形態〕 講義形式で行なうが、地理学は景観の学でもあるので、画像や映像の提示にも注視してもらいたい。

〔成績評価の方法〕 定期試験 80 %、レポート等の平常点 20 %

24687

㊤人文地理学Ⅱ

W 梅原隆治

〔授業題目〕 住まい、村落と都市（集落地理学）

〔概要〕 大地の表面からは「土地に刻まれた歴史」が読み取れる。それぞれの地域における集落（村落や都市）の歴史的景観を通して、今日的な課題とそれへの対応策を探る。

〔到達目標〕 大半が高等学校での地理未履修者であるので、なるべく幅広く地理学の諸相を身につける。様々な人文地理学の視点で地域性を考察し、地理的知識を深める。

〔授業計画〕

- |                |              |               |
|----------------|--------------|---------------|
| 1 はじめに（住居と地理学） | 6 都市の立地と分布   | 11 さまざまな都市計画  |
| 2 村落の立地条件      | 7 都市の発達と分類   | 12 都市の再開発     |
| 3 村落の形態分類      | 8 都市の機能と地域分化 | 13 さまざまな都市景観① |
| 4 古代・中世の村落景観   | 9 都市化        | 14 さまざまな都市景観② |
| 5 近世・近代の村落景観   | 10 さまざまな都市問題 | 15 定期試験       |

〔テキスト〕 適宜プリント配布、地図帳持参が望ましい。

〔参考文献〕 『現代都市地理学』（北川編、古今書院、2004年）、『景観を考える』（浮田編、大明堂、1988年）、實清隆『大学テキスト 人文地理学』（2006. 古今書院）

〔授業形態〕 講義形式で行なうが、地理学は景観の学でもあるので、画像や映像の提示にも注視してもらいたい。

〔成績評価の方法〕 定期試験 80 %、レポート等の平常点 20 %

24688

㊦自然地理学 I

W 梅原隆治

〔授業題目〕 地形と生活

〔概要〕 主に世界の大小さまざまな地形の成因、分布、特色を、人間生活との関わりをまじえて講義する。地学的知識も必要となる。苦手意識を克服して取り組んでもらいたい。

〔到達目標〕 大半が高校で地理を未履修であるが、ここでは「大地の表面の地形と人間生活」を視座に据え、地域性を考察し、地理的知識を深める。

〔授業計画〕

- |                |                 |               |
|----------------|-----------------|---------------|
| 1 オリエンテーション    | 6 小地形①沖積低地と生活   | 11 氷食地形と生活    |
| 2 大地の輪郭と人間生活   | 7 小地形②洪積台地と生活   | 12 溶食地形他      |
| 3 地形をつくる営力     | 8 微地形と生活        | 13 日本の地形とくらし① |
| 4 大地形①山脈・火山と生活 | 9 海岸地形①沈水海岸と生活  | 14 日本の地形とくらし② |
| 5 大地形②侵食平野と生活  | 10 海岸地形②隆起海岸と生活 | 15 定期試験       |

〔テキスト〕 適宜プリント配布、地図帳持参が望ましい。

〔参考文献〕 『自然地理学講座（全5巻）』（大明堂）、『自然環境と文化』（山本他、大明堂、2001年）、『大学テキスト自然地理学上・下』（大山他、古今書院、2004年）、『地形環境と歴史景観』（日下他、古今書院、2004年）、『風景のなかの自然地理』（杉谷他、古今書院、2005年）、『地形と人間』（池田他、古今書院、2005年）、『環境と人の旅』（外山秀一、古今書院、2008年）、『図説 自然と環境』（江口他、古今書院、2008年）、『ジオとグラフィアの旅 2 自然の旅』（外山秀一、古今書院、2008年）

〔授業形態〕 講義形式で行なうが、地理学は景観の学でもあるので、画像や映像の提示にも注視してもらいたい。

〔成績評価の方法〕 定期試験 80%、レポート等の平常点 20%

24691

㊦地誌 I

S 川内眷三

〔授業題目〕 地理教育と地誌学習

〔概要〕 地理教育において地域をみる方法は、大別して系統地理と地誌に分類される。自然、歴史・生活文化、産業・経済、環境、民族などの特色を地域ごとにとらえ、顕著な事象に着目して分析していく手法が地誌である。地誌 I では教職科目であることを鑑みて、地理教育の方法論を展開する。

〔到達目標〕 身近な野外調査の実践をもとに、地形図の読図の基本をおさえ、自然、環境問題、民族問題などの事象の扱い方を考察し、さらに変貌著しい中国地誌の動向に及んで、地理教育の側面から、地誌学習の方向性と課題を追及し、その認識をたかめる。

〔授業計画〕

- |                                      |                |
|--------------------------------------|----------------|
| 1 系統地理と地誌                            | 7 歴史・生活文化の扱い方  |
| 2 地理教育の歴史と社会・地歴科                     | 8 産業・経済の扱い方    |
| 3 身近な地域学習と野外調査（1）—大学周辺地域実地調査と地形図の読図— | 9 人口・食料問題の扱い方  |
| 4 身近な地域学習と野外調査（2）—抽出課題の分析—           | 10 南北問題の扱い方    |
| 5 身近な地域学習と野外調査（3）—野外調査の意義—           | 11 民族問題の扱い方    |
| 6 自然の扱い方                             | 12 環境問題の扱い方    |
|                                      | 13 中国地誌の扱い方（1） |
|                                      | 14 中国地誌の扱い方（2） |
|                                      | 15 定期試験        |

〔テキスト〕 適宜プリントを配布

〔参考文献〕 地理教育研究会編『授業のための日本地理第4版』（古今書院）、星野朗編著『地理教育をつくる50のポイント』（大月書店）

〔授業形態〕 講義・実習・発表

〔成績評価の方法〕 定期試験 70%、レポート・平常点 30%

## 24692

### ㊤地誌Ⅱ

W 川内眷三

〔授業題目〕 中国水利地誌からの展開

〔概要〕 日本の稲作文化の原点は中国にある。中国の華北で発達した畑作、江南で豊穡した稲作の農業水利の側面から中国地誌をとらえ、それが伝播・派生する身近な地域である河内・和泉の古代の水利開削について考える。

〔到達目標〕 地誌（学）が得意とする地域性差の類似性をみることによって、稲作文化を通して中国との文化交渉の足跡の一端を理解する。

〔授業計画〕

- |                                |                       |
|--------------------------------|-----------------------|
| 1 授業展開の計画と中国歴史の概要              | 8 江南稲作文化の伝播           |
| 2 中国水利史の位置づけ                   | 9 記紀にみる日本の池溝開削        |
| 3 中国の地理区分                      | 10 日本最古の溜池：依網池の復原     |
| 4 中国の農業地域区分と土地利用               | 11 古墳周濠池の灌漑機能と大仙陵池    |
| 5 華北農業の特性（黄土と黄河の関連から）          | 12 現存する日本最古の溜池：狭山池の築造 |
| 6 江南文化の展開と水田農業（長江下流域の地形との関連から） | 13 古市大溝の検証            |
| 7 唐より宋への生産力の発展                 | 14 中国と日本の灌漑水利の比較検討、総括 |
|                                | 15 定期試験               |

〔テキスト〕 適宜プリントを配布

〔参考文献〕 中国総参謀部測絵局編『中華人民共和国地図集』（星球地图出版社（中国））、森田明編『中国水利史の研究』（国書刊行会）

〔授業形態〕 講義・討論

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 %、レポート・平常点 30 %

## 24694

### ㊤社会学基礎演習Ⅱ

W 千葉モト子

〔概要〕 社会学という学問は「理想と現実とのズレ」をどのような視点で考察するかについて学ぶことができる。また、現代の社会問題が、いかに社会全体のシステムや歴史の変動と密接にかかわっているかなどを日常生活の問題から考えていきたい。

〔到達目標〕 現代の社会が抱える問題を発見し、その変化の趨勢を分析、予測する社会学的思考力を身に付けさせる。

〔授業計画〕

- |                       |                |
|-----------------------|----------------|
| 1 社会学からの社会問題アプローチ     | 8 パートナー関係      |
| 2 少年非行と大人の犯罪          | 9 夫婦問題と児童虐待    |
| 3 不登校、ひきこもり           | 10 教育崩壊をめぐる問題  |
| 4 十代の売買春              | 11 高齢化と高齢者問題   |
| 5 薬物乱用                | 12 リストラ、失業、過労死 |
| 6 セクシュアル・ハラスメント、ストーカー | 13 エイズ         |
| 7 自殺                  | 14 環境をめぐる問題    |

〔テキスト〕 矢島正見編著『新版生活問題の社会学』（学文社）

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕 レポート 50 %、発表等平常点 50 %（2 / 3 以下の出席は不可）

## 24701

### ㊤社会学演習Ⅰ

S 石井香江

〔授業題目〕 国際社会学ゼミⅠ

〔概要〕 国際社会学は地域・民族・地球に着目し、人・モノ・情報の移動といった脱国家・超国境の現象や、環境問題など地球規模の現象について研究する新しい学問分野です。夏学期は、ヨーロッパを事例に国際社会学の基礎を学びます。

〔到達目標〕 夏学期は、読みやすいテキスト輪読、報告してもらう中で、国際社会学の基礎を理解し、発表するスキルを習得してもらいます。

〔授業計画〕

- |                                |                           |
|--------------------------------|---------------------------|
| 1 オリエンテーション：演習の概要、今後の予定、報告者の決定 | 8 移民とローカル・シティズンシップ        |
| 2 なぜシティズンシップなのか                | 9 家族、ジェンダー、平等             |
| 3 再生するネーション                    | 10 逆風とチャレンジ               |
| 4 言語、アイデンティティ、シティズンシップ         | 11 ヨーロッパ、日本を通して見えること      |
| 5 新しい移民大陸ヨーロッパ                 | 12 国際社会学の理論（1）：国際移民の社会学   |
| 6 どのようにシティズンシップを保障するか          | 13 国際社会学の理論（2）：エスニシティの社会学 |
| 7 EU シティズンシップの理想と現実            | 14 演習のまとめとレポート作成の準備       |

〔テキスト〕 宮島喬、『ヨーロッパ市民の誕生—開かれたシティズンシップへ』、岩波書店

〔参考文献〕

〔授業形態〕 演習・発表・対話

〔成績評価の方法〕 レポート 50 %、平常点 50 %



### 24701

#### ㊤社会学演習 I

S 梅原隆治

〔授業題目〕文化地理学入門

〔概要〕地理学の入門書をテキストに用いて、地理学の諸相を学ぶ。人類の自然への働きかけ、大地への刻印、つまり土地に刻まれた歴史こそが文化景観でもある。その景観から学ぶ。

〔到達目標〕高校で地理を履修しなかった学生が大半なので、地理的な見方や景観を読み解くすべを、身近な事例から理解できるようにする。

〔授業計画〕

- |                |            |                 |
|----------------|------------|-----------------|
| 1 オリエンテーション    | ア          | 10 人はいかに分布するか   |
| 2 ジオグラフィーの基礎   | 6 選挙にみる地理学 | 11 人は移動する       |
| 3 自然環境と人間社会    | 7 人々の行動分析  | 12 都市の内部構造を見る   |
| 4 時間距離と地理学     | 8 頭のなかの地図  | 13 都市の郊外        |
| 5 分布図でみるオーストラリ | 9 地図は語る    | 14 モータリゼーションと地域 |

〔テキスト〕高橋・谷内・阿部・佐藤・杉谷編『改訂新版 ジオグラフィー入門』古今書院、2008.8.20.

〔参考文献〕漆原・藤塚・松山・大西編『図説 世界の地域問題』ナカニシヤ出版、2007。『文化地理学ガイダンス』ナカニシヤ出版、2006。實清隆『大学テキスト 人文地理学』古今書院、2006。高橋・内田・岡本・佐藤編『現代地理学入門 身近な地域から世界まで』古今書院、2005。浮田典良『地理学入門—マルティ・スケル・ジオグラフィー』大明堂、1995。

〔授業形態〕講義・演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕レポート 50 %、発表等 50 %

### 24701

#### ㊤社会学演習 I

S 大関雅弘

〔授業題目〕日常意識の社会学

〔概要〕われわれが日常生活において“当然のこと”として考えたことを、何故それがあたりまえなのかを問い直すことによって、これまで意識してこなかった社会の「構造のあり方」を浮き彫りにしていく。

〔到達目標〕社会学的なものの見方・考え方はどのようなものであるのか、さまざまなテーマに即して把握すること。

〔授業計画〕

- |                        |                         |
|------------------------|-------------------------|
| 1 「日常意識」とは何か           | 8 社会構造の変化と日常意識②         |
| 2 「日常意識」研究の方法          | 9 社会構造の変化と日常意識③         |
| 3 人間関係を把握する①           | 10 「概念」による「現実」の把握とは (2) |
| 4 人間関係を把握する②           | 11 新聞・雑誌を用いた日常意識の研究①    |
| 5 人間関係を把握する③           | 12 新聞・雑誌を用いた日常意識の研究②    |
| 6 「概念」による「現実」の把握とは (1) | 13 新聞・雑誌を用いた日常意識の研究③    |
| 7 社会構造の変化と日常意識①        | 14 「日常意識」研究の課題          |

〔テキスト〕なし

〔参考文献〕講義中に適宜指示する。

〔授業形態〕演習・発表・対話・討論・AV 機器使用

〔成績評価の方法〕課題提出 80 %、平常点 20 %

### 24701

#### ㊤社会学演習 I

S 齊藤素子

〔授業題目〕社会病理学ゼミ I

〔概要〕本ゼミでは、様々な社会病理現象について研究する。テキストにそって、ミクロな社会の現代的な病理現象についてゼミ形式で文献学習し、意見交換する。

〔到達目標〕文献学習により、ミクロ社会の病理の諸相について理解するとともに、自分の研究テーマを見つける。

〔授業計画〕

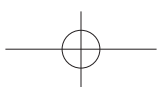
- |             |                   |
|-------------|-------------------|
| 1 オリエンテーション | 9 過労死             |
| 2 病める関係性の時代 | 10 夫婦間コンフリクト      |
| 3 いじめ       | 11 ドメスティック・バイオレンス |
| 4 不登校       | 12 セクシャル・ハラスメント   |
| 5 ひきこもり     | 13 ストーカー          |
| 6 少年非行      | 14 自殺             |
| 7 少女売春      | 15 まとめ            |
| 8 子ども虐待     |                   |

〔テキスト〕高原正興ほか編著、『社会病理学 病める関係性』学文社

〔参考文献〕

〔授業形態〕講義・演習・発表・討論・学外授業

〔成績評価の方法〕レポート 50 %、平常点 50 %



## 24701

### ㊦社会学演習 I

S 里見 脩

〔授業題目〕社会情報論ゼミ I

〔概要〕 テレビ、新聞、IT、携帯電話など、我々を取り巻く情報やメディアに関する諸問題を取り上げ、「社会情報学」の基礎概念について理解を深める。

〔到達目標〕 理解と研究を進める「基礎」を習得し、進んで、主体的に思考する姿勢を身に付けることに重点を置く。

〔授業計画〕

- |                |                      |
|----------------|----------------------|
| 1 オリエンテーション    | 9 現状分析① マス・メディア (1)  |
| 2 「情報」「メディア」とは | 10 現状分析② マス・メディア (2) |
| 3 方法論①基礎理論     | 11 論文とは              |
| 4 方法論② 同       | 12 研究テーマ① 設定の方法 (1)  |
| 5 歴史①概観        | 13 研究テーマ② 同 (2)      |
| 6 歴史②イギリス      | 14 研究テーマ③ 同 (3)      |
| 7 歴史③アメリカ      | 15 定期試験              |
| 8 歴史④日本        |                      |

〔テキスト〕 藤江俊彦、『はじめてのマスコミ論』、同友館

〔参考文献〕 里見 脩『ニュースエージェンシー』中央公論新社

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 50 %、発表と討論 50 %

## 24701

### ㊦社会学演習 I

S 高嶋雅明

〔授業題目〕現代日本の経済・経営分析 I

〔概要〕 高度経済成長の時期（主として1960年代・70年代前半）を、共通のテキストを使って、政治・経済・経営・社会の各方向から探究し、各自の関心に沿った研究テーマを見出せるよう指導する。

〔到達目標〕 現代日本の経済と社会を歴史的素養を持って理解し、各自の関心を明確化すること。

〔授業計画〕

- |                     |             |
|---------------------|-------------|
| 1 オリエンテーション         | 8 飛躍的な経済成長② |
| 2 現代日本経済及び経済史研究について | 9 レポートの書き方  |
| 3 経済史・経営史文献の探し方     | 10 企業人の挑戦①  |
| 4 社史・伝記の使い方         | 11 企業人の挑戦②  |
| 5 高度成長期の政治と社会①      | 12 経済大国日本①  |
| 6 高度成長期の政治と社会②      | 13 経済大国日本②  |
| 7 飛躍的な経済成長①         | 14 レポートの報告  |

〔テキスト〕 武田晴人『高度成長』、岩波書店、岩波新書（新赤坂）1049

〔参考文献〕 授業のなかで適宜、紹介します。

〔授業形態〕 演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕 レポート 50 %、発表・討論等を含む平常点 50 %

## 24701

### ㊦社会学演習 I

S 田中晶子

〔授業題目〕社会心理学ゼミ I

〔概要〕 テキストを通して社会心理学における研究（心理学的な視点）への理解を深める。また、研究における問題の設定方法、資料収集法、プレゼンテーション法についても学ぶ。

〔到達目標〕 受講生がそれぞれの関心に沿った研究テーマを見出すことを目標とする。

〔授業計画〕

- |                       |                     |
|-----------------------|---------------------|
| 1 オリエンテーション           | 8 テキスト『自分の中で』②      |
| 2 心理学研究法①問題の設定        | 9 テキスト『人と結びつきながら』①  |
| 3 心理学研究法②資料収集の方法      | 10 テキスト『人と結びつきながら』② |
| 4 心理学研究法③プレゼンテーションの方法 | 11 テキスト『社会に向かって』①   |
| 5 テキスト『人に対して』①        | 12 テキストより『社会に向かって』② |
| 6 テキスト『人に対して』②        | 13 研究テーマ（問題）の設定①    |
| 7 テキスト『自分の中で』①        | 14 研究テーマ（問題）の設定②    |

〔テキスト〕 松井 豊、白石 崇、村井 潤一郎『対人心理学の視点』（ブレーン出版）

〔参考文献〕 各自の研究テーマに応じて、講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕 発表 70 %、平常点 30 %



## 24701

### ㊦社会学演習 I

S 千葉モト子

〔授業題目〕 家族社会学

〔概要〕 家族社会学の研究方法与課題について指導する。テキスト等基礎的文献を中心にしてゼミ形式で研究討議しながら、学生各自の研究テーマを探究させる。

〔到達目標〕 現代の世界および日本の家族、家族研究の最新動向について研究指導する。

〔授業計画〕

- |               |                |              |
|---------------|----------------|--------------|
| 1 家族を考える視角    | 6 核家族化の真相      | 11 「家族」と労働   |
| 2 20世紀家族からの出発 | 7 家族の戦後体制      | 12 「家族」と科学技術 |
| 3 女は昔から主婦だったか | 8 ウーマン・リブと家族解体 | 13 「家族問題」と社会 |
| 4 家事と主婦の誕生    | 9 ニューファミリーの思秋期 | 14 「家族」と政策   |
| 5 二人っ子革命      | 10 親はだめになったか   |              |

〔テキスト〕 落合恵美子『21世紀家族へ』（第3版）（有斐閣）

〔参考文献〕 学生はクラスの人数分のレジュメを準備する。講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕 期末レポート 50%、発表・討論等平常点 50%（2/3以下の出席は不可）

## 24701

### ㊦社会学演習 I

S 長野禎子

〔授業題目〕 文化人類学ゼミ・I

〔概要〕 文化人類学はどんな学問かを理解するために、この学に特徴的なアプローチの仕方やテーマを取りあげて、クラスで討論をしていく。その過程で、各自の関心あるテーマを見つけていく。

〔到達目標〕 文化人類学をしるしづけてきた特徴的なアプローチの仕方を理解していく。

〔授業計画〕

- |                         |                         |
|-------------------------|-------------------------|
| 1 オリエンテーション             | 8 学生の関心あるテーマの予備的報告 ①    |
| 2 文献の検索方法、報告の仕方等        | 9 なぜ死が怖いのか？             |
| 3 文化とはナニ？—文化の日、文化鍋、etc。 | 10 けがれ—「きたなさ」の正体        |
| 4 自然観—人は自然の風景をみるか？      | 11 交換—「ただより高いものはない」わけは？ |
| 5 性差—男らしさと女らしさ          | 12 個人—独立自尊と孤立無援の間で      |
| 6 血縁—血は水よりも濃いか？         | 13 歴史—歴史は誰がつくるのか？       |
| 7 子供観—子供は大人になれるのか？      | 14～15 学生の研究テーマの予備的報告 ②  |

〔テキスト〕 浜本満 浜本まり子 共編、『人類学のコンセンサス』学術図書出版社

〔参考文献〕 『岩波講座・文化人類学』全13巻、『現代人類学の射程』全12冊（岩波書店）

〔授業形態〕 演習・発表・討論・双方向授業

〔成績評価の方法〕 定期試験に替わるレポート 50%、要約・発表・討論等の平常点 50%

## 24701

### ㊦社会学演習 I

S 中原隆幸

〔授業題目〕 経済学理論の基礎を学ぶ

〔概要〕 経済学理論には様々な学派が存在している。本演習では一般的な経済理論（マクロ経済学・ミクロ経済学）をテキストの通読を介して理解することに努める。

〔到達目標〕 一般的経済理論の概要を理解し、現実の経済問題を「理論的に」考えることが出来る様にする。

〔授業計画〕

- |                       |                          |
|-----------------------|--------------------------|
| 1 経済学とは何か             | 8 ミクロ理論まとめ               |
| 2 ミクロ的視点とマクロ的視点のちがい   | 9 マクロ理論 (1) 経済統計の見方      |
| 3 ミクロ理論 (1) 消費理論      | 10 マクロ理論 (2) マクロ経済循環の仕組み |
| 4 ミクロ理論 (2) 生産理論      | 11 マクロ理論 (3) 消費理論        |
| 5 ミクロ理論 (3) 投資と費用     | 12 マクロ理論 (4) 投資理論        |
| 6 ミクロ理論 (4) 社会的厚生とは何か | 13 マクロ理論 (5) 経済成長のモデル    |
| 7 ミクロ理論 (5) 貿易理論を考える  | 14 マクロ理論まとめ              |

〔テキスト〕 湯本雅士『基礎から学ぶ日本経済』東洋経済新報社

〔参考文献〕 講義中に適宜指示する。

〔授業形態〕 演習・発表・対話・討論

〔成績評価の方法〕 発表 40%、討論への参加 30%、レポート 30%



## 24701

### ㊤社会学演習 I (情報社会論)

S

鍋谷史郎

〔授業題目〕『情報通信白書』を読み解く

〔概要〕わが国において現在進行しつつあるIT革命の全体像、そして将来像を知るために白書を読み分析する。情報通信の現況と政策動向を学ぶ中で、自身の問題意識を磨き論文にまとめる力をつける。

〔到達目標〕情報社会の現状と推移を統計的に把握する力をつけるとともに、それをもとに発表し、討議する能力を身につける。

〔授業計画〕

- |                |                |              |
|----------------|----------------|--------------|
| 1 オリエンテーション    | 6 モバイル化        | 11 地域からの情報発信 |
| 2 情報通信と日本経済(1) | 7 携帯端末         | 12 社会生活の変化   |
| 3 情報通信と日本経済(2) | 8 ブログとSNS      | 13 デジタル・デバイド |
| 4 インターネットの深化   | 9 メディアの動向      | 14 セキュリティ    |
| 5 ブロードバンド化     | 10 新たな社会経済システム |              |

〔テキスト〕ネット上に公開されている白書を利用する。

〔参考文献〕講義中適宜指示する。

〔授業形態〕演習・発表

〔成績評価の方法〕定期試験に替わるレポート60%、平常の成績40%

## 24701

### ㊤社会学演習 I

S

山本 誠

〔授業題目〕文化人類学ゼミ I

〔概要〕文化人類学のエッセンスは人間を原理的に考えることにある。したがってこの学問のカバーする範囲はきわめて広い。まず夏学期は導入として人類学の世界の見方に関わる論文を紹介する。

〔到達目標〕文化人類学の視野の広さを実感すること。また公的な場でのプレゼンテーション能力の向上もめざしたい。

〔授業計画〕

- |                                     |                                  |
|-------------------------------------|----------------------------------|
| 1 オリエンテーション                         | 8 映像人類学(1)(DVDを利用)               |
| 2 研究の方法                             | 9 論文「ブランドになった民族」を検討する            |
| 3 文化人類学の位置づけ                        | 10 〃                             |
| 4 論文「人間とは何か/人間のようなもの」を検討する(予定、以下同様) | 11 論文「ファンタジーとしての『自然』と『先住民』」を検討する |
| 5 〃                                 | 12 〃                             |
| 6 論文「鏡の中の現代社会」を検討する                 | 13 映像人類学(2)(DVDを利用)              |
| 7 〃                                 | 14 まとめ                           |

〔テキスト〕受講生の関心も反映させた論文をコピーし、全員に配布する。

〔参考文献〕授業の中で適宜紹介する。

〔授業形態〕演習・発表・討論・AV機器使用

〔成績評価の方法〕発表50%、質疑応答30%、その他平常点20%

## 24701

### ㊤社会学演習 I

S

広瀬香織

〔授業題目〕臨床社会心理学ゼミ I

〔概要〕臨床心理学で扱われてきた不適応状態に関して、社会心理学で研究されてきた「自己」と「対人関係」という2つの視点から理解を試み、主要な研究を学ぶとともに、関心のある研究テーマを見つけることを目的とする。

〔到達目標〕①臨床社会心理学について理解を深める。②関心のある研究テーマを見つける。

〔授業計画〕

- |                      |                    |
|----------------------|--------------------|
| 1 オリエンテーション          | 8 自己意識理論と妄想・自我障害   |
| 2 臨床社会心理学とは          | 9 自己開示と自己呈示        |
| 3 原因帰属理論と帰属のバイアス     | 10 自己開示と心身の健康      |
| 4 さまざまな帰属療法と抑うつ・認知療法 | 11 自己呈示と社会不安・対人恐怖  |
| 5 原因帰属と学業行動          | 12 援助行動とソーシャル・サポート |
| 6 自己注目と行動            | 13 攻撃行動と怒り・自己      |
| 7 抑うつの自己注目理論         | 14 健康増進のための臨床社会心理学 |

〔テキスト〕坂本真士・佐藤健二編『はじめての臨床社会心理学—自己と対人関係から読み解く臨床心理学—』(有斐閣)

〔参考文献〕「臨床社会心理学の進歩」—実りあるインターフェイスをめざして—R・M・コワルスキ M・R・リアリー編著 安藤清志 丹野義彦監訳(北大路書店)

〔授業形態〕演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕発表40%、授業への参加と課題提出60%

24702

㊦社会学演習Ⅱ

W 石井香江

〔授業題目〕国際社会学ゼミⅡ

〔概要〕冬学期は国際社会学ゼミⅠを土台にしながら、現在国際社会学の中で最も注目されているヨーロッパとイスラームの関係に着目してみます。

〔到達目標〕冬学期は、個別のテーマを扱ったテキストを輪読し、報告してもらう中で、2年目に向けて各人の関心あるテーマを見つけてもらいます。

〔授業計画〕

- |                                    |                                  |
|------------------------------------|----------------------------------|
| 1 オリエンテーション：演習の概要、今後の予定、<br>報告者の決定 | 9 隣人から見た「自由・平等・博愛」：フランス（2）       |
| 2 ヨーロッパ移民社会と文明の相克（1）               | 10 ヨーロッパとイスラームの共生（1）             |
| 3 ヨーロッパ移民社会と文明の相克（2）               | 11 ヨーロッパとイスラームの共生（2）             |
| 4 内と外を隔てる壁とはなにか：ドイツ（1）             | 12 統合と分裂のヨーロッパ：文化と民族の視点から<br>（1） |
| 5 内と外を隔てる壁とはなにか：ドイツ（2）             | 13 統合と分裂のヨーロッパ：文化と民族の視点から<br>（2） |
| 6 多文化主義の光と影：オランダ（1）                | 14 演習のまとめとレポート作成の準備              |
| 7 多文化主義の光と影：オランダ（2）                |                                  |
| 8 隣人から見た「自由・平等・博愛」：フランス（1）         |                                  |

〔テキスト〕内藤正典、『ヨーロッパとイスラーム—共生は可能か—』、岩波書店

〔参考文献〕

〔授業形態〕演習・発表・対話

〔成績評価の方法〕レポート50%、平常点50%

24702

㊦社会学演習Ⅱ

W 梅原隆治

〔授業題目〕文化地理学入門

〔概要〕地理学の入門書をテキストに用いて、地理学の諸相を学ぶ。人類の自然への働きかけ、大地への刻印、つまり土地に刻まれた歴史こそが文化景観でもある。その景観から学ぶ。

〔到達目標〕高校で地理を履修しなかった学生が大半なので、地理的な見方や景観を読み解くすべを、身近な事例から理解できるようにする。

〔授業計画〕

- |                  |                |
|------------------|----------------|
| 1 オリエンテーション      | 9 石油は世界をめぐる    |
| 2 東京への一極集中       | 10 ヨーロッパの中心と周辺 |
| 3 都市は気候を変える      | 11 新しい観光形態の誕生  |
| 4 阪神・淡路大震災が教えたこと | 12 世界遺産と持続する観光 |
| 5 サッカーにみる地理学     | 13 景観保全と景観創造   |
| 6 アジア新時代         | 14 工業の立地が変わる   |
| 7 航空機は世界をめぐる     | 15 まとめ         |
| 8 食糧の海外依存国日本     |                |

〔テキスト〕高橋・谷内・阿部・佐藤・杉谷編『改訂新版 ジオグラフィー入門』古今書院、2008.8.20.

〔参考文献〕漆原・藤塚・松山・大西編『図説 世界の地域問題』ナカニシヤ出版、2007。『文化地理学ガイダンス』ナカニシヤ出版、2006。實清隆『大学テキスト 人文地理学』古今書院、2006。高橋・内田・岡本・佐藤編『現代地理学入門 身近な地域から世界まで』古今書院、2005。浮田典良『地理学入門—マルティ・スケル・ジオグラフィー』大明堂、1995。

〔授業形態〕講義・演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕レポート50%、発表等50%

## 24702

### ㊥社会学演習Ⅱ

W 大関雅弘

〔授業題目〕 日常意識の社会学（続）

〔概要〕 夏学期と同様に日常生活に関わるさまざまな素材を用いて、日常意識について検討していく。そのなかで日常生活を“社会学する”ことを身につけながら、学生諸君は、自らのテーマを明確にしていくことを目指す。

〔到達目標〕 社会学的なものの見方・考え方を実際の研究に活かす方法を学びとり、自分のテーマに即して理解すること。

〔授業計画〕

- |                      |                     |
|----------------------|---------------------|
| 1 あらためて「日常意識」とは何か    | 8 日本社会の変動と意識の変化①    |
| 2 「愛情・結婚・性」に関する日常意識① | 9 日本社会の変動と意識の変化②    |
| 3 「愛情・結婚・性」に関する日常意識② | 10 日本社会の変動と意識の変化③   |
| 4 「愛情・結婚・性」に関する日常意識③ | 11 「構造」と「意識」との連関①   |
| 5 日本の大学生の恋愛意識の分析①    | 12 「構造」と「意識」との連関②   |
| 6 日本の大学生の恋愛意識の分析②    | 13 現代社会における日常意識の構造① |
| 7 日本の大学生の恋愛意識の分析③    | 14 現代社会における日常意識の構造② |

〔テキスト〕 なし

〔参考文献〕 講義中に適宜指示する。

〔授業形態〕 演習・発表・対話・討論・AV 機器使用

〔成績評価の方法〕 課題提出 80 %、平常点 20 %

## 24702

### ㊥社会学演習Ⅱ

W 齊藤素子

〔授業題目〕 社会病理学ゼミⅡ

〔概要〕 夏学期にとりあげた問題についてテキスト以外の先行研究論文を調べ、講読演習を行うとともに意見が対立する問題についてロールを決めてディスカッションする。

〔到達目標〕 とりあげた問題について理解を深め、文献資料調査の方法を学び、各人の研究テーマを決める。ディスカッションの方法について体験する。

〔授業計画〕

- |              |                   |
|--------------|-------------------|
| 1 オリエンテーション  | 9 学校問題の研究（2）      |
| 2 研究の方法（1）   | 10 職場問題の研究        |
| 3 研究の方法（2）   | 11 その他の社会問題の研究（1） |
| 4 問題行動の研究（1） | 12 その他の社会問題の研究（2） |
| 5 問題行動の研究（2） | 13 その他の社会問題の研究（3） |
| 6 家族問題の研究（1） | 14 その他の社会問題の研究（4） |
| 7 家族問題の研究（2） | 15 まとめ            |
| 8 学校問題の研究（1） |                   |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 講義・演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕 レポート 50 %、平常点 50 %

## 24702

### ㊥社会学演習Ⅱ

W 里見 脩

〔授業題目〕 社会情報論ゼミⅡ

〔概要〕 夏学期で習得した基礎概念を踏まえて、個々が研究テーマを設定する。それを発表、討議しながら、研究の深化を図る。統一テーマである「情報」を軸として、個々の研究テーマを共に考える。

〔到達目標〕 漠然とした興味や疑問から、明確な問題設定と分析へと歩を進め、研究方法を身に付ける

〔授業計画〕

- |                |                      |
|----------------|----------------------|
| 1 前期のレビュー      | 9 発表と討論の方法           |
| 2 現状分析① 新聞社（1） | 10 発表と討論①個々の研究テーマ（1） |
| 3 現状分析② 同（2）   | 11 発表と討論② 同（2）       |
| 4 現状分析③ 放送局（1） | 12 発表と討論③ 同（3）       |
| 5 現状分析④ 同（2）   | 13 発表と討論④ 同（4）       |
| 6 メディアの倫理①     | 14 総括                |
| 7 メディアの倫理②     | 15 定期試験              |
| 8 メディアの倫理③     |                      |

〔テキスト〕 藤江俊彦 『はじめてのマスコミ論』 同友館

〔参考文献〕 里見 脩 『ニュースエージェンシー』 中央公論新社

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 50 %、発表と討論 50 %

24702

㊤社会学演習Ⅱ

W 高嶋雅明

〔授業題目〕現代日本の経済・経営分析Ⅱ

〔概要〕現在の日本経済や社会で提起されている主要な課題を、歴史的展開と比較のなかで理解する共同作業を通じて、各自の関心に沿った研究テーマに取り組む。

〔到達目標〕現代日本の経済と社会を歴史的素養を持って理解し、各自の関心を一層明確化すること。

〔授業計画〕

- |               |               |                  |
|---------------|---------------|------------------|
| 1 オリエンテーション   | 6 「失われた10年」   | 11 日本企業の「グローバル化」 |
| 2 日本経済の歩み(1)  | 7 国際経済関係      | 12 学生の研究発表と討論(1) |
| 3 日本経済の歩み(2)  | 8 日本の企業経営     | 13 学生の研究発表と討論(2) |
| 4 1970年代の日本経済 | 9 日本の雇用と職場    | 14 学生の研究発表と討論(3) |
| 5 バブルの発生      | 10 日本の財政と社会保障 |                  |

〔テキスト〕伊藤 修『日本の経済—歴史・現状・論点—』、中央公論新社、中公新書1896

〔参考文献〕授業のなかで適宜、紹介します。

〔授業形態〕演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕レポート50%、発表・討論等を含む平常点50%

24702

㊤社会学演習Ⅱ

W 田中晶子

〔授業題目〕社会心理学ゼミⅡ

〔概要〕前半は、社会心理学ゼミⅠに引き続きテキストを通して社会心理学における研究(心理学的な視点)への理解を深める。後半は各自が設定した研究テーマや研究方法について発表・討論を通して意見交換を行う。

〔到達目標〕受講生がそれぞれの関心に沿った研究テーマをさらに絞り込み、深めることを目標とする。

〔授業計画〕

- |                    |                     |
|--------------------|---------------------|
| 1 オリエンテーション        | 8 テキスト『社会に向けて』③     |
| 2 テキスト『人に対して』③     | 9 テキスト『社会に向けて』④     |
| 3 テキスト『人に対して』④     | 10 研究テーマ(問題)の発表・討論① |
| 4 テキスト『自分の中で』③     | 11 研究テーマ(問題)の発表・討論② |
| 5 テキスト『自分の中で』④     | 12 研究テーマ(問題)の発表・討論③ |
| 6 テキスト『人と結びつきながら』③ | 13 研究テーマ(問題)の考察①    |
| 7 テキスト『人と結びつきながら』④ | 14 研究テーマ(問題)の考察②    |

〔テキスト〕松井 豊、白石 崇、村井 潤一郎『対人心理学の視点』(ブレーン出版)

〔参考文献〕各自の研究テーマに応じて、講義中適宜指示する。

〔授業形態〕演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕発表70%、平常点30%

24702

㊤社会学演習Ⅱ

W 千葉モト子

〔授業題目〕家族社会学

〔概要〕夏学期にひきつづいて、テキスト等基礎文献を中心にして各自の課題と研究方法を探究させていく。11月までに4年生次の卒業論文作成のための研究テーマを決めさせ、春休み中に論文作成のための資料の収集・探索をさせる。

〔到達目標〕現代の世界および日本の家族、家族研究の最新動向について研究指導する。

〔授業計画〕

- |               |              |                |
|---------------|--------------|----------------|
| 1 プロローグ—家族の肖像 | 6 離婚率の上昇     | 11 ああ転勤、単身赴任   |
| 2 多様化する家族     | 7 シングル・ライフ   | 12 親子関係多様化の時代  |
| 3 晩婚化と少子化     | 8 兼業主婦の時代    | 13 誰が高齢者を介護するか |
| 4 空洞化はじめた結婚   | 9 ザ・パートタイマー  | 14 プロテウス家族の提唱  |
| 5 出産スタイルを選ぶ時代 | 10 育児と子供への影響 |                |

〔テキスト〕菅原真理子『新・家族の時代』中央公論社

〔参考文献〕学生はクラスの数分のレジュメを準備する。講義中適宜指示する。

〔授業形態〕演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕期末レポート50%、発表・討論等平常点50% (2/3以下の出席は不可) 講義中適宜指示する。

## 24702

### ㊤社会学演習Ⅱ

W 長野禎子

〔授業題目〕文化人類学ゼミ・Ⅱ

〔概要〕人間の文化が、現実世界の中で取り得るさまざまな様態に目を向け、人類が直面している問題に文化人類学がいかに関与しているかを学ぶ。この学びの過程を通して、各自の研究テーマを絞り込み、その深化を図る。

〔到達目標〕現代の世界の文化と社会への「批判知」としての文化人類学的の視点をできる限り身につけることを目指す。各学生は、この学期の11月には、卒研・卒論の計画書が提出できるよう努力する。

〔授業計画〕

- |                   |                                |
|-------------------|--------------------------------|
| 1 オリエンテーション       | 8 文化と経済—互酬性・再分配・市場交換           |
| 2 人類と文化—人間とは何か    | 9～10 学生の研究テーマの中間的報告—計画書作成にあたって |
| 3 人類学の歴史          | 11 性と婚姻—性と生殖、婚姻の再構築            |
| 4 人類と言語           | 12 ジェンダーとセクシュアリティ              |
| 5 学生の関心テーマの予備的報告① | 13 人種・人種差別                     |
| 6 人間と生態形態         | 14 民族・階級・結社                    |
| 7 経済と環境           |                                |

〔テキスト〕綾部恒雄・桑山敬己『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房、ジョイ・ヘンドリー（桑山敬己 訳）『社会人類学入門』法政大学出版局

〔参考文献〕『岩波講座・文化人類学』全13巻、『現代人類学の射程』全12冊

〔授業形態〕演習・対話・討論・双方向授業

〔成績評価の方法〕定期試験に替わるレポート50%、要約・発表・討論等の平常点50%

## 24702

### ㊤社会学演習Ⅱ

W 中原隆幸

〔授業題目〕経済学と制度の関わりを学ぶ

〔概要〕本演習では演習Ⅰで修得した基礎的理論を、最新の経済学理論との対比の中で相対化することに努める。今まであたりまえに考えていた「理論構造」が見方を変れば全く異なっていることに気付くことができれば成功である。

〔到達目標〕様々な経済学理論が何故存在するのかを根本的に理解できる様にする。

〔授業計画〕

- |                        |    |                |     |
|------------------------|----|----------------|-----|
| 1 経済理論に「制度」的視点が何故必要なのか | 8  | 〃              | (2) |
| 2 制度派経済学の類型化           | 9  | 新制度学派 (1)      |     |
| 3 ドイツ歴史学派 (1)          | 10 | 〃 (2)          |     |
| 4 〃 (2)                | 11 | 比較制度分析 (1)     |     |
| 5 アメリカ制度学派 (1)         | 12 | 〃 (2)          |     |
| 6 〃 (2)                | 13 | レギュレーション理論 (1) |     |
| 7 オーストリア学派 (1)         | 14 | 〃 (2)          |     |

〔テキスト〕ベルナルド・シャバンス、『入門制度経済学』、ナカニシヤ出版

〔参考文献〕講義中に適宜指示する。

〔授業形態〕演習・発表・対話・討論

〔成績評価の方法〕発表40%、討論への参加30%、レポート30%

## 24702

### ㊤社会学演習Ⅱ（情報社会論）

W 鍋谷史郎

〔授業題目〕ネットとの共存

〔概要〕インターネットの普及とあわせて、その負の部分がクローズアップされている。私たちはこれから先、ネットとどのように共存していけばよいのか。最新の具体的な実例をもとに批判精神を養い、それを乗り越える方策を考えていく。

〔到達目標〕情報社会を生きる人間として要求される素養に磨きをかける。すなわち、自分の考えを発表し、討議する能力を身につけることを目指す。

〔授業計画〕

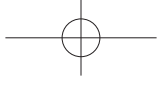
- |                  |          |
|------------------|----------|
| 1 オリエンテーション      | 8 米国の場合  |
| 2 利便性の蔭で失われていくもの | 9 韓国の場合  |
| 3 利便性の蔭で失われていくもの | 10 中国の場合 |
| 4 利便性の蔭で失われていくもの | 11 情報教育  |
| 5 IT立国の底流        | 12 匿名社会  |
| 6 IT立国の底流        | 13 人間と技術 |
| 7 IT企業訪問         | 14 総括    |

〔テキスト〕毎日新聞取材班著、『ネット君臨』、毎日新聞

〔参考文献〕講義中に適宜指示する。

〔授業形態〕演習・発表

〔成績評価の方法〕定期試験に替わるレポート60%、平常の成績40%



## 24702

### ㊤社会学演習Ⅱ

W 山本 誠

〔授業題目〕文化人類学ゼミⅡ

〔概要〕夏学期で学んだ総論的な内容を基礎に、この冬学期はこれまで人類学が扱ってきた多彩なテーマの一端を紹介する。圧倒的ともいえる「人間の可能性と多様性」がキーワードである。

〔到達目標〕基本的に夏学期と同様だが、先の「人間の可能性と多様性」にふれることから、人間に対する興味・関心を大いにふくらませてもらいたい。

〔授業計画〕

- |   |                                      |    |                          |
|---|--------------------------------------|----|--------------------------|
| 1 | オリエンテーション                            | 8  | 論文「在日朝鮮人」を検討する           |
| 2 | 論文「身体文化人類学」を検討する（予定、以下同様）            | 9  | 〃                        |
| 3 | 〃                                    | 10 | 論文「モラトリアムとしての学校と教師」を検討する |
| 4 | 論文「『障害』がつくられているとき『障害』が壊されているとき」を検討する | 11 | 〃                        |
| 5 | 〃                                    | 12 | 論文「グローバル化するマクドナルド」を検討する  |
| 6 | 映画「キリクと魔女」を見る                        | 13 | 〃                        |
| 7 | 神話・物語分析に関して                          | 14 | まとめ                      |

〔テキスト〕教材の選択は受講生と相談のうえ、決定する。

〔参考文献〕授業の中で適宜紹介する。

〔授業形態〕演習・発表・討論・AV機器使用

〔成績評価の方法〕小論文80%、授業時の発言、参加意欲等20%

## 24702

### ㊤社会学演習Ⅱ

W 広瀬香織

〔授業題目〕臨床心理学ゼミⅡ

〔概要〕夏学期に修得した基礎知識を踏まえ、各人が関心を持ったテーマについて、先行研究を紹介し（発表）、討論を通して理解を深める。さらに、質問紙調査の基礎知識について学び、調査への準備を行う。

〔到達目標〕①関心を持ったテーマに関する理解の深化②質問紙調査の基礎知識の習得

〔授業計画〕

- |   |                |    |             |
|---|----------------|----|-------------|
| 1 | オリエンテーション      | 8  | 質問調査紙の基礎知識① |
| 2 | 研究テーマの設定①      | 9  | 質問調査紙の基礎知識② |
| 3 | 研究テーマの設定②      | 10 | 構想発表の仕方について |
| 4 | 先行研究の発表および討論 ① | 11 | 構想発表①       |
| 5 | 〃 ②            | 12 | 〃 ②         |
| 6 | 〃 ③            | 13 | 〃 ③         |
| 7 | 〃 ④            | 14 | 〃 ④         |

〔テキスト〕小塩真司・西口利文、『質問紙調査の手順』、ナカニシヤ出版

〔参考文献〕

〔授業形態〕演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕発表40%、授業への参加と課題提出60%

## 24703

### ㊤社会学演習Ⅲ

S 石井香江

〔授業題目〕国際社会学ゼミⅢ

〔概要〕夏学期は国際社会学ゼミⅡに引き続き、指定した教科書を読み進めながら、より専門的な知識の習得だけでなく、各人で個別の研究を開始する。

〔到達目標〕夏学期は、卒論・卒研の作成を意識して、各人の関心あるテーマを絞込み、資料・文献を収集し、内容を検討してもらう。

〔授業計画〕

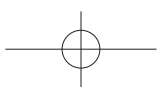
- |   |                              |    |                       |
|---|------------------------------|----|-----------------------|
| 1 | オリエンテーション：演習の概要、今後の予定、報告者の決定 | 7  | カナダの多文化主義政策の現在（2）     |
| 2 | NGOとグローバル市民社会（1）             | 8  | ロシア連邦の多民族状況（1）        |
| 3 | NGOとグローバル市民社会（2）             | 9  | ロシア連邦の多民族状況（2）        |
| 4 | アメリカのアイデンティティ・ポリティクスのジレンマ（1） | 10 | マレーシアの経済発展とエスニック関係（1） |
| 5 | アメリカのアイデンティティ・ポリティクスのジレンマ（2） | 11 | マレーシアの経済発展とエスニック関係（2） |
| 6 | カナダの多文化主義政策の現在（1）            | 12 | 日本社会と在日アイデンティティの現在（1） |
|   |                              | 13 | 日本社会と在日アイデンティティの現在（2） |
|   |                              | 14 | 演習のまとめとレポート作成の準備      |

〔テキスト〕梶田孝道（編）、『新・国際社会学』、名古屋大学出版会

〔参考文献〕

〔授業形態〕演習・発表・対話

〔成績評価の方法〕レポート50%、平常点50%



## 24703

### ㊤社会学演習Ⅲ

S 梅原隆治

〔授業題目〕文化地理学の展開

〔概要〕社会学演習Ⅰ・Ⅱの地理学入門書を通しての地理学諸領域の基礎的学習をさらに深化させるため、学会誌等の専門書から論文を選び出し、講読演習をおこなう。

〔到達目標〕専門論文を読みこなし、その過程で調査法や記述法も学ぶ。

〔授業計画〕

- |                 |                |                 |
|-----------------|----------------|-----------------|
| 1 オリエンテーション     | 5 「地域研究」の論文講読  | 10 「知覚・行動」の論文講読 |
| 2 論文の検索         | 6 「経済地理」の論文講読  | 11 「地理教育」の論文講読  |
| 3 論文の選定         | 7 「政治・社会」の論文講読 | 12 「人口」の論文講読    |
| 4 「学史・方法論」の論文講読 | 8 「文化地理」の論文講読  | 13 「村落」の論文講読    |
|                 | 9 「計量地理」の論文講読  | 14 「都市」の論文講読    |

〔テキスト〕『文化地理学ガイダンス』ナカニシヤ出版、2006。

〔参考文献〕「人文地理」（人文地理学会）・「地理学評論」（日本地理学会）・「歴史地理学」（歴史地理学会）は、昨今のもはもちろん、約30年分が研究室にあります。他の学会誌も含め、活用して下さい。

〔授業形態〕講義・演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕レポート50%、発表等50%

## 24703

### ㊤社会学演習Ⅲ

S 大関雅弘

〔授業題目〕社会意識論の展開

〔概要〕これまで学んできた「日常意識の社会学」をさらに深めるために、社会意識と社会構造との理論的連関に焦点を当てて議論を進める。今期は「生命倫理」を題材にして、社会意識とのかかわりをみていく。

〔到達目標〕「社会意識」研究の重要性を身近なテーマを通して理解するとともに、社会意識と社会構造との理論的連関をつかむ。

〔授業計画〕

- |                      |                      |
|----------------------|----------------------|
| 1 「生命倫理」とは何か         | 8 脳死・臓器移植の現状と社会意識②   |
| 2 「生命・身体・財産」の所有とモラル① | 9 欧米と日本の「生命観」の比較（2）  |
| 3 「生命・身体・財産」の所有とモラル② | 10 安楽死・尊厳死の現状と社会意識①  |
| 4 生殖補助医療の現状と社会意識①    | 11 安楽死・尊厳死の現状と社会意識②  |
| 5 生殖補助医療の現状と社会意識②    | 12 欧米と日本の「生命観」の比較（3） |
| 6 欧米と日本の「生命観」の比較（1）  | 13 社会意識論からみた「生命倫理」①  |
| 7 脳死・臓器移植の現状と社会意識①   | 14 社会意識論からみた「生命倫理」②  |

〔テキスト〕なし

〔参考文献〕講義中に適宜指示する。

〔授業形態〕演習・発表・対話・討論・AV機器使用

〔成績評価の方法〕課題提出80%、平常点20%

## 24703

### ㊤社会学演習Ⅲ

S 齊藤素子

〔授業題目〕社会病理学ゼミⅢ

〔概要〕各自の研究テーマについて、その領域の先行研究論文を読み、データーを収集し、研究内容をゼミで発表し、ケーススタディやディスカッションを行って、考察を深める。

〔到達目標〕各自の研究テーマにそって先行研究や資料を収集し、データーを読み、比較検討し、問題を整理する。

〔授業計画〕

- |                |               |              |
|----------------|---------------|--------------|
| 1 オリエンテーション    | 6 自殺研究（3）自殺要因 | 11 犯罪（1）裁判制度 |
| 2 研究の方法（1）     | 7 自傷行為        | 12 犯罪（2）犯罪被害 |
| 3 研究の方法（2）     | 8 少年非行（1）     | 13 児童虐待（1）   |
| 4 自殺研究（1）日本の自殺 | 9 少年非行（2）     | 14 児童虐待（2）   |
| 5 自殺研究（2）自殺要因  | 10 少年非行（3）    | 15 まとめ       |

〔テキスト〕

〔参考文献〕講義中適宜指示する。

〔授業形態〕講義・演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕レポート50%、平常点50%

24703

㊤社会学演習Ⅲ

S 里見 脩

〔授業題目〕社会情報論ゼミⅢ

〔概要〕これまで培った「社会情報学」の基礎概念を踏まえて、個々の研究テーマを発展させる。とくに今期は研究の成果をゼミで発表、同時に他の人の発表を的確に批評することに重点を置く。

〔到達目標〕個々の研究テーマを研究計画に沿って進めることを通じて、主体的に、そして深く思考する姿勢を身に付ける。同時に発表する能力と技術そして批評する能力を身に付ける。

〔授業計画〕

- |                      |           |   |     |
|----------------------|-----------|---|-----|
| 1 社会情報論の復習           | 9 発表と討議③  | 同 | (3) |
| 2 方法論①メディアの理論 (1)    | 10 発表と討議④ | 同 | (4) |
| 3 方法論② 同 (2)         | 11 発表と討議⑤ | 同 | (5) |
| 4 歴史①テーマに即した歴史研究 (1) | 12 発表と討議⑥ | 同 | (6) |
| 5 歴史② 同 (2)          | 13 発表と討議⑦ | 同 | (7) |
| 6 歴史③ 同 (3)          | 14 総括     |   |     |
| 7 発表と討議①個々の研究テーマ (1) | 15 定期試験   |   |     |
| 8 発表と討議② 同 (2)       |           |   |     |

〔テキスト〕有山輝雄・竹山昭子編、『メディア史を学ぶ人のために』、世界思想社

〔参考文献〕里見 脩「同盟通信社の戦時報道」『岩波講座「帝国」日本の学知』メディア巻 岩波書店

〔授業形態〕演習

〔成績評価の方法〕定期試験 50 %、発表と討論 50 %

24703

㊤社会学演習Ⅲ

S 田中晶子

〔授業題目〕社会心理学ゼミⅢ

〔概要〕各自の研究テーマに沿って、文献の収集や実験調査の実施を行う。

〔到達目標〕各自の研究テーマをまとめる上で必要となる材料（文献資料や実験調査データ）を集める。

〔授業計画〕

- |                  |                      |
|------------------|----------------------|
| 1 オリエンテーション      | 8 文献・実験調査データの収集⑦     |
| 2 文献・実験調査データの収集① | 9 中間報告会①             |
| 3 文献・実験調査データの収集② | 10 中間報告会②            |
| 4 文献・実験調査データの収集③ | 11 中間報告会③            |
| 5 文献・実験調査データの収集④ | 12 中間報告会④            |
| 6 文献・実験調査データの収集⑤ | 13 収集資料のまとめ（執筆へ向けて）① |
| 7 文献・実験調査データの収集⑥ | 14 収集資料のまとめ（執筆へ向けて）② |

〔テキスト〕

〔参考文献〕各自の研究テーマに応じて、講義中適宜指示する。

〔授業形態〕演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕発表 50 %、平常点 50 %

24703

㊤社会学演習Ⅲ

W 田原範子

〔授業題目〕生活世界の社会学 3

〔概要〕私たちの発する言葉や活動する身体は、生活世界のなかでどのような場を占めているのだろうか。自分の発話や行為が、誰のために、どのような場で、どんな力関係の下で行われ、どのような人間との相互性を築いているのだろうか。自己と世界との関係を考えるために、＜文化＞を思考することを試みる。

〔到達目標〕カルチュラル・スタディーズの基本的概念を学び、実践する。

〔授業計画〕

- |                     |              |
|---------------------|--------------|
| 1 カルチュラル・スタディーズとは何か | 9 行為と経験 (1)  |
| 2 なぜメディア研究か         | 10 行為と経験 (2) |
| 3 経験のテクスチュア         | 11 行為と経験 (3) |
| 4 テクストの要求           | 12 意味の構成 (1) |
| 5 分析の戦略             | 13 意味の構成 (2) |
| 6 経験の諸次元 (1)        | 14 文化の実践 (1) |
| 7 経験の諸次元 (2)        | 15 文化の実践 (2) |
| 8 経験の諸次元 (3)        |              |

〔テキスト〕ロジャー・シルバーストーン『なぜメディア研究か』せりか書房 2003 年

〔参考文献〕本橋哲也『カルチュラル・スタディーズへの招待』大修館書店 2002 年

〔授業形態〕演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕平常点等 40 %、定期試験に替わるレポート 60 %

## 24703

### ㊥社会学演習Ⅲ

S 千葉モト子

〔授業題目〕 家族社会学

〔概要〕 社会学演習Ⅰ・Ⅱで学習した資料の収集、検索、整理など研究方法、分析方法をさらに発展させる。

〔到達目標〕 現代社会と家族をめぐる諸問題について、分析、考察を深め、その問題認識と解決方法について主体的に取り組み考える能力を修得させる。

〔授業計画〕

- |                        |                        |
|------------------------|------------------------|
| 1 親子関係の現代的諸相           | 8 家族関係をめぐる問題           |
| 2 “良い子”の問題行動と親子のあり方    | 9 閉ざされた扉の後ろの不条理な「愛」の世界 |
| 3 子供の遊びと社会性の発達         | 10 家族愛のゆくえと殺人事件        |
| 4 モンスターペアレント出現の背景とその変容 | 11 子どもの虐待と親子関係         |
| 5 生殖医療と親子の絆            | 12 現代社会と少年非行           |
| 6 父親像のゆくえ              | 13 親の離婚の子供への影響         |
| 7 グローバル化時代の移動する家族と子ども  | 14 リストカット現象とマスコミ       |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 学生はクラスの人数分のレジュメを準備する。講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕 期末レポート 50%、発表・討論等平常点 50%（2/3以下の出席は不可）

## 24703

### ㊥社会学演習Ⅲ

S 長野禎子

〔授業題目〕 文化人類学ゼミⅢ

〔概要〕 ゼミⅡに引き続き、人類特有の文化というものが現実世界の中で取り得る多様な様態を探り、人類の存立の基盤をも問い直してゆこうとする人類学の基本的研究対象と視点を幅広く学ぶ。これと平行して学生は各自の研究内容を深めていく。

〔到達目標〕 人間の日常の具体相に目を向けることを通して人類の文化と社会の現状を把握し、現代の人類が直面している危機の乗り越えの可能性を探る。

〔授業計画〕

- |                    |                       |
|--------------------|-----------------------|
| 1 オリエンテーション        | 9 人類の移動と共生            |
| 2 法律・秩序・社会統制       | 10 開発と文化              |
| 3 政治の技法／政治と権力      | 11 観光と文化              |
| 4 宗教と世界観           | 12 グリーバリゼーションと文化      |
| 5 人間の一生（時間と儀礼）     | 13～14 学生のテーマの予備的報告と討論 |
| 6 医療と文化            | 15 全体の総括              |
| 7～8 学生の研究の予備的報告と討論 |                       |

〔テキスト〕 綾部恒雄・桑山敬己『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房 内堀基光、本多俊和『新版 文化人類学』日本放送出版協会

〔参考文献〕 『岩波講座・文化人類学』全13巻、『現代人類学の射程』全12冊

〔授業形態〕 演習・発表・討論・双方向授業

〔成績評価の方法〕 期末レポート 50%、平常の授業発表と討論 50%

## 24703

### ㊥社会学演習Ⅲ

S 中原隆幸

〔授業題目〕 現代社会を経済学で視る

〔概要〕 本演習では昨年度の演習で修得した経済学理論を用いて現実の経済社会を分析する手法を学ぶ。したがって各ゼミ生の興味関心にあわせてテーマを設定し研究を行いその成果を発表することが中心となる。

〔到達目標〕 経済理論を用いて様々な経済現象を自ら分析し、結論を導き出せる様にする。

〔授業計画〕

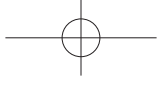
- |                          |           |                 |                 |
|--------------------------|-----------|-----------------|-----------------|
| 1 どのようにして研究テーマを設定するのか    | 8         | 〃               | (5)             |
| 2 研究テーマを深化させるために (1) 方法論 | 9         | 各テーマに対する総合的コメント |                 |
| 3                        | (2) データ処理 | 10              | 個別テーマに沿った報告 (6) |
| 4 個別テーマに沿った報告 (1)        | 11        | 〃               | (7)             |
| 5                        | (2)       | 12              | 〃 (8)           |
| 6                        | (3)       | 13              | 〃 (9)           |
| 7                        | (4)       | 14              | 〃 (10)          |

〔テキスト〕 特に指定しない。

〔参考文献〕 ゼミ生の研究テーマにあわせて個別に指示する。

〔授業形態〕 演習・発表・対話・討論

〔成績評価の方法〕 発表 40%、討論への参加 30%、レポート 30%



24703

㊦社会学演習Ⅲ (情報社会論)

S 鍋谷史郎

〔授業題目〕 企業と情報化

〔概要〕 情報とは何か、ITとは何か。現在社会のあらゆる面で信公するIT革命の姿を理解するとともに、IT革命のもとで企業の経営活動がどのように変化していくのかを、お互いに討議し現状分析する。

〔到達目標〕 情報社会を生きる人間として要求される素養に磨きをかける。すなわち、自分の考えを発表し、討議する能力を身につけることを目指す。

〔授業計画〕

- |                  |                |                 |
|------------------|----------------|-----------------|
| 1 オリエンテーション      | 6 ビジネスモデル (2)  | 11 IT化と組織 (1)   |
| 2 IT戦略マネジメント (1) | 7 ビジネスモデル (3)  | 12 IT化と組織 (2)   |
| 3 IT戦略マネジメント (2) | 8 ビジネスモデル (4)  | 13 IT化と人材開発 (1) |
| 4 IT戦略マネジメント (3) | 9 ビジネスモデル (5)  | 14 IT化と人材開発 (2) |
| 5 ビジネスモデル (1)    | 10 ビジネスモデル (6) |                 |

〔テキスト〕 寺本義也編著、『企業と情報化』、八千代出版

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 演習・発表

〔成績評価の方法〕 定期試験に替わるレポート60%、平常の成績40%

24703

㊦社会学演習Ⅲ

S 山本 誠

〔授業題目〕 文化人類学ゼミⅢ

〔概要〕 社会学演習1・2で扱った内容を踏まえ、より専門的なレベルに入っていく。これまでと同様に多様なテーマを扱うが、身近な「日本」を意識した演習を行いたいと考えている。

〔到達目標〕 「異文化を理解する」というスタンスで自足するのではなく、人類学の立場からわが日本に対する理解も深めてもらいたい。

〔授業計画〕

- |                              |    |                       |
|------------------------------|----|-----------------------|
| 1 オリエンテーション                  | 8  | 〃                     |
| 2 「対象」と「方法論」をめぐって            | 9  | 〃                     |
| 3 「衣・食・住の人類学」を検討する (予定、以下同様) | 10 | 「現代の日本文化」に関して検討する     |
|                              | 11 | 〃                     |
| 4                            | 12 | 「グローバル化と文化研究」に関して検討する |
| 5 「エスニシティの人類学」を検討する          | 13 | 〃                     |
| 6                            | 14 | まとめ                   |
| 7 「日本文化論」を検討する               |    |                       |

〔テキスト〕 教材の選択は受講生と相談の上、決定する。

〔参考文献〕 授業の中で適宜紹介する。

〔授業形態〕 演習・発表・討論・AV機器使用

〔成績評価の方法〕 レポート80%、授業時の発言、参加意欲等20%

24703

㊦社会学演習Ⅲ

S 藤原徹三

〔授業題目〕 企業経営研究ゼミⅢ

〔概要〕 社会学演習Ⅱに引続き研究している内容につき、順次授業のなかで発表を行い、全員で討議を行う。

〔到達目標〕 企業経営理論の中から興味あるテーマを選択し、その深掘りを行う。

〔授業計画〕

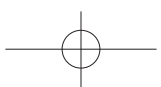
- |                                 |                                  |
|---------------------------------|----------------------------------|
| 1 オリエンテーション                     | の解説を行う。                          |
| 2 「商売の基本、心得」講義                  | 10 学生の研究発表及び週内で話題となった経済問題の解説を行う。 |
| 3 「商売の基本、心得」講義                  | 11 学生の研究発表及び週内で話題となった経済問題の解説を行う。 |
| 4 「商売の基本、心得」講義                  | 12 学生の研究発表及び週内で話題となった経済問題の解説を行う。 |
| 5 「商売の基本、心得」講義                  | 13 学生の研究発表及び週内で話題となった経済問題の解説を行う。 |
| 6 「商売の基本、心得」講義                  | 14 まとめ                           |
| 7 学生の研究発表及び週内で話題となった経済問題の解説を行う。 |                                  |
| 8 学生の研究発表及び週内で話題となった経済問題の解説を行う。 |                                  |
| 9 学生の研究発表及び週内で話題となった経済問題        |                                  |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 発表・討論・時事解説

〔成績評価の方法〕 発表70%、平常点30%



## 24704

### ㊤社会学演習Ⅳ

W 石井香江

〔授業題目〕 国際社会学ゼミⅣ

〔概要〕 冬学期は国際社会学ゼミⅢに引き続き、指定した教科書を読み進めながら、後半部では研究成果の中間報告を行ってもらい、それに応じて個別に指導する。

〔到達目標〕 冬学期は、卒論・卒研の完成を意識して、夏学期に収集・検討してもらった成果を文章化し、その経過を報告してもらう。

〔授業計画〕

- |                                |                    |
|--------------------------------|--------------------|
| 1 オリエンテーション：演習の概要、今後の予定、報告者の決定 | 8 学生の個人報告：質疑応答と解説  |
| 2 グローバル化の諸力と都市空間の再編（1）         | 9 学生の個人報告：質疑応答と解説  |
| 3 グローバル化の諸力と都市空間の再編（2）         | 10 学生の個人報告：質疑応答と解説 |
| 4 トランスナショナル・メディアの可能性（1）        | 11 学生の個人報告：質疑応答と解説 |
| 5 トランスナショナル・メディアの可能性（2）        | 12 学生の個人報告：質疑応答と解説 |
| 6 国境を越える社会運動                   | 13 学生の個人報告：質疑応答と解説 |
| 7 学生の個人報告：質疑応答と解説              | 14 演習のまとめ          |

〔テキスト〕 梶田孝道（編）、『新・国際社会学』、名古屋大学出版会

〔参考文献〕

〔授業形態〕 演習・発表・対話

〔成績評価の方法〕 個人報告 50 %、平常点 50 %

## 24704

### ㊤社会学演習Ⅳ

W 梅原隆治

〔授業題目〕 文化地理学の展開と応用

〔概要〕 前半は、学会誌等の専門書から論文を選び出し、講読演習をおこなう。後半は、各自が最も傾倒した分野の論文を積極的に選び出し、自説も含めて発表する。

〔到達目標〕 専門論文を読みこなし、その過程で調査法や記述法も学ぶ。その上で、卒論・卒研を製作する。

〔授業計画〕

- |                  |                |
|------------------|----------------|
| 1 オリエンテーション      | 8 学生の選んだ論文発表①  |
| 2 「農林業」の論文講読     | 9 学生の選んだ論文発表②  |
| 3 「漁業」の論文講読      | 10 学生の選んだ論文発表③ |
| 4 「製造業」の論文講読     | 11 学生の選んだ論文発表④ |
| 5 「流通・サービス」の論文講読 | 12 学生の選んだ論文発表⑤ |
| 6 「観光・交通」の論文講読   | 13 学生の選んだ論文発表⑥ |
| 7 「自然環境・災害」の論文講読 | 14 学生の選んだ論文発表⑦ |

〔テキスト〕 『文化地理学ガイダンス』ナカニシヤ出版、2006。

〔参考文献〕 「人文地理」（人文地理学会）・「地理学評論」（日本地理学会）・「歴史地理学」（歴史地理学会）は、昨今のもはもちろん、約 30 年分が研究室にあります。他の学会誌も含め、活用して下さい。

〔授業形態〕 講義・演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕 レポート 50 %、発表等 50 %

## 24704

### ㊤社会学演習Ⅳ

W 大関雅弘

〔授業題目〕 社会意識論の展開（続）

〔概要〕 夏学期に引き続き、社会意識論の視角からいくつかのテーマを掘り下げて検討していく。とくに社会関係や人間関係における西欧社会と日本社会との相違を、社会意識のあり方を比較することによって検討する。

〔到達目標〕 現代社会に関するテーマを社会意識論の視角から把握するアプローチを身につけ、実際に論文等の執筆に活かす。

〔授業計画〕

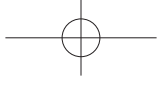
- |                    |                     |
|--------------------|---------------------|
| 1 社会意識論の射程         | 8 人口問題と社会意識の変化①     |
| 2 女性の社会進出と社会意識の変化① | 9 人口問題と社会意識の変化②     |
| 3 女性の社会進出と社会意識の変化② | 10 現代社会の動向と社会意識論（3） |
| 4 現代社会の動向と社会意識論（1） | 11 家族の変容と社会意識の変化①   |
| 5 「現代男性論」と社会意識①    | 12 家族の変容と社会意識の変化②   |
| 6 「現代男性論」と社会意識②    | 13 現代社会の動向と社会意識論（4） |
| 7 現代社会の動向と社会意識論（2） | 14 社会意識論の今日的意義と課題   |

〔テキスト〕 なし

〔参考文献〕 講義中に適宜指示する。

〔授業形態〕 演習・発表・対話・討論・AV 機器使用

〔成績評価の方法〕 課題提出 80 %、平常点 20 %



## 24704

### ㊦社会学演習Ⅳ

W 齊藤素子

〔授業題目〕社会病理学ゼミⅣ

〔概要〕各自の収集した先行研究、データ、資料などを整理し、分析し、考察を深め、結果を発表し、指導、助言を受ける。

〔到達目標〕各自の課題にそって調査した結果をまとめる。研究成果について評価し、課題を意識化する。

〔授業計画〕

- |             |             |             |
|-------------|-------------|-------------|
| 1 オリエンテーション | 6 少年非行 (1)  | 11 児童虐待 (2) |
| 2 研究のまとめ方   | 7 少年非行 (2)  | 12 研究結果の発表  |
| 3 自殺研究 (1)  | 8 犯罪 (1)    | 13 研究結果の発表  |
| 4 自殺研究 (2)  | 9 犯罪 (2)    | 14 研究結果の発表  |
| 5 自傷行為      | 10 児童虐待 (1) | 15 まとめ      |

〔テキスト〕

〔参考文献〕講義中適宜指示する。

〔授業形態〕講義・演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕レポート 50 %、平常点 50 %

## 24704

### ㊦社会学演習Ⅳ

W 里見 脩

〔授業題目〕社会情報論ゼミⅣ

〔概要〕社会情報学を共通のテーマとして、発表、討議し、個々の研究テーマに関する論文を仕上げ、大学で学んだ成果を完成させる。

〔到達目標〕研究テーマに真摯に取り組み、論文を仕上げることを通じて、社会人としての「心」と「形」、そして「知力」を整える。

〔授業計画〕

- |                      |             |   |     |
|----------------------|-------------|---|-----|
| 1 前期のレビュー            | 9 発表と討議⑤    | 同 | (5) |
| 2 論文作成①作成のルール (1)    | 10 発表と討議⑥   | 同 | (6) |
| 3 論文作成② 同 (2)        | 11 発表と討議⑦   | 同 | (7) |
| 4 論文作成③ 同 (3)        | 12 論文の最終点検  |   |     |
| 5 発表と討議①個々の研究テーマ (1) | 13 大学での成果   |   |     |
| 6 発表と討議② 同 (2)       | 14 社会とは     |   |     |
| 7 発表と討議③ 同 (3)       | 15 定期試験・まとめ |   |     |
| 8 発表と討議④ 同 (4)       |             |   |     |

〔テキスト〕ピエール・ブルデュー、『メディア批判』、藤原書店

〔参考文献〕里見 脩「同盟通信社の戦時報道」『岩波講座「帝国」日本の学知』メディア巻 岩波書店

〔授業形態〕演習

〔成績評価の方法〕定期試験 50 %、発表と討論 50 %

## 24704

### ㊦社会学演習Ⅳ

W 田中晶子

〔授業題目〕社会心理学ゼミⅣ

〔概要〕各自が収集した文献や実験調査データを基に、卒業研究・卒業論文の執筆を行う。また、最終報告として各自の研究結果について発表を行い、受講生全体で結果を共有する。

〔到達目標〕収集した資料を用いて研究テーマをまとめあげ、設定した問題について自分なりの結論を見出すことを目標とする。

〔授業計画〕

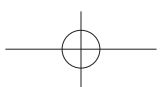
- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1 オリエンテーション     | 8 卒業研究・卒業論文の執筆⑦ |
| 2 卒業研究・卒業論文の執筆① | 9 研究報告会①        |
| 3 卒業研究・卒業論文の執筆② | 10 研究報告会②       |
| 4 卒業研究・卒業論文の執筆③ | 11 研究報告会③       |
| 5 卒業研究・卒業論文の執筆④ | 12 研究報告会④       |
| 6 卒業研究・卒業論文の執筆⑤ | 13 研究報告会⑤       |
| 7 卒業研究・卒業論文の執筆⑥ | 14 研究報告会⑥       |

〔テキスト〕なし

〔参考文献〕各自の研究テーマに応じて、講義中適宜指示する。

〔授業形態〕演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕発表 50 %、平常点 50 %



24704

㊦社会学演習Ⅳ

W 田原範子

〔授業題目〕生活世界の社会学4

〔概要〕人びとの相互行為、語り、思考、想起などの日常実践は、過去の単純な再現ではなく、それぞれの場面において能動的に社会にかかわりながら社会的世界を構築していく過程と考えることができる。そのような社会的世界と個人の世界との関係のなかで構成されるすべての人間行為、さまざまな社会や文化のなかのすべての場面で見られるルーティン化された慣習的行為を、テキストに添って理解することを試みる。

〔到達目標〕社会学演習全般を通して発掘した自らの問題意識を歴史的社会的背景のなかに位置づけて研究レポートを記述する。

〔授業計画〕

- |                  |                 |
|------------------|-----------------|
| 1 文化の場所          | 9 文化的差異と植民地的無意味 |
| 2 文化の理論          | 10 国民国家の周縁      |
| 3 アイデンティティ       | 11 行為媒体の問題      |
| 4 ポストコロニアルの特権    | 12 ポストモダンな空間    |
| 5 他者の問題          | 13 ポストコロニアルな時間  |
| 6 擬態と人間          | 14 文化翻訳の問題      |
| 7 植民地言説のアンビヴァレンス | 15 「人種」、時間、近代   |
| 8 アンビヴァレンスと権威    |                 |

〔テキスト〕ホミ・バーバ『文化の場所—ポストコロニアリズムの位相』法政大学出版局 2005年

〔参考文献〕講義中適宜指示する。

〔授業形態〕演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕平常点等40%、定期試験に替わるレポート60%

24704

㊦社会学演習Ⅳ

W 千葉モト子

〔授業題目〕家族社会学

〔概要〕社会学演習Ⅰ・Ⅱで学習した資料の収集、検索、整理などの研究方法、分析方法をさらに発展させる。

〔到達目標〕現代社会と家族をめぐる諸問題について、分析、考察を深め、その問題認識と解決方法について主体的に取り組み考える能力を修得させる。

〔授業計画〕

- |                        |                      |
|------------------------|----------------------|
| 1 家族のリスクについて           | 8 パラサイト・シングルの実態      |
| 2 シングル・ペアレント・ファミリーの問題  | 9 若者の結婚観の変化          |
| 3 ステップ・ファミリー（継親子家族）の課題 | 10 ドメスティック・バイオレンスの現状 |
| 4 共働き家族とジェンダーの問題       | 11 現代の若者の生き方—ニート問題   |
| 5 アメリカの家族の問題           | 12 ゲーム社会の到来          |
| 6 家族コミュニケーションと家族関係     | 13 リストラ、失業、過労死と家族    |
| 7 家族とペット               | 14 高齢社会における介護問題      |

〔テキスト〕

〔参考文献〕学生はクラスの数分のレジュメを準備する。講義中適宜指示する。

〔授業形態〕演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕レポート50%、発表・討論等平常点50%（2/3以下の出席は不可）

24704

㊦社会学演習Ⅳ

W 長野禎子

〔授業題目〕文化人類学ゼミⅣ

〔概要〕世の中にある様々なモノを「資源」として見ていくことによって、人間社会のあり方に光を当てようとする文化あるいは社会人類学の新しい分野、「資源人類学」の視座を学ぶ。

〔到達目標〕資源人類学の見方の特質を学び取る。学生は12月初旬に各自の2年間の研究成果を完成させる。

〔授業計画〕

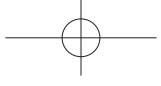
- |                             |                      |
|-----------------------------|----------------------|
| 1 オリエンテーション・卒論・卒研の組み立て方の注意点 | 8 観光資源と知的資源          |
| 2～3学生の研究テーマの発表と討論①          | 9～10学生の研究成果の発表・討論②   |
| 4 資源人類学の導入                  | 11 地域再生運動と資源         |
| 5 資源の問題群の構成                 | 12 再生資源の活用           |
| 6 生態資源と象徴資源                 | 13 資源の循環過程           |
| 7 文化資源の考え方                  | 14 資源のマネジメント—熱帯の資源管理 |
|                             | 15 資源の人間の意味          |

〔テキスト〕内堀基光・菅原和孝・印東道子、『資源人類学』日本放送出版協会

〔参考文献〕内堀基光監修『資源人類学』巻01～09、弘文堂

〔授業形態〕演習・発表・討論・双方向授業

〔成績評価の方法〕定期試験に替わるレポート50%、平常点50%



### 24704

#### ㊥社会学演習Ⅳ

W 中原隆幸

〔授業題目〕 経済問題を理論的に捉える

〔概要〕 本演習ではいくつかの経済的問題をあらかじめ設定し、与えられた問題を複数名のゼミ生が共同して研究することを目指す。併せて卒業研究の作成に役立つ技法を個別に時間外で教授する。

〔到達目標〕 様々な経済問題にチームを組んで対処し、一定の政策立案をできる様にする。

〔授業計画〕

- |                         |                       |
|-------------------------|-----------------------|
| 1 現代の経済問題にはどのようなものがあるのか | 8 全体的討論 (1)           |
| 2 年金・医療の経済問題：解説         | 9 経済危機の問題：解説          |
| 3 “ ”：問題点の整理            | 10 “ ”：問題点の整理         |
| 4 “ ”：解決の為に必要なことを考える    | 11 “ ”：解決の為に必要なことを考える |
| 5 経済格差の問題：解説            | 12 日本経済の未来を考える：解説     |
| 6 “ ”：問題点の整理            | 13 “ ”：問題点の整理         |
| 7 “ ”：解決に必要なことを考える      | 14 “ ”：解決の為に必要なことを考える |

〔テキスト〕 特に指定しない。

〔参考文献〕 個別の問題に沿って適宜指示する。

〔授業形態〕 演習・発表・対話・討論

〔成績評価の方法〕 発表 30 %、チーム内の検討度 40 %、レポート 30 %

### 24704

#### ㊥社会学演習Ⅳ (情報社会論)

W 鍋谷史郎

〔授業題目〕 ユビキタス・ネットワーク

〔概要〕 ユビキタス・ネットワークの社会変革力について考察し、それによって創造される事業モデル、新市場とはどのようなものかを産業論的な視点から学ぶ。さらに、日本が世界のフロントランナーになるための条件を考える。

〔到達目標〕 情報社会を生きる人間として要求される素養に磨きをかける。すなわち、自分の考えを発表し、討議する能力を身につけることを目指す。

〔授業計画〕

- |                |              |                |
|----------------|--------------|----------------|
| 1 オリエンテーション    | 6 情報通信産業の融合② | 11 R & D戦略     |
| 2 ユビキタスへの道程    | 7 情報通信産業の融合③ | 12 サービス化       |
| 3 「u-Japan 政策」 | 8 プロダクト革新    | 13 経営機能革新      |
| 4 新しいITパラダイム   | 9 革新的事業モデル   | 14 日本発の商品・サービス |
| 5 情報通信産業の融合①   | 10 Uサービス     |                |

〔テキスト〕 野村総合研究所著、『ユビキタス・ネットワークと市場創造』、野村総合研究所

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 演習・発表

〔成績評価の方法〕 定期試験に替わるレポート 60 %、平常の成績 40 %

### 24704

#### ㊥社会学演習Ⅳ

W 山本 誠

〔授業題目〕 文化人類学ゼミⅣ

〔概要〕 この最終学期では、主としてグローバル化を前提に展開されている人類学の新たな動向を扱いたい。これまでに学んだ人類学的な視点を様々な領域に応用・発展させていきたい。

〔到達目標〕 (演習全体を通じて) 受講生各自、卒業後も関心を抱き続けられるような「自分の」テーマを発見していただきたい—そう願っている。

〔授業計画〕

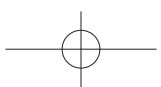
- |                          |                 |
|--------------------------|-----------------|
| 1 オリエンテーション              | 8 「環境人類学」を検討する  |
| 2 「医療人類学」を検討する (予定、以下同様) | 9 “ ”           |
| 3 “ ”                    | 10 「観光人類学」を検討する |
| 4 「障害の人類学」を検討する          | 11 “ ”          |
| 5 「スポーツ人類学」を検討する         | 12 「映像人類学」を検討する |
| 6 「開発人類学」を検討する           | 13 “ ”          |
| 7 “ ”                    | 14 まとめ          |

〔テキスト〕 教材の選択は受講生と相談の上、決定する。

〔参考文献〕 授業の中で適宜紹介する。

〔授業形態〕 演習・討論・AV機器使用

〔成績評価の方法〕 発表 50 %、質疑応答 30 %、その他平常点 20 %



## 24704

### ㊤社会学演習Ⅳ

W 藤原徹三

〔授業題目〕 企業経営研究ゼミⅣ

〔概要〕 「経営の基本」を中心に講義。併せて、学生の研究テーマの最終発表を中心に全員で討議を行う。

〔到達目標〕 選択したテーマの理論体系づけを行いまとめあげる。

〔授業計画〕

- |                        |                         |
|------------------------|-------------------------|
| 1 オリエンテーション            | 8 学生の研究発表及び経済問題の解説を行う。  |
| 2 「経営の基本、心得」講義         | 9 学生の研究発表及び経済問題の解説を行う。  |
| 3 「経営の基本、心得」講義         | 10 学生の研究発表及び経済問題の解説を行う。 |
| 4 「経営の基本、心得」講義         | 11 学生の研究発表及び経済問題の解説を行う。 |
| 5 「経営の基本、心得」講義         | 12 学生の研究発表及び経済問題の解説を行う。 |
| 6 学生の研究発表及び経済問題の解説を行う。 | 13 学生の研究発表及び経済問題の解説を行う。 |
| 7 学生の研究発表及び経済問題の解説を行う。 | 14 社会人としての心構え           |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 発表・討論・時事解説

〔成績評価の方法〕 発表 70 %、平常点 30 %

## 24712

### ㊤社会学特殊講義 都市空間論

S 三谷幸司

〔授業題目〕 都市空間論

〔概要〕 私たちは日常の生活で建築や都市の空間を常に体験し、その空間から大きな影響を受けているにもかかわらず、これを空間として認識している人は少ない。本講義では都市の空間を、身近な事例を通してその意義や問題点について考察する。本学キャンパス空間についても考察する。

〔到達目標〕 建築・都市の空間を再認識することを目指す。

〔授業計画〕

- |                |                       |
|----------------|-----------------------|
| 1 空間とは         | 8 レポートのプレゼンテーション      |
| 2 外部空間の構成      | 9 本学キャンパス空間の構成        |
| 3 生活空間としての都市構造 | 10 緑の建築・緑の都市          |
| 4 街路空間         | 11 集合住宅による街づくり        |
| 5 水の空間         | 12 地域の特性を生かした建築・都市づくり |
| 6 都市の広場        | 13 地域の街づくり            |
| 7 日本の都市空間      | 14 風土と都市・建築           |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義・発表

〔成績評価の方法〕 レポート 50 %、ミニレポート 50 %

## 24718

### ㊤社会学特殊講義 人口減少時代の都市社会 W 三谷幸司

〔授業題目〕 人口減少時代における都市社会

〔概要〕 関西は今、人口減少化時代を迎えようとしている。空地、空き家の発生が中心市街地を衰退させている。われわれは、都市が経済成長に支えられて拡張、拡大をつづけるものと考えてきたが、これから迎える人口減少化と高齢化の時代においては、拡大思考から縮小思考に都市社会のあり方を大きく切り変えていく必要がある。

〔到達目標〕 人口減少化時代において発生する都市の課題を把握し、今後の都市社会のあり方を再認識することを目指す。

〔授業計画〕

- |                    |                      |
|--------------------|----------------------|
| 1 オリエンテーション        | 8 レポートのプレゼンテーション     |
| 2 拡大してきた都市         | 9 中心市街地の活性化          |
| 3 人口減少社会への転換       | 10 都市住居について考える       |
| 4 既存ストックを生かした都市づくり | 11 団地の再生を考える         |
| 5 都市のストックの寿命とリスク   | 12 農ある暮らしの可能性        |
| 6 公共交通を生かした町づくり    | 13 アメリカの次世代の都市づくりの試み |
| 7 路面電車が町をつくる       | 14 コンパクトシティ          |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義・発表

〔成績評価の方法〕 レポート 50 %、ミニレポート 50 %